

福知山公立大学2018地域活性化策コンテスト 田舎力甲子園 6入賞“策”目次

●最優秀賞

日々のうたごえPROJECT ～「なんもない」それがサイコーな地元～
(宮崎県立小林秀峰高等学校 調査研究班：商業科・経営情報科3年11人) ----- 1

●優秀賞

宇久島PRに向けた地域活性プロジェクト ～宇久島の食材を使った商品開発～
(長崎県立宇久高等学校 地産食品開発班：普通科3年10人) ----- 30

●佳作

いわきの NEW Food!! その名も「カジ〇」
(福島県立湯本高等学校 家庭倶楽部：普通科3年17人) ----- 58

時空を乗り越えたつながりを ～平成最後の虫送り 杏和高校の挑戦～
(愛知県立杏和高等学校 地域研究：総合学科3年15人) ----- 68

Heartful action in 口熊野かみとんだ ～SDGs(エス・ディー・ジーズ)に基づく貢献活動～
(和歌山県立熊野高等学校 家庭クラブKumanoサポーターズリーダー：52人) ----- 127

命と文化が光る、笑顔の里づくりを目指して ～地域資源の発掘と、新たな農村経済のしくみづくり～
(熊本県立菊池農業高等学校 グリーンライフ研究班：農業科2～3年3人) --- 159

福知山公立大学 2018 地域活性化策コンテスト

田舎力甲子園

i-1 Grand Prix of High School Students 2018

ニッポンの田舎を元気にする高校生のアイデア、全国募集します！
目指せ、ローカルデザイナー！！



本学は京都府北部の福知山市にある公立大学です。ここ北近畿エリアをはじめ、ニッポン全国の地方都市・農山漁村は何処も少子高齢化や地域経済の活力低下という社会的問題に直面していますが、これら諸課題に対する解決策の一つとして「田舎」の持つ内発的発展力が注目されています。

そこで「田舎^{りよく}力甲子園」と題して全国の高校生から地域活性化策のアイデアを募集し、2013年から表彰を行ってきました。新たな田舎料理・スイーツ等の開発、SNS等インターネット活用による地域情報の受発信、地域医療福祉に関する環境整備、グリーン・エコ・ヘルス等の「ニューツーリズム」や自然エネルギー利用による地域再生プラン等、内容は自由です。是非ご応募ください。

●主催：福知山公立大学「田舎力甲子園」実行委員会 ●後援：内閣府地方創生推進事務局・京都府・福知山市

●対象：全国の高校生（個人・グループいずれも可）等

●様式：論文・企画書・動画・アニメ等いずれも可、字数・枚数・分量も自由 ●言語：日本語もしくは英語

●表彰：最優秀賞 1組に賞状と副賞（旅行券または図書カード6万円分）

優 秀 賞 1組に賞状と副賞（旅行券または図書カード3万円分）

佳 作 若干組に賞状と副賞（旅行券または図書カード1万円）

奨 励 賞 若干組に賞状

●応募締切：2018年6月22日（金） ●結果発表：2018年7月6日（金） ●表彰式：2018年7月21日（土）

●実行委員：◎は委員長 ☆は副委員長 括弧内は（職名：専門分野）

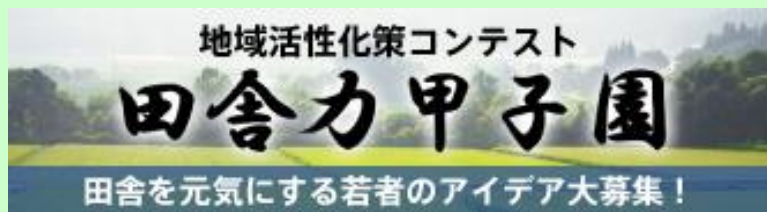
井口和起◎（福知山公立大学学長：歴史学）

塩見直紀☆（半農半X研究所代表・本学准教授：ローカルデザイン） 中尾誠二☆（本学教授：農村振興）

富野暉一郎（副学長：地方自治） 平野真（地域経営学部長：国際経営）

矢口芳生（地域経営学科長：農業経済） 芦田信之（医療福祉経営学科長：遠隔医療） 本学教員《要項参照》

《ご応募・お問い合わせ先》 〒620-0886 京都府福知山市堀3370 福知山公立大学「田舎力甲子園」実行委員会
Tel: 0773-24-7100 Fax: 0773-24-7170 Mail: inakaryoku@fukuchiyama.ac.jp



田舎力甲子園

i-1 Grand Prix of High School Students 2018

ニッポンの田舎を元気にする若者のアイデア今年も全国から大集合！

〔審査結果〕および〔表彰式・記念シンポジウム〕のご案内

福知山公立大学「田舎力甲子園」実行委員会では、2018年1月から約半年間、全国の高校生等を対象に地域活性化策を募集しました。その結果、個人10 + グループ47 = 計57策の応募があり、当委員会での審査を経て次の通り表彰17策を決定しました。

- 最優秀賞：日々のうたごえPROJECT ～「なんもない」それがサイコーな地元～
宮崎県立小林秀峰高等学校 調査研究班：商業科・経営情報科3年11人
- 優秀賞：宇久島PRに向けた地域活性プロジェクト ～宇久島の食材を使った商品開発～
長崎県立宇久高等学校 地産食品開発班：普通科3年10人
- 佳作：いわきのNEW Food!! その名も「カジ〇」
福島県立湯本高等学校 家庭倶楽部：普通科3年17人
時空を乗り越えたつながりを ～平成最後の虫送り 杏和高校の挑戦～
愛知県立杏和高等学校 地域研究：総合学科3年15人
Heartful action in 口熊野かみとんだ ～SDGs(エス・ディー・ジーズ)に基づく貢献活動～
和歌山県立熊野高等学校 家庭クラブKumanoサポーターズリーダー：総合学科・看護科1～3年52人
命と文化が光る、笑顔の里づくりを目指して ～地域資源の発掘と、新たな農村経済のしくみづくり～
熊本県立菊池農業高等学校 グリーンライフ研究班：農業科2～3年3人
- 奨励賞：赤いオーロラITプロジェクト 青森県立十和田工業高等学校 teamTRIP(放送委員会&コンピュータ部)
意外！これが越生町！ (埼玉)清和学園高等学校 生徒会：普通科3年9人
佐渡初「水上アスレチック」で佐渡の海を盛り上げたい！OceanEvolution 新潟県立佐渡中等教育学校 チーム「With us」
ジョブシャドウイングでふるさととつながる (京都)日星高等学校 特進コース：普通科3年8人
妖怪移住プロジェクト 鳥取城北高等学校：普通科3年3人
島前地域における遊休農地問題解決の政策アイデア 島根県立隠岐島前高等学校：普通科3年 前田陽汰
1year jam 実践編 ～彩りある矢掛町の月をジャムで～ 岡山県立矢掛高等学校：普通科3年5人
島での在宅ワークでモチベーションをアップ！～瀬戸内の島々の活性化～ (岡山)明誠学院高等学校：普通科3年 原成那
三原活性化プロジェクト～特産物を活かしたレストラン作り～ 広島県立三原高等学校：普通科3年3人
五島ピザは五島市を救えるか。 長崎県立五島高等学校 五島ピザ開発委員会：普通科2年6人
“REPEATOWN” 新上五島町～また、帰りたくなる島～ 長崎県立中五島高等学校 まちづくり班：普通科・商業科3年6人

●表彰式・記念シンポジウム 開催日時：2018年7月21日(土) 13時30分～15時30分

●会場：福知山公立大学4号館 ●参加費：無料(どなたでも参加いただけます)

●パネリスト：塩見直紀(半農半X研究所 代表・本学 准教授)、平野真(本学 地域経営学部長)



福知山公立大学 2018 地域活性化策コンテスト「田舎力甲子園」

日々のうたごえPROJECT

—「なんもない」それがサイコーな地元—

宮崎県立小林秀峰高等学校

商業科・経営情報科 課題研究 調査研究班

【発表者】	有村友里	大迫廉	坂元悠乃	竹山花穂
	永江京	永崎綾菜	西咲春	抜迫麗羽
	有島若菜	稲田萌乃	原賀玲奈	
【指導者】	瀧口尚志	松澤総子	墓本晃一	別府妙香



目次

🎥 第1章 現状把握	2
1-1 はじめに	2
1-2 改善と新たなメソッドの採用	3
1-3 Observe (観察:みる)	3
1-4 Orient (状況判断:わかる)	5
1-5 仮説の設定	5
🎥 第2章 実践	6
2-1 Decide (意思決定:きめる)	6
2-2 Action (行動:うごく)	6
①うたを学ぶ	6
②歌詞をつくる	7
③イベント ～「コバ歌バトル」の実施～	11
④新聞広告の掲載	15
⑤YouTubeに公開	16
🎥 第3章 検証	18
3-1 Web・SNS上での反応	18
3-2 YouTubeの再生回数	20
3-3 テレビ番組	22
🎥 第4章 成果と課題	24
🎥 第5章 終わりに	26

宮崎県小林市ミュージックビデオ

『田舎女子高生』



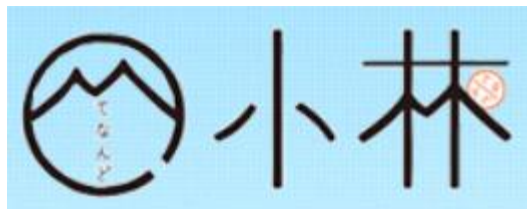
🎥 第1章 現状把握

1-1 はじめに

私たちはこれまで、地域の“情報発信”を大きなテーマに掲げ活動してきました。

【私たちの活動の変遷】

- H24 SNSを利用した情報発信
- H25 こばやしFaceBookプロジェクト
- H26 農家民泊支援団体との連携
- H27 フリー雑誌との連携
- H28 WebCMの制作①“山奥”篇
- H29 WebCMの制作② サバイバル下校



なかでもここ3年間は『てなんど小林プロジェクト』の活動と連携し、地元小林市を全国にPRするWebCMの企画・立案を行い、インターネットや全国区の情報番組などにも取り上げていただき、大きな話題となりました。

私たちが制作に携わったWebCMの視聴回数は、6月17日現在、以下のとおりとなっています。

公開日	作品の切り抜き	視聴回数(YouTube)
2015/12/17		<p>134,704 回</p>
“山奥”篇		
2016/11/03		<p>273,410 回</p>
サバイバル下校		

昨年度発表した「サバイバル下校」の公開にあたっては、動画の拡散方法を工夫し、“山奥”篇を大きく上回る約2倍の視聴回数となり、より多くの方に視聴していただくことができました。その結果、テレビに取り上げてもらうことができ、『小林市』を、全国の方々に認知してもらえたのではないかと自負しています。



1-2 改善と新たなメソッドの採用

昨年度実施したPDCAサイクルにおいて、次の取り組みに向けての改善策が明らかになっていました。それは、全国の地方自治体が「ご当地PR動画」を制作し始めて久しい今日、PR動画制作に携わる私たちでさえもそう何度も「PR動画」を視聴する行動は起こしません。SNSやインターネット、テレビなどで話題になった時に一度視聴し、その後はよほど気に入ったものでなければ繰り返し視聴されることはないということから、

○ 何度も視聴したくなる仕掛け作り

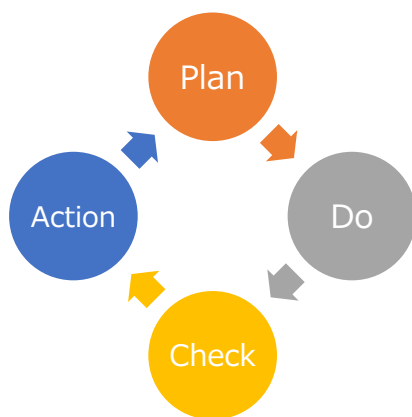
が必要であるということが明らかになっていました。

そこで私たちは今年度、**OODAループ**^(*1)というPDCAサイクルに変わる新たなビジネスメソッドを利用し、環境の分析・分析結果を踏まえた方向づけ・意思決定・実行にあたっていくことにしました。

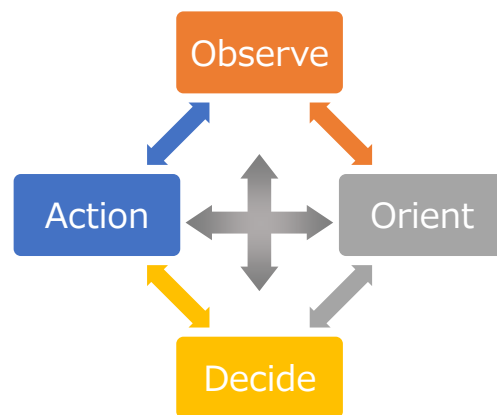
(*1) OODAは、アメリカで生まれたビジネスメソッドで、もともとは朝鮮戦争の時にある米国空軍パイロットが提唱した方法。孫子の兵法やトヨタ経営方式をベースに生まれたとされる。イラク戦争時にその有用性が実証され大きく注目された。その後、日本でもビジネスの現場でも一気に応用が広がっている。

OODAとは、Observe（観察：みる）、Orient（状況判断：わかる）、Decide（意思決定：きめる）、Action（行動：うごく）の頭文字をとったもの。その名の通り、目標を達成するための要素を4つの段階に分けて成功に導く方法で、迅速で柔軟かつ合理的な判断（意思決定）を実現する業務プロセスの枠組みを示したものである。

(<https://www.jscore.co.jp/column/lifestyle/2017/ooda/>より引用・加筆修正)



PDCAサイクル



OODAループ

1-3 Observe（観察：みる）

OODAループの大きな特徴は、私たちの活動進捗がどこまで進んでいても、状況が変わってくれば、臨機応変に行動を変えられる点にあります。まずはじめに、これまでの私たちの活動と全国の地方自治体が公開しているPR動画を取り巻く環境について観察することにしました。マーケティング環境分析のフレームワークである3Cに落とし込んでみました。

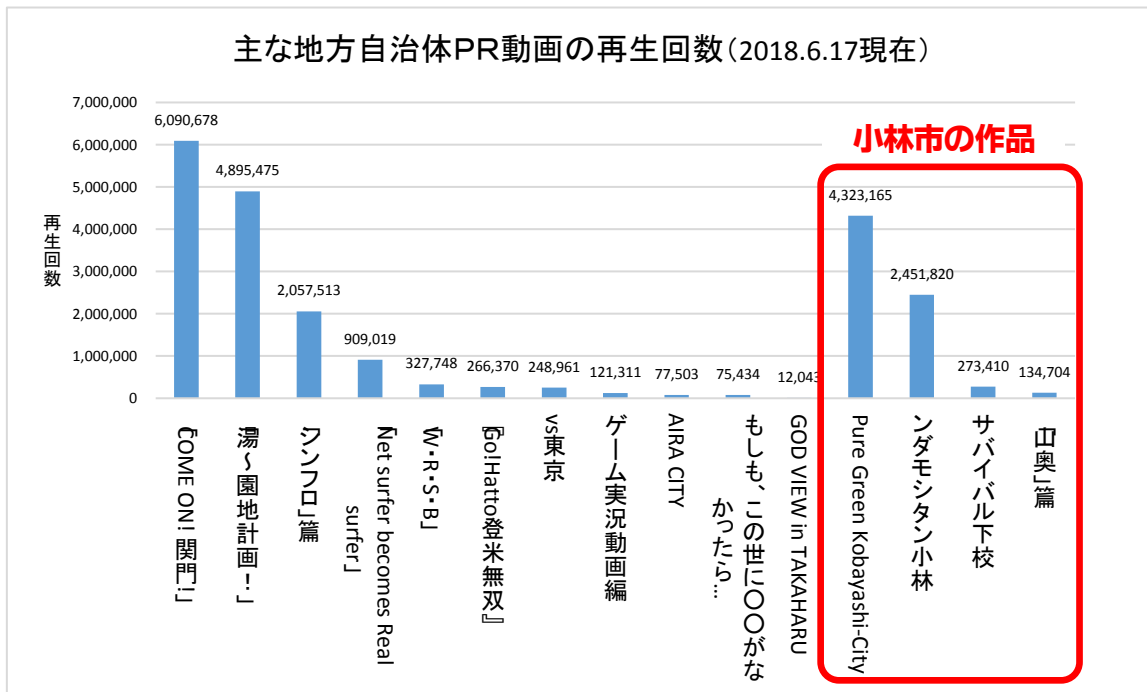
現在、地方自治体が制作する「PR動画」は年間700本ほどにものぼります。3年前からは移住促進動画を制作する市町村に、国が制作費の一部を交付するようになったことも『PR動画戦国時代』の要因になっているに違いありません。



日々のうたごえPROJECT

テレビCMとは異なり、広告費が掛からないYouTubeなどの動画サイトでの公開がそのほとんどですが、制作費は掛かります。国からの補助も、その源泉は「税金」です。制作費をかけても日の目を見ない動画が数多くあることが環境分析の結果見えてきました。

下記のグラフは、10,000回の再生で『成功』と言われる地方自治体PR動画において、『成功』を収めている作品の再生回数です。



3C分析のまとめ

Customer 【動画市場/PR動画市場】	Competitor 【全国の地方自治体】	Company 【小林市(本校)】
<ul style="list-style-type: none"> ◎YouTubeの閲覧者は月間15億人。(H29.6オンライン動画の祭典「VidCon」にて公式発表) ◎歌やダンスの動画を投稿する人や閲覧する人が多い。 ◎地方自治体で作るPR動画は年間700本にもなる。(6/14NHKより) ◎国が制作費の一部を交付する制度がある。 ●新たなPR動画が公開されても、<u>動画自体に何らかの仕掛けがなければ拡散されない。</u> ●内容が地方自治体のPRに合致せず、炎上する動画もたびたび見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎SNSやテレビで話題となる動画が公開されている。 ◎ストーリー性のある動画が多く公開されている。 ◎テレビCMと異なり費用の掛からないYouTubeなどの動画サイトにおいて公開されている。 ●当然ながら、“我が街を訴求する作品ばかり”である。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎小林市の景色を空撮した「Pure Green Kobayashi-city」は、地方動画のパイオニア大分県別府市の「湯〜園地計画!」に並ぶ勢いがある。 ◎第1弾「ンダモシタン小林」のYouTube再生回数は地方自治体PR動画の中でもトップクラス! ●「山奥」篇と「サバイバル下校」を私たちが企画したが、全国の名だたる作品と比較すると再生回数は伸びていない。



1-4 Orient (状況判断：わかる)

再生回数2,400,000回の「ンダモシタン小林」の制作費用は約200万円ですが、その広告効果は10億円を超えると試算しています。加えて、ふるさと納税の寄付金額は、平成26年度が1億3000万円だったのに対し、動画公開後は年々その額が増加し、平成29年度は8億4000万円となっています。この結果、小林市内の小中学校において保護者が負担する給食費は半額に、子どもに対する医療費助成も拡大されました。「移住促進」「知名度UP」などがPR動画を作る目的ではありますが、PR動画を制作しその動画で『成功』を収めることができれば、副次的な効果も期待できるようです。

分析を進める中で、私たちは地方自治体が制作するPR動画は“**我が街を訴求する作品ばかりである**”ことがわかりました。当然なことではありますが、私たちが次に企画する作品においては、「小林市」を訴求することなく、上手くこちらの意図するものを伝えられる作品にしなければならないとの思いを強くしました。

また、「何度も見たくなる仕掛けづくり」を行うにあたり、「3C分析のまとめ」に示した下線部を拾い上げました。

その結果、今年度の活動計画が見えてきました。それは、「小林市の関係人口のリソース（資源）を活用し、**動画だけで勝負するのではなく、「音楽」にチャレンジ**してはどうだろうか。」ということです。

1-5 仮説の設定

これまでの活動の振り返りとOODAループ（①Observe、②Orient）に則って分析し、今年度の活動計画を見出した私たちは、活動を実践して行くにあたり、次のような仮説を設定しました。

仮説1

・小林市のPRに固執せず、「全国の田舎」をPRする取り組みとすることで、市外・県外在住者からも共感を得られるのではないかな。

仮説2

・動画に音楽を融合させることで、動画の視聴だけでなく、音楽として楽しんでもらえるのではないかな。

仮説3

・音楽コンテンツに挑戦することで、Webやテレビ以外のメディアで取りあげられる機会が増えるのではないかな。

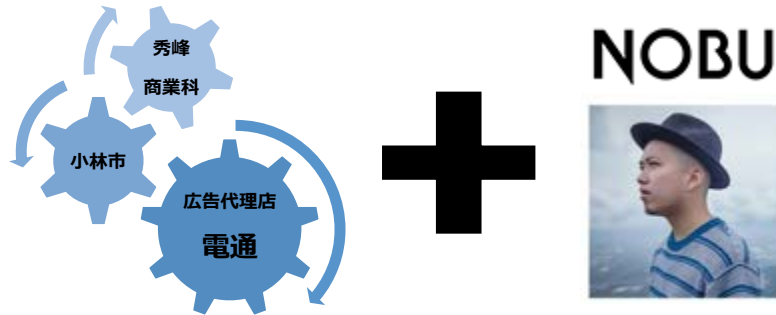
これまで同様、私たちの活動の取り組みはFacebookやてなんど小林プロジェクトのWebページで発信し、「小林市がまた楽しいことを始めたぞ！」と行ってもらえるような仕掛けも忘れません。

第2章 実践

2-1 Decide (意思決定:きめる)

私たちはこれまでの、産（電通）学（本校）官（小林市）連携に加え、新たに小林市の関係人口から音楽の分野を担って頂けるリソース（資源）を探すことになりました。

その旨を小林市役所地方創生課の柚木脇大輔様にお伝えしたところ、小林市出身で現在は音楽活動をされている**NOBUさんが私たちの活動に協力していただける**との連絡があり、新たな産学官連携のスタートが決まりました。



2-2 Action (行動:うごく)

①うたを学ぶ

歌に挑戦するために、まず私たちは自身が共感する歌を調べ、互いに発表をしました。普段何気なく聴いている曲も、詞を言葉として捉え、その情景や作詞者の思いを捉えようとすると、その意義深さに気付かされます。私たちメンバーが、ワークショップに入るにあたり、好きな歌・共感する歌は以下のような歌でした。

	共感する歌	どんなところが好きか	視聴シーン
1班	果敢ない壁 /桐崎栄二	前向きな歌詞/元気をもらえる/勇気もらえる	くじけそうになるとき/告白するとき/気分をあげたいとき
2班	3月9日 /レミオロメン	背中を押してもらえる/感情移入する	卒業/結婚や引っ越しなどで環境が変わるとき
3班	ともに /WANIMA	前向きになる/励まされる/元気が出る	落ち込んだとき/迷い悩んだとき
4班	SNOW SMILE /清水翔太	会いたい人がいる、その人が好き なんだという気持ちに共感できる	寂しいとき/喧嘩したとき/ 会いたい気持ちがピークに達したとき
5班	道 /GR ee e e N	共感しやすい/前向きになれる/背中を押してもらえる	上手くいかないとき/元気を出したいとき/悩んだとき/前に進みたいとき
6班	栄光の架け橋 /ゆず	元気が出ない出せないときでも元気がもらえる	気持ちを高めたいとき/元気が欲しいとき

この発表を受け、私たちは俄然やる気になりました。これから取り組むことになる「歌詞作り」の大変さを知るようになるうとは…。



日々のうたごえPROJECT

4人6チームに分かれて、ワークショップが始まりました。この日に向けて、すでに市場に流通している歌を数多く耳にし、“うた”についての感覚を高めていた私たちでしたが、当然の如く歌詞など書いたことはありません。

何も知らない私たちのもとに、NOBU先生が来校されました。この企画に対するNOBU先生の思い、地元に対する思いなどをお伺いし、NOBU先生が生歌を披露して下さいました。“うた”が持つ力、歌詞に込められているメッセージを感じ取り、歌詞の作り方講座に入りました。

まずは、世の中の歌の歌詞をメンバーで一緒に見ていきます。

「なぜこんな言い回しになっているのか？」

「この言葉にはどんな意図があるのか？」

当然ながら、初めて耳にすることばかりでした。歌詞についての知識を得て、第1回目のワークショップを終えました。



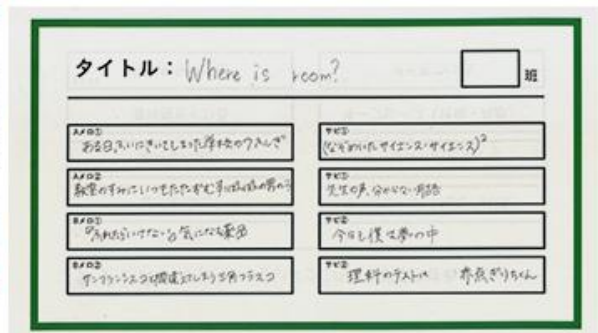
STEP 1 世の中の歌の歌詞を観察しよう



②歌詞をつくる

歌詞について学んだ私たちではありますが、それだけで歌詞は書けません。そこで、歌詞作りには欠かせない、“アイデア”を産み出すトレーニングを行いました。今回は“インターネット”から離れ、まずは付箋紙を使ってのブレインストーミングで、アイデアを生む訓練を行いました。そして次なる活動はいよいよ“作詞”です。「考えるより、やってみる。」私たちのこれまでの活動の基本です。

実際に歌詞を書いてみることにしました。初めての作詞テーマは『理科室』。理科の先生にお願いし、理科室の観察を行いました。普段、何事もなく使用する理科室ですが、よく観察してみると、不思議なものやここにしかないものなど、ものの多さに気付かされました。目で見たものを、感じるままにメモ。さまざまなキーワードを拾い上げることができました。



STEP 2 身近なものをテーマに歌詞を書いてみよう テーマ「理科室」



日々のうたごえPROJECT

初めての作詞。各チームとも見つけてきたキーワードを元に一つの歌詞を書き上げました。最終的に、各チームの“いいとこ取り”となりました。NOBU先生が一度持ち帰り、曲を付けてくださいました。テーマ「理科室」で完成した歌詞がこちらになります。

Burnig Heart

作詞：小林秀峰高校生 作曲：NOBU

♪ Burning Heart

燃え上がった 僕の心にも火を付けた
黄ばんだ水道 転がる消しゴム
教室から始まった 君への恋 君へのLove

冬の教室寒くて震えてる 冷え切った僕を暖めてくれた君
君は誰を見てるの 身長性格だってきっとかなわないけど
まるで君はアルコールランプのように

♪ (繰り返す)

アルコールランプを擬人化。
この詞は各班の合作で完成しました。

とても、「理科室」をテーマに書いたとは思えない、いい曲になっていると思いませんか？この曲を聴かれた先生や本校の生徒からの反応が良く、自信につながりました。

作詞について、なんとなくコツを掴んだ私たち。次はいよいよ「田舎」について歌詞を書き始めることになりました。「何を伝える？」「どういった表現やモチーフをつかう？」「どんなストーリーにしたい？」など、各チームとも活動時間はもちろん、休み時間や放課後もメンバーで集まって熱い議論を重ねました。

議論を重ねたネタを持ち寄り、いよいよ“小林市PRミュージック”のワークショップです。まずは、テーマやモチーフを考えます。



STEP 3 テーマやモチーフを考えよう

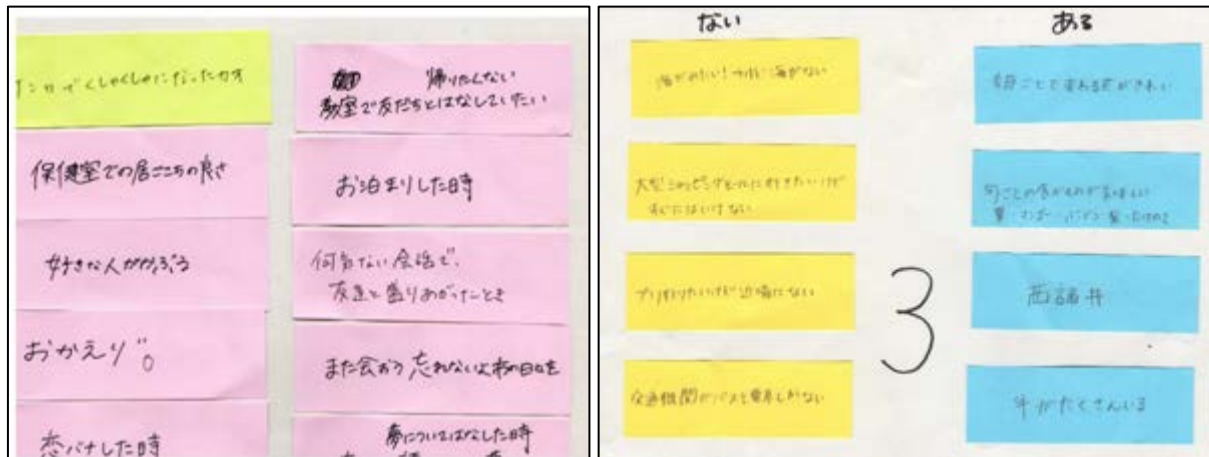
「あーでもない」「こーでもない」と言葉を交わしつつ、時には付箋を使ってフレーズやワードを書き出します。今回、**あえて「小林市」に関連するワードを禁じる**ことで、思いもよらない言葉に出会ったり、一度いいところまで書いてはみたものの、うまくいかず、また一からやり直すなど、産みの喜びと苦しみを味わいました。



日々のうたごえPROJECT



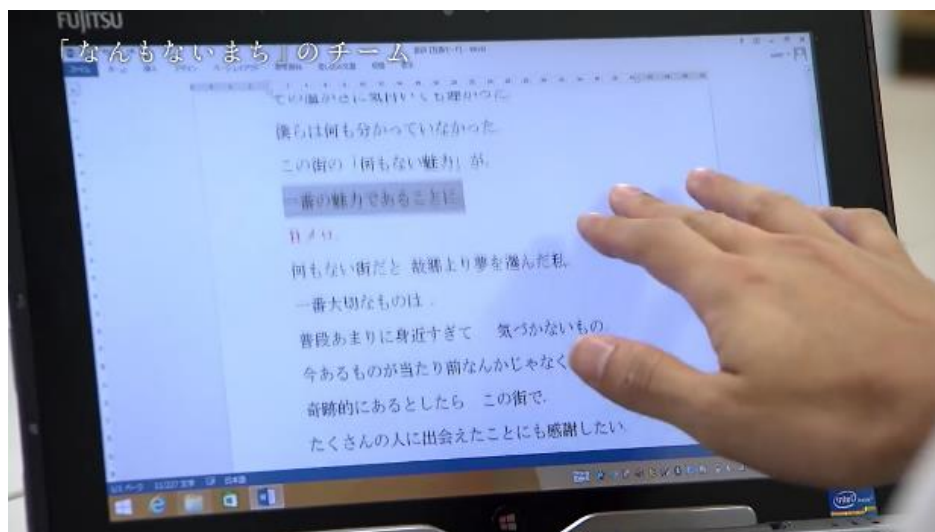
STEP ① フレーズを組み合わせていこう



どのチームもなかなか歌詞作りが進まなくなってきた頃、NOBU先生が再び来校してくださいました。

まだ書き上げていないチーム、PCトラブルにより、書き上げた歌詞がなくなってしまうなどの不運に見舞われたところもありましたが、NOBU先生は私たちの思いや拙い歌詞からイメージを膨らませ、即興で曲をつけてくださいました。

すると、これまでのモヤモヤや不安が一転、急にイメージが湧いてきました。ここで一気に仕上げに向けて書き進めます。

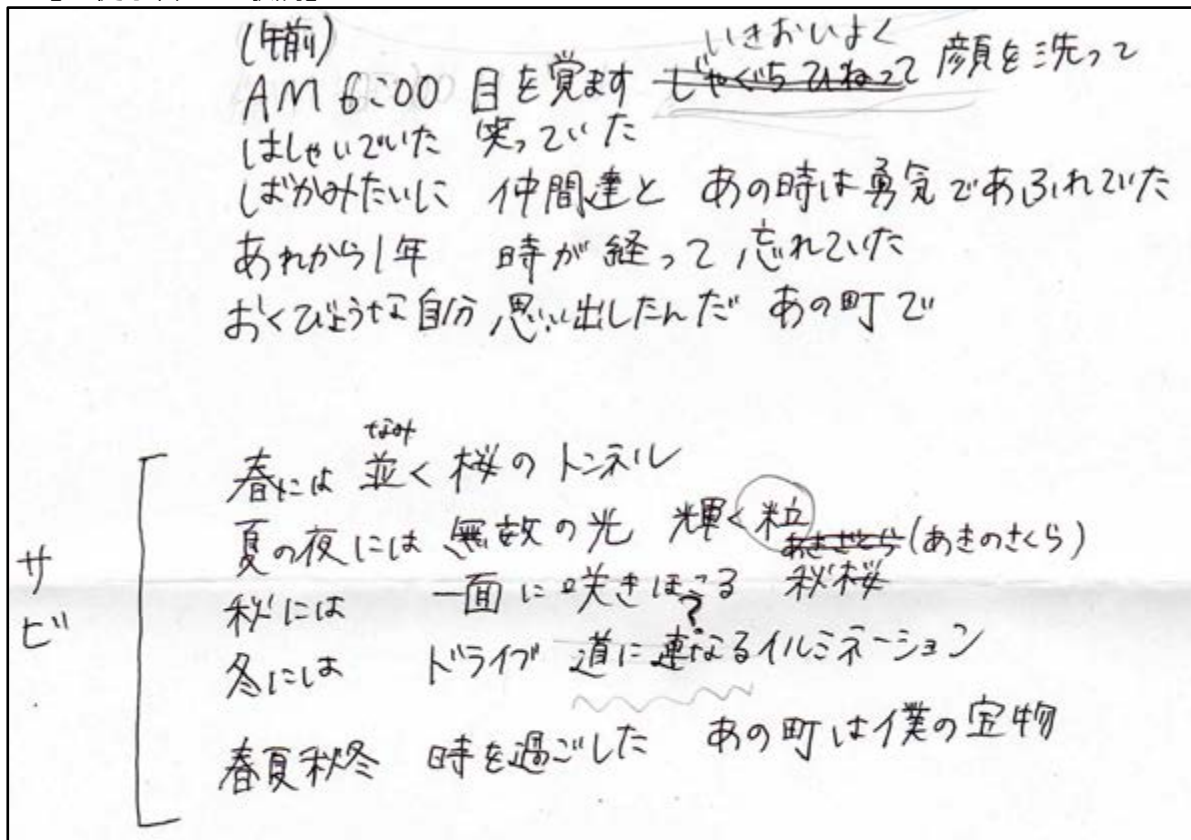




STEP 5 実際に曲をつけてもらおう

NOBU先生にヒントをもらった私たちは、他のチームに負けない作品を作り上げるため、休み時間返上で歌詞作りに励みました。

【生徒手書きの歌詞】



昨年度までのPR動画制作では、課題研究調査研究班のメンバーと電通の越智先生、小林市役所の柚木脇さん、そして課題研究を担当する先生方みのクローズドの状態最終プレゼンを行い、1人1票での投票の結果“1位”となった班の企画が映像化されるという「企画バトル」を行ってきましたが、今回はより多くの“関係者”を巻き込むため、次のようなステップを踏んでいくことになりました。



各チーム、完成した歌詞をNOBU先生に提出

NOBU先生が作曲

11/25(土)鈴懸祭(文化祭) **コバ歌バトル**開催

全校生徒の前で6曲をNOBU先生が披露 その後 **全校生徒が投票**

その場でミュージックビデオ化する作品が決定!

本校文化祭「鈴懸祭」が11月25日(土)に行われます。学校長に実施の許可を頂き、鈴懸祭(文化祭)終了後に、私たちが企画するイベント「**コバ歌バトル**」を実施できることになりました。

私たち調査研究班全6チームが書いた歌詞が、この日、“**うた**”となって全校生徒に披露されます。私たちの取り組みを応援して下さいの多くの方々との繋がり、小林市の持つ『関係人口』のリソース(資源)のおかげでこのイベントが実施できることに、ただただ感謝しかありませんでした。そして、刻一刻とその日が近づくにつれ、胸の鼓動が高まって行くのでした。

③イベント ～「コバ歌バトル」の実施～

そしていよいよ当日。私たちのワークショップをキックオフの時から密着取材して下さったUMKテレビ宮崎の武田華奈アナウンサーに来校していただき、このイベントを盛り上げていただきました。



はじめに、武田アナウンサーと越智先生、そしてNOBU先生に今回の企画のこの日までの取り組みと、本日、できあがった楽曲をNOBU先生が生歌で初披露し、全6曲を聴き終えた後、全校生徒に投票を行ってもらい、見事1位となったチームの歌が小林市の公式PRソングとしてミュージックビデオが制作されることを説明していただきました。

投票については、その実施方法について事前に考えましたが、最終的にタブレットPCを使って一人ひとりにボタンをクリックしてもらうことで、瞬時に集計が行えるプログラムを使った方式を採用することに決定!

コバ歌バトルの様子



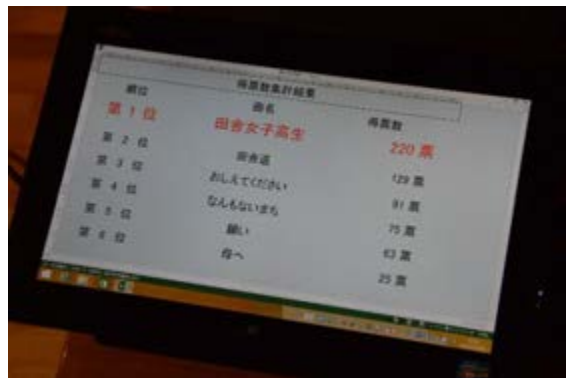
当日の発表曲順と、各グループの最終的な歌詞は次の通りです。

<p>願い</p> <p>同じまに生まれてきて あなたと過ごした日々 バカみたいにはしゃいだ日々 やり残したことはないか？</p> <p>1</p> <p>小さかったはずなのに灯が 今も心に燃し、燃して 切れない、この思いは あなたを照らす光となれ</p> <p>届け届けと願った このまじの気持ち あなたと私の思いが 変わらぬよう 強くようにと</p> <p>届け届けと歌った 夜空の星屑に あなたとわたしの思い出 忘れぬよう 光り続けと願う</p>	<p>おしえてください</p> <p>ここはそんなにいいですか ホントにそんなにいいですか 僕が帰って言うけれど 都会は夜更けが綺麗じゃないか？</p> <p>3</p> <p>水が美味、空が綺麗、夕日とか 電車が走る駅舎の音が 綺麗、空が綺麗、夕日とか そんな日は私に会えるだろうか</p> <p>おしえてください 買った故郷の駅弁も 今じゃ買つけない 清潔の私よ 教えて</p> <p>もっと知らなきゃ 買った故郷の魅力も 見上げた空は 広くて背が広がってた</p>	<p>先聲は言う 地元は最高 オレは大切なものを見落としてた</p> <p>見慣れたこの町が変わって行く 田舎通ったあの日々は 慣れ続けた都会の空に 今じゃ故郷の町を愛しく思う 故郷の町を愛しく思う</p> <p>母へ</p> <p>あなたは私の憧れです いつもありがとう あなたへ 変わらない 母の後ろ姿 原立ちの日よ</p> <p>5</p> <p>ただいま、お父さん、お母さん 何があっても私を愛してくれた</p> <p>この町を愛しいことを あなたが教えてくれた この心はあなたを愛した あなたの記憶は心にずっと</p> <p>あなたは私の憧れです いつもありがとう あなたへ 変わらない 母の後ろ姿 原立ちの日よ</p> <p>原立ちの日よ</p>	<p>「轉變したらどうしよう？」</p> <p>いいとこなんてまじなんもねえ いいとこなんてまじなんもねえ これが田舎の女子高生の Real Talk いいとこなんてまじなんもねえ いいとこなんてまじなんもねえ ウチら田舎女子高生</p> <p>6</p> <p>でもやっぱり… 田舎通ってまじでなんもねえ 田舎通ってまじでなんもねえ ブリタラが吉すぎで今日も寝れない(笑) 田舎通ってまじでなんもねえ 田舎通ってまじでなんもねえ ウチら田舎女子高生</p> <p>いいとこなんてまだわかんねえ 当たり前すぎてマジまづかねえ 蛇口からミネラルウォーター オフロにつかってるけど いいとこなんてまだわかんねえ 当たり前すぎてマジまづかねえ 夜更けより星原の方が明るい気がするけど いいとこなんてまだわかんねえ 当たり前すぎてマジまづかねえ ウチら田舎女子高生</p>
<p>なんもないまち</p> <p>離れてしまってから それに気づいた 私は少しも分かっていなかった… なんもないこのまちのいいところに</p> <p>2</p> <p>あなたを思ってるのなんかない 私にこのまちの話を聞かされた だけど… 想像より夢をみんだ 思い過ぎて気が合わない このまちのいいところはない あなたのこと</p> <p>このまちにない物がたくさんあったって それに負けないくらいぬくもりがある 今だからわかる当たり前の幸せ どこに願っても、心に歌を書き 故郷を…</p>	<p>田舎道 -Country Road-</p> <p>「オレの地元を紹介しよう なんもねえ町 ここ Country Road 駅の駅まで約10km ぬさん 兼ねえとよだきいよ」 「都会からしたらありえねえぞ 電車乗り遅れても数分遅 「田舎はまじ無難都会生みたい 慣れた町はあの大都会 田舎オープンカー a.k.a 軽トラ 大体燃費はいいから」 「都会はあまりないよ、八咫鳥 産にむよ、自然の豊かさ 君は言うけど、あの色気 憧れは田舎家だけだ それは私が生まれた大都会」 「でも慣れたのは大都会」</p> <p>4</p> <p>まっとう都会はこうなんだろう？ 行ったことすらもないけれど</p>	<p>田舎女子高生</p> <p>聞いて 月が火曜の深夜に時 貴く響かせる地元「一部地域」 泣ける… ケーブルテレビも引かれてない 泣ける… 民族の数は2局</p> <p>自動販売機で買ってみたい 今日も無人駅 駅員いない 一度だけでもいい買ってみたい</p>	

私たちが書いた詞に曲がつき、“うた”になっている。その“うた”をプロのミュージシャンが、今日の前で歌っているという事実、思わず感極まりました。

日々のうたごえPROJECT

そして、いよいよ投票です。タブレット20台を利用し、全校生徒から貴重な一票を投じてもらいます。本校の先生方、そしてなんと肥後正弘市長（当時）にも投票に参加していただきました。



見事、最高得票を獲得したのは「田舎女子高生」を作詞した4人となりました!



日々のうたごえPROJECT

あっという間の時間でした。

6月16日（金）にキックオフとなったワークショップでしたが、この日、小林市の公式PRソングとなる曲が決まりました。他の5曲も大変よい“うた”になっていました。それだけに1位に至らなかったチームのメンバーの落胆は大きいものがありました。

田舎女子高生

に決定！

体育館でのイベント終了後、ワークショップと「コバ歌バトル」のまとめを行いました。

「日本レコード大賞」の新人賞にノミネートされ、大変お忙しい中、地元小林のために何度となく私たちのもとを訪れ、先生として「歌詞作り」を教えてくださいました。そして、私たちが書いた歌詞に素敵なメロディーをつけてくださいました。



そんなNOBU先生に感謝の気持ちを込めて、NOBU先生の代表曲『太陽に向かって咲く花』を私たちの歌声で送りました。



この日、改めて“うた”の持つ力、“うた”が結ぶ人と人との繋がりを感しました。



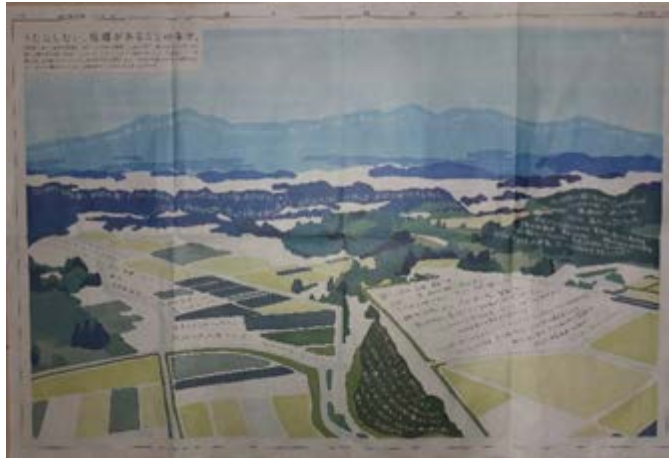
日々のうたごえPROJECT

④ 新聞広告の掲載

実は、「コバ歌バトル」が実施される当日、宮崎日日新聞に30段の全面広告を小林市が掲載してくださいました。

新聞は1ページを15段と表現します。今回掲載した広告は30段ですから2ページ分、しかも1日で1つしか掲載できない貴重な枠となります。ちなみに、宮崎日日新聞の新聞広告料をインターネットで調べたところ、15段のフルカラーで3,050,000円となっていました。

単純計算で、2倍の6,000,000円！



「小林が高校生と何かやろうとしているな?!」

霧島連山の麓に広がる風景に、私たちが作った詞が手書き風で表現されており、商品や企業のPR広告とは明らかに異なります。私たちが携わっているプロジェクトの大きさを感ぜずにはられません。

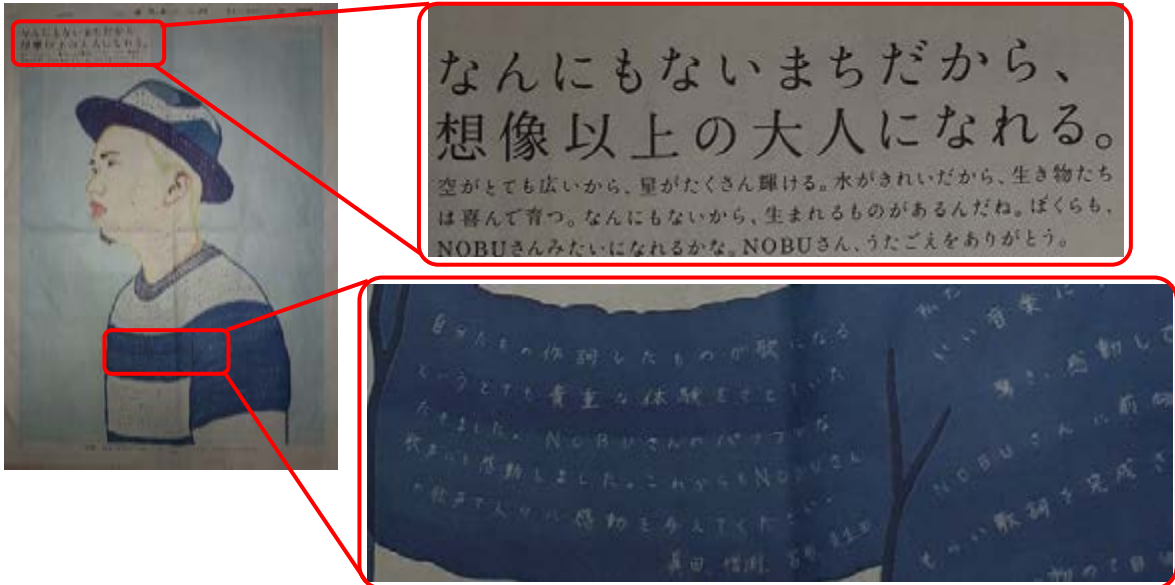
そして、てなんど小林プロジェクトのWebサイトに、専用ページが開設されました。このページには、今回私たちが書いた6チームすべての歌を聞くことができます。



日々のうたごえPROJECT

専用ページ公開後、6つの曲の再生回数がグングンと伸びていきます。残念ながらミュージックビデオ化に至らなかったチームも、自分たちが詞を書いた歌が、どれほど再生されるのか、毎日チェックすることが日課となりました。

「NOBU先生への感謝の気持ちを何とか伝えられないか」と模索していたところ、小林市のミュージックビデオ公開日となる12月15日付の宮崎日日新聞に、今度は15段広告を出すことができることになりました。



「NOBU」と小林市の高校生たちが、地元をテーマに歌をつくりました。こちらは高校生からNOBUさんへのお礼広告です。

今回のこの広告の文字は、私たちの手書きです。広告を見たNOBU先生が、自身のブログに書き込みをされていました。

⑤ YouTubeに公開

平成29年12月15日(金)

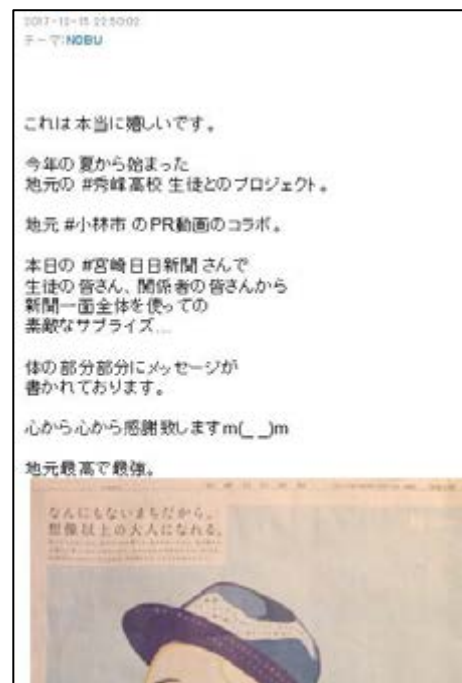
YouTube

にて公開!

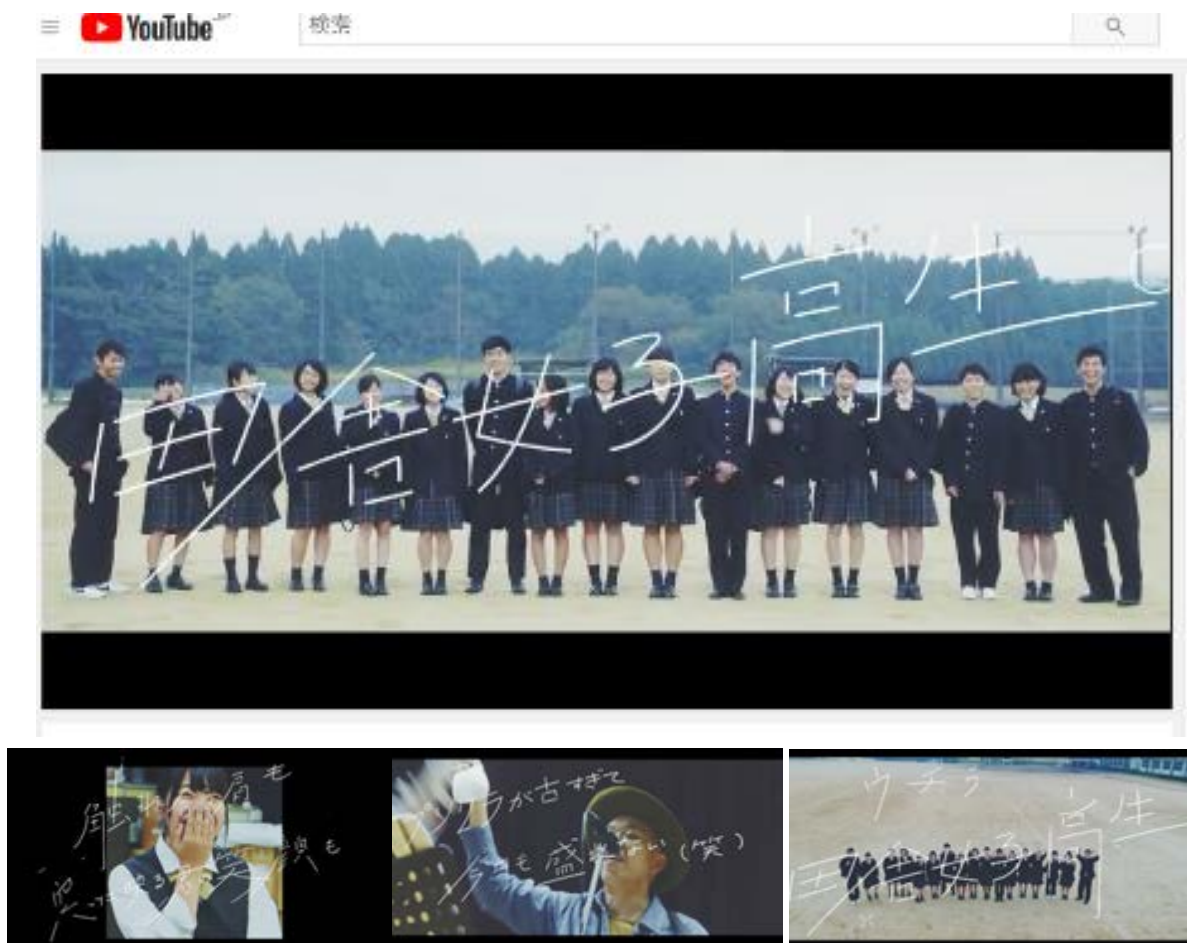
越智先生ができたてホヤホヤのミュージックビデオを持ってきてくださいました。

アップテンポでリズム感のあるメロディ、そして田舎を自虐している歌詞が、田舎でリアルな高校生活を送る私たちを元気にします。

そんな「田舎女子高生」のミュージックビデオ。どんな仕上がりになっているのか、期待で胸が高まりました。



日々のうたごえPROJECT



今回完成したミュージックビデオ「田舎女子高生」も、昨年度の「サバイバル下校」同様、Buzz-Abilityが備わった作品です。本校のFaceBookへの掲載はもちろん、課題研究班のメンバーにTwitterを使った拡散も仕掛けました。

同時に、プレスリリースも行います。すると、公開日にもかかわらず、Web上で「田舎女子高生」の記事が取り上げられ始めました。

掲載日	媒体名	掲載日	媒体名	掲載日	媒体名
2017/12/15	朝日新聞デジタル&m	2017/12/15	livedoor	2017/12/16	dメジャー
2017/12/15	@nifty ビジネス	2017/12/15	mixiニュース	2017/12/16	MSNニュース
2017/12/15	@Press	2017/12/15	Miyanichi e-press	2017/12/16	MSNニュース
2017/12/15	BIGLOBEニュース	2017/12/15	ORICON NEWS	2017/12/16	goo ニュース
2017/12/15	bizocean※	2017/12/15	TNCニュース	2017/12/16	おたくま経済新聞
2017/12/15	Infoseekニュース	2017/12/15	womanexcite	2017/12/16	livedoor
2017/12/15	MarkeZine	2017/12/15	みやびズ	2017/12/16	起業SNS
2017/12/15	N+NewsRelease	2017/12/15	オリコンミュージックストア	2017/12/16	ピズバック!
2017/12/15	rentalofficebz※	2017/12/15	カナロコ	2017/12/16	Bizloopサーチ
2017/12/15	SankeiBiz	2017/12/15	上毛新聞ニュース	2017/12/15	Musicman-NET
2017/12/15	SANSPO.COM	2017/12/15	大分合同新聞	2017/12/15	楽天woman
2017/12/15	SEOTOOLS	2017/12/15	毎日新聞	2017/12/15	朝日新聞デジタル&w
2017/12/15	zakzak	2017/12/15	毎日新聞	2017/12/15	朝日新聞デジタル&w
2017/12/15	クイックオーダー※	2017/12/15	沖縄タイムス	2017/12/15	みんなのNet
2017/12/15	ロイター.co.jp	2017/12/15	秋田魁新報電子版	2017/12/15	ダブシー
2017/12/15	伝説の営業マン	2017/12/15	秋田魁新報電子版	2017/12/15	373news.com
2017/12/15	徳島新聞Web	2017/12/15	Yahoo! ニュース	2017/12/15	@nifty ニュース
2017/12/15	財経新聞	2017/12/15	goo ニュース	2017/12/15	@nifty ニュース
2017/12/15	excite ニュース	2017/12/15	@T.COM	2017/12/15	AGARA紀伊民報
2017/12/15	StartHome	2017/12/15	FM NACK5	2017/12/15	BIGLOBEニュース
2017/12/15	とれまがニュース	2017/12/15	Nack5	2017/12/15	CLUB Panasonic
2017/12/15	LIVE HOUSE.COM	2017/12/15	徳島新聞Web	2017/12/15	excite ニュース
2017/12/15	Mapionニュース	2017/12/15	dメジャー	2017/12/15	GREE
		2017/12/15	山陽新聞	2017/12/15	Infoseekニュース

第3章 検証

仮説1

・小林市のPRに固執せず、「全国の田舎」をPRする取り組みとすることで、市外・県外在住者からも共感を得られるのではないか。

仮説2

・動画に音楽を融合させることで、動画の視聴だけでなく、音楽として楽しんでもらえるのではないか。

仮説3

・音楽コンテンツに挑戦することで、Webやテレビ以外のメディアで取りあげられる機会が増えるのではないか。

この仮説に照らし合わせて、検証に入ります。今年度制作した小林市公式PRミュージックビデオ「田舎女子高生」は、昨年度までのWebCMとは異なり、映像を見るだけでなく音楽として聴く人も見た人・聞いた人がどう感じたのか、

3-1 Web・SNS上での反応

公開直後から多くのWebサイトに取り上げられたこと、SNSを利用した情報発信もあり、多くのコメントが書き込まれ始めました。記事が掲載されたWebとSNSに寄せられたコメントの一部を紹介します。

話題やニュースを分かりやすく、読みやすく。 **経済新聞** <http://otakei.otakuma.net/>

TOP ネットの話題 話題のグルメ ビジネス・経済 雑学・コラム 芸能・エンタメ ミリタリー アニメ マンガ・漫画 ゲーム・アプリ 企業リリース

「民放が2月しかない」「よくはぶかれる“一部地域” 宮崎の田舎JKが作詞した『田舎女子高生』が面白い

update: 2017/12/16 16:00 社会経済 宮崎県

Tweet Share G++1 Hatena Pocket feedly Pin it LINEで送る

宮崎山ふもとにある宮崎県小林市の高校生が、地元出身のアーティストNOBUさんと一緒に小林市のPRソングを作ろうというワークショップ型プロジェクト『日々のうたごえプロジェクト』

19分
宮崎県小林市の特別MV『田舎女子高生』 youtu.be/CRvPy-QoYSM

上京してきた自分には響きすぎた。

当たり前すぎて気付いていなくて
夜景より星空の方が明るい気がして
蛇口からミネラルウォーター出てきて
改めてこの曲を聴いて気付きました。

地元に戻省するのが更に楽しみになった。

3

日々のうたごえPROJECT

朝からボロボロ泣けた動画。「田舎すぎてマジでなんもねえ」というサビ。宮崎県小林市のPRという制作意図。小林市というより、「田舎や学生時代に対する郷愁」を巻き起こすという力が凄いです。PRとしては一寸失敗しているような。でもそれがいい。永遠の文化祭感。
youtube.com/watch?v=o_nelx...

1月1日
ノリもいいし、歌い始めのAメロが本当に心の叫びを語って共感出来る！wでも、出ていった後にこそ、色々いいところに気づける。いいところだよ、小林市！#田舎女子高生
宮崎県小林市 PRミュージックビデオ「田舎女子高生」| 日々のうたごえプロジェクト youtu.be/o_nelx3ghYg @YouTubeより

年明けの1月4日にはYouTubeの公式Twitterが記事を拾ってくれました。

YouTube Japan @YouTubeJapan · 1月4日
笑いと同時にホロリときちゃう、地元愛にあふれた宮崎県小林市のPRソング『#田舎女子高生』MV。作詞は地元の高校生、作曲は地元出身のアーティスト、NOBU @nobu_miyazaki。#Music #小林市
goo.gl/ewJVp4



上京してきた自分には響きすぎた。
一寸失敗しているような。でもそれがいい。
ノリもいいし、歌い始めのAメロが本当に
心の叫びを語って共感できる！

ほんの一例しかここでは報告できませんが、他にもこのような書き込みが見て取れます。同じ県内の西都市の応援をしているTwitterでもフォローされました。



県内外を問わず、特に田舎を離れ、都会に上京している方を中心に多くのコメントをいただくことができました。インターネットでも話題となり「全国の田舎」をPRすることができました。仮説1について、達成です。

仮説1

小林市のPRに固執せず、「全国の田舎」をPRする取り組みとすることで、市外・県外在住者からも共感を得られるのではないか。

達成

日々のうたごえPROJECT

3-2 YouTubeの再生回数

次にYouTubeの再生回数を見てみました。

平成29年11月25日に「日々のうたごえプロジェクト」の専用ページが開設され、私たちが詞を書いた全6曲のミュージックとワークショップなどの映像が公開。続いて、「田舎女子高生」が平成29年12月15日に公開されています。

これまで約半年間の再生回数は以下の通りです。

小林市公式サイト YouTube	「田舎女子高生」ミュージックビデオ	69,489 回
	「田舎女子高生」ミュージック	16,244 回
	「おしえてください」ミュージック	8,218 回
	「田舎道-Country Road-」ミュージック	5,254 回
	「なんもないまち」ミュージック	5,201 回
	「願い」ミュージック	4,640 回
	ワークショップ風景	4,157 回
	コバ歌バトル	3,953 回
	「母へ」ミュージック	3,917 回
	ワークショップ風景「カップ巻き」	1,268 回
Oricon YouTube	「田舎女子高生」ミュージックビデオ	38,525 回
FaceBook	てなんど小林FaceBook	(端数不明) 22,000 回

182,866 回

このプロジェクト全体の再生回数は182,866回と、10,000回の再生で『成功』と言われる地方自治体PR動画において、『成功』を収めたと言えます。3年前に本校が企画し制作された「山奥」篇の134,704回を大きく上回っています。しかし、昨年度の「サバイバル下校」の273,410回には届いていません。

そこで私たちはObserve（観察：みる）に戻って現在の状況を探ります。

今年の作品は“音楽”です！動画での再生回数では「サバイバル下校」を超えられていませんが、「音楽として聴かれている数」について調査してみました。

今年4月18日、NOBUさんがベストアルバム「スタートライン」をリリースされました。このアルバムの中に、なんと、「田舎女子高生」が入っています。



そこで、NOBUさんのアルバムCDの売上枚数を調べることにしましたが……よく考えてみると、それでは「田舎女子高生」だけに絞った情報は得られません。

次なる手。それは

USENランキング

です！

日々のうたごえPROJECT

USENに「リクエストJ-POP TOP30」というチャンネルがあります。そのチャンネルでは、1週間毎にリクエストのあった曲のランキングをWebで掲載していますので早速チェックしてみました。

集計期間：平成30年5月25日～平成30年5月31日(6月6日付)		最新のランキング	
順位	楽曲名	アーティスト名	歌詞
1位	Turn Back Time feat. FANTASTICS	EXILE	
2位	U.S.A.	DA PUMP	
3位	Bloom	Superfly	
4位	トドカナイカラ	平井堅	
5位	Teacher Teacher	AKB48	
6位	シンデレラガール	King & Prince	
7位	Show Time	E-girls	
8位	アップデート	miwa	
9位	ギュッと	Little Glee Monster	
10位	流星	藍井エイル	
11位	I AM YOUR SINGER	サザンオールスターズ	
12位	Underdog	EXILE SHOKICHI	
13位	やばば	Sonar Pocket	
14位	細雪	和楽器バンド	
15位	泣きたいくらい	大原櫻子	
16位	don't cry anymore	miwa	
17位	Body Feels EXIT	安室奈美恵	
18位	HONEY (Live)	L'Arc~en~Ciel	
19位	友+情を、くっつけて	Kis-My-Ft2	
20位	シンクロシティ	乃木坂46	
21位	恋衣	林部智史	
22位	夏が来る！	TUBE	
23位	恋と愛	三代目 J Soul Brothers from EXILE T RIBE	
24位	ガラスを割れ！	欅坂46	
25位	田舎女子高生	NOBU	
26位	LOVE AFFAIR～秘密のデート	サザンオールスターズ	

なんと、公開から約半年、NOBUさんのアルバムのリリースから1ヶ月経っているにもかかわらず、「田舎女子高生」が有名アーティストの楽曲と並び25位となっています。

全国各地のさまざまな施設でUSENは利用されています。そのリクエストチャンネルで25位ですから、全国の方々に聞いて頂いていると評価できるでしょう。

また、「田舎女子高生」の楽曲ダウンロードやストリーミング配信、着うたの提供状況についても入手できましたが、これらについては情報公開不可とのことで、ここで資料として提供できませんが、いずれも多くの方に利用されていることがわかりました。

よって、仮説2についても達成です！

仮説2

・動画に音楽を融合させることで、動画の視聴だけでなく、音楽として楽しんでもらえるのではないかと。

達成

3-3 テレビ番組

① 密着取材（UMKテレビ宮崎）

私たちの取り組みを昨年6月のワークショップキックオフから、UMKテレビ宮崎が密着取材を行っていただきました。11月25日の「コバ歌バトル」の様と併せ、**12月1日(土)**にお昼の情報番組『じゃがじゃがサタデー』で放映されました。

年明け**1月1日**。UMKの新春特別番組『わんだフルじゃが!〜犬も歩けば初笑いSP〜』にNOBU先生が出演！新年から生で「田舎女子高生」を披露して頂きました。「コバ歌バトル」で司会を務めてくださった武田アナウンサーが、当日の番組で、私たちの取り組みを丁寧に説明してくださり、これらの番組終了後には、本校FaceBookに多くの『いいね!』をいただくことができました。



② 「んだもしたん小林〜斉藤慶子 ふるさと旅〜」(MRT宮崎放送)



今年**2月12日(月・祝)**にMRT宮崎放送で、小林市を特集した番組『んだもしたん小林〜斉藤慶子ふるさと旅〜』が放送されました。斉藤さんは小林市出身で、本校生徒が書いた「田舎女子高生」について詳しく知りたいとのことで、本校を訪問されました。

作詞した5班のメンバーが取材を受け、その模様が放送されました。

③ アーティスト音楽特番「サクライブ」(NHK福岡放送局)

今年2月、NHK福岡放送局から『サクライブ』という番組の企画書が届きました。NHK福岡放送局が企画・制作する音楽番組にNOBU先生が出演されるとのことで、本校の生徒に出演して欲しいとのことでした。卒業式予行日と卒業式当日に取材があり、その様子は3月6日に福岡で行われたライブの様と同時に、**3月20日(火)**にNHK総合（九州・沖縄）で放送されました。

【番組詳細について】

番組内ではアーティストの皆様のパフォーマンスに加え、若者たちの背中を押すことのできるようなVTRを2〜3本制作したいと思っています。そのVTRの一つとして、小林秀峰高校の生徒の皆様にご出演していただきたく思っています。狙いとしては「日々のうたごえプロジェクト」を通して、地元小林について深く振り返った高校生達が「旅立ちを迎えたいま、何を思うのか」を通して、番組自体を視聴する若者たちにも、それぞれのふるさとに対して少しでも考えるきっかけになればと考えております。



3-4 その他のメディア

その他のメディアへの露出はどうでしょうか？

今回は動画そのものと楽曲としての露出がなされています。映像であればその露出方法はWebやテレビに限られますが、音楽となると他に方法があるように思われます。

そこで考えたのが、名付けて「ラジオリクエスト大作戦」です！

これまでも何度となくお世話になっているラジオパーソナリティの赤間瞳さんに相談してみました。

ラジオ曲への効果的なアプローチ方法を教えてください。

みんなで手分けしてリクエストメール（またはFAX）を送ってみては？・・・・・・・・・・・・・・・・

全国のラジオ曲のWebサイトにアクセスし、送り先を確認。FAXで手書きにてリクエストを行いました。その際、私たちのプロジェクトについて一言メッセージを添える工夫を行います。

テレビは新聞やWebサイトに番組が告知されますが、ラジオ番組はその中で何の曲が流れるのかまで分かりません。「ラジオリクエスト大作戦」後、「田舎女子高生がラジオで流れちゃったよ」という声を聞くことが多くなりました。

ラジオの他に、NOBU先生が5月11日（金）に小林市でライブを行うテレビCMが放映されました。これにより、多くの方々が「田舎女子高生」を耳にされたようです。

全国各地での「田舎女子高生」の放送回数を調べることはできませんでしたが、“音楽”ということで、Webやテレビ以外の「ラジオ」や「USEN」に取り上げられたことは事実です。

カラオケにも配信されていました。



仮説3

音楽コンテンツに挑戦することで、Webやテレビ以外のメディアで取り上げられる機会が増えるのではないかな。

達成

第4章 成果と課題

検証の結果、3つの仮説は達成できたと判断しました。

仮説1

・小林市のPRに固執せず、「全国の田舎」をPRする取り組みとすることで、市外・県外在住者からも共感を得られるのではないか。

達成

仮説2

・動画に音楽を融合させることで、動画の視聴だけでなく、音楽として楽しんでもらえるのではないか。

達成

仮説3

・音楽コンテンツに挑戦することで、Webやテレビ以外のメディアで取りあげられる機会が増えるのではないか。

達成

昨年度までのPR動画制作では、さまざまな数値を用いて検証を行う「定量的評価」を行ってきました。特に昨年度は、2作目ということで1作目との比較も行うことができました。しかし、今年度は“音楽”であり、視聴した人にどう感じて頂いたのか「定性的評価」を行いました。

その検証結果を更に証明するため、アンケート調査を行いました。調査は2日に分けて2市4会場で実施。次のような結果となりました。

調査場所	小林市（市役所・コープ・サンキュー）	宮崎市（宮崎ブーゲンビリア空港）
調査日時	6月1日（金） 13:00~14:30	6月2日（土） 13:00~15:00
調査対象	183名（男性57名 女性126名）	111名（男性41名 女性70名）
「田舎女子高生」 を知っているか		
知った媒体は？		

小林市では、約6割の人が「田舎女子高生」を認識していますが、宮崎ブーゲンビリア

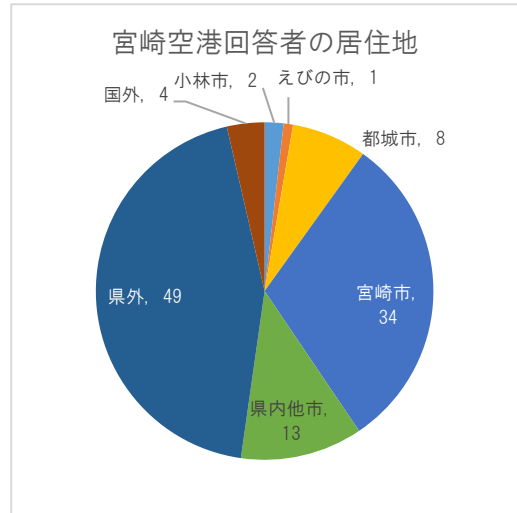
日々のうたごえPROJECT

空港では、回答者の半数近くが県外の方であり、利用者の多くは「田舎女子高生」を知らないと回答しています。しかし、このような意見を頂きました。

このMVを見ると、懐かしくなる。住んでいたときには気付かなかったことに気付けた。(30代 女性 東京都在住)

見たことがなかったが、すごくいい。YouTubeで見て、帰ってから身近な友人にも教える。(20代 女性 香港在住)

昔、自分も思っていたことなのでとても共感します。明るい曲なので、楽しく聞けます。(40代 女性 宮崎市在住)



地元の感じが出ていてとても良いと思う。おしゃれ。今の高校生は、自ら発信できることがうらやましい。

(40代 女性 都城市出身東京在住)

小林市では、

田舎の良さが伝わる。私も若い頃にはこう思っていた。(50代 女性 小林市在住)

「なんもねえ」って言ってるけど、これはこれであり。逆に良いアピールになっている(40代 男性 小林市在住)

調査場所	小林市 (市役所・コープ・サンキュー)	宮崎市 (宮崎プーゲンビリア空港)
「田舎女子高生」 の評価		
	大変良い・良い 88%	大変良い・良い 95%

「田舎女子高生」の評価をみると、小林市・宮崎市共に約9割の人が「大変よい」「良い」と回答してくださいました。しかし、小林市での評価に「大変悪い」と回答された方が1% (183名中2名) いらっしゃいます。そのうち、1人の方がこう述べられました。

高校生の気持ちが込められている歌だと思う。若者が好む歌。でも、PRをするのに否定的なことを何度も言うのはどんなものだろうか。(70代以上 女性 小林市在住)

作品に対し、理解を頂いた上で、私たちに貴重な意見をくださいました。

日々のうたごえPROJECT

成果と課題をまとめると以下ようになりました。

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ○ SNSへの書き込みやアンケート調査から、「地元のこと」や「田舎のよさ」を感じてもらったことが分かった。 ○ 動画に“音楽”を組み合わせたことで、これまでのWebとテレビによる視聴から、ラジオやUSEN、そしてカラオケなどに媒体が拡大した。 ○ 媒体が拡大したことで、これから先も聞き続けること、歌い続けることが可能となった。 	<ul style="list-style-type: none"> △ 動画自体に Buzz-Ability が備わっていたにも関わらず、SNSを利用した情報発信を上手く行うことができなかった。 △ “音楽”を組み合わせたことで視聴媒体を拡大させたが、その一方で YouTube の視聴回数が伸び悩んだ。 △ ラジオやカラオケ、楽曲のダウンロード数やストリーミング再生数などの客観的なデータを取得することが困難である。



🎥 第5章 終わりに

日本に1, 741の市町村が存在します。その数の市町村を人口で順位付けを行うと、私たちの住む小林市の人口は全国で585位です。(2017年10月の推計人口)

今回、私たちが手掛けた『田舎女子高生』のそのタイトルにもあるように、“田舎”です。都会に行くと街は人で溢れ、欲しいものが手に入り、華やかな生活を送ることができる。私たちは信じています。しかし、都会に就職をした先輩は帰省をするたびに「地元がいいわあ。」と口にします。なぜなのでしょう。

小林市は人口585位の田舎です。一概に人口だけで都会と田舎の分類はできませんが、小林市より人口の少ない市町村は約66%にも上ります。となると都会に住む人の半数以上は「地方出身者」なのではないでしょうか？事実、越智先生やNOBU先生は小林市出身の東京在住です。先生方のように都会で働く皆さんに、「田舎に帰ろう！」と想って欲しい。そう願いながら、今回の日々のうたごえプロジェクトに携わってきました。

全部で6つの歌詞に曲がつき、映像化はされなくともWebで公開されました。このなんもないまちを離れても、スマホやパソコンでいつでもこの歌を聴くことができます。



日々のうたごえPROJECT

私たちの行っている産学官連携では、「小林をPRする」以外に「キャリア教育の一環である」こともその目標にしています。何かを決める、何かを成し遂げるためには近道はないこと、そしてチームで激論を繰り返しながら作り上げていく“スクラップ&ビルド”が必要であるということ、歌詞作りから学ぶことができました。そして、越智先生やNOBU先生、吉武先生をはじめとする、田舎にはない職業の方々の働きぶりを「コバ歌バトル」などのイベントを通して間近で拝見することができました。

小林市が持つ「関係人口」。その数を私たちの活動で増やすことはできたのでしょうか？
『田舎女子高生』を耳にした方が地元の事を思い出していただければ、それは全国の“田舎市町村”の関係人口を産み出した事に繋がるのではと考えています。

“うた”は、聞き手の感情を揺さぶり、その瞬間をメロディーと共に記憶します。「この音楽を聴くと、あの時のことを思い出す。」という経験です。最終的に『田舎女子高生』という一つの楽曲が完成し、ミュージックビデオとして世に公開されました。一人でも多くの方に、「あっ、これってあの時の！」と思い出してもらえると幸いです。

今回、私たちはこの活動を通して地元の魅力を再認識することができました。それは

「なんもない」それがサイコーな地元

だということ。

多くの関係人口の皆様のお陰で、充実した活動を行うことができました。皆様に心から感謝申し上げます。



宮崎県立小林秀峰高等学校 商業科・経営情報科
 課題研究 調査研究班

Special Thanks

クリエーティブディレクター 越智一仁（電通）
 ディレクター 曾根良介（電通）
 クリエーティブプロデューサー／アカウント・エグゼクティブ 吉武優（電通）
 作詞家 小林秀峰高校 商業科・経営情報科 2017年度3年生
 アーティスト／作詞ワークショップ講師 NOBU（エー・プラス）
 マネージャー 長嶺悟（エー・プラス）
 プロデューサー 細山由紀子（ユニバーサル ミュージック）
 プロデューサー 峯岸耕平（ユニバーサル ミュージック）
 プロデューサー 川崎泰広（ロボット）
 プロダクションマネージャー 笹谷貴久（ロボット）
 ディレクター 阿部祐也（テレビ宮崎）
 カメラマン 廣島賢一（テレビ宮崎）
 カメラアシスタント 西慶輔（テレビ宮崎）
 アナウンサー 武田華奈（テレビ宮崎）
 音楽プロデューサー／編曲家 樋口太陽（オフィス樋口）
 マネージャー 小寺恩（オフィス樋口）
 アニメーター 石志哲郎（LIKI inc.）
 デザイナー 平元義夫（EMBAN）
 アドバイザー 赤間瞳（フリーランス）

ユニバーサル・ミュージック

宮崎県小林市


国土交通省航空局

宮崎ブーゲンビリア空港・宮崎空港ビル株式会社

コープ小林店

サンキュー小林店



<p>「宇久島PRに向けた地域活性プロジェクト」 ～宇久島の食材を使った商品開発～</p>	
<p>地産食品開発班</p>	
<p>生徒氏名 浦吉翔 竹村太斗 森田耕介 川上桃子 辻まこと 泊美雨 狭間愛喜 平田明日香 宮崎風香 安永奈央 (3年)</p>	
<p>1. 研究の動機</p> <p>私たちが住む宇久島は、長崎県の離島にある。全国の島々が東京に集まり、その島の特産品を紹介する祭典アイランダー（2016）では、行ってみたい離島6位にランクインした。しかし、人口減少や高齢化、若者の流出が問題となっている。そこで、より多くの方に宇久島の魅力を知ってもらいたいと思い、宇久島の食材を使用して商品開発をし、私たちの手で宇久島の活性化を目指すことにした。そこで、宇久島の問題を知るために、地域の方（観光協会・漁協）にインタビューしたところ、宇久の漁業の問題点として、ガンガゼと呼ばれるウニの仲間の駆除問題があることが分かり、ガンガゼの活用法の検討を行った。</p> <p>2. 研究計画</p> <p>①事前調査（インタビュー・ガンガゼ駆除見学） ②ガンガゼの処理方法・新商品の開発 ③商品の出品・PR広報活動</p> <p>3. 研究方法</p> <p>①ガンガゼの実態調査・魚醤油作り・遊離アミノ酸分析 魚醤油班 ガンガゼ駆除の実態調査を行い、ガンガゼについての知識を習得した。また、専門家によるガンガゼ処理方法・魚醤油作りの指導を受け、約3ヶ月間攪拌作業を行い、「ガンガゼ」と「レンコダイ」の魚醤油を商品化した。また、遊離アミノ酸を分析し、市販品の魚醤油と比較を行った。</p> <p>②レシピ開発・販売（魚醤油・魚～THE・Fish×フィッシュ） 商品開発班 地元のまつり「産業まつり」にて魚醤油や魚醤油を使用した商品（魚～THE）、宇久島の食材を使用した商品（Fish×フィッシュ）の販売を行った。また、活動をPRするため、魚型のクッキー（ギョッキー）も販売した。</p> <p>③ポスターの配布・HPでの報告・アイランダー（2017）での紹介および試食会の実施 PR広報班 ポスター・看板・QRコード入りパッケージラベルを作成することで、活動のPRを行った。</p> <p>4. これまでの成果と課題</p> <p>①ガンガゼの処理技術・基礎知識を習得した。 ②魚醤油・魚醤油を使用した新商品を開発した。 ③活動のPR方法を習得した。</p> <p>今後は、バリやアオコダイなど捨てられるような魚を使用し、新たな魚醤油作りを行うことで、捨てられる魚の再利用化を図りたい。また、ガンガゼにおいては、熟成期間を変えて熟成過程をみるなど、研究を行いたい。さらに多くの人に使用してもらうために、魚醤油を使ったレシピ開発や宇久島の食材を使用した新商品の開発を行い、地域のお祭りでの出品や料理コンテスト等に応募し、地域の活性化を目指したい。</p>	

<参考資料>

- ①研究要旨集【本ファイル】
- ②地域に向けた発表(動画・パワーポイント)【別ファイル】
- ③UkuLabo 発表会およびアンケート結果【別ファイル】

魚醤油班

名前 森田耕介 泊美雨 狭間愛喜 安永奈央

<宇久島の漁業の実態調査>

漁協・観光協会の方に宇久島の漁業の問題のインタビューを行った。



- ・捨てられるガンガゼの活用法
- ・宇久島の特産品「鯛めし」で使用しないレンコダイの頭や骨の活用法を考えて欲しい。



ガンガゼ<岩陰子>

ウニの仲間であるが、食用としても旨味がありません、トゲの先に毒がある。



レンコダイ<連子鯛>

主に宇久地域などで漁獲される魚である。やや水分の多い白身が特長で、年間を通じて味が安定している。

<ガンガゼ駆除について>

①方法

- ・昔は素潜りで実施
- ・ポンベ利用で時間短縮
- ・10人で駆除



②駆除回数・量

- ・前は年に2~3回駆除→年に1回
- ・ガンガゼの中身だと10kgくらいになる



③費用

- ・駆除に費用がかかる
- ・捨てている魚を活用すると漁師も工場も所得が上がる



④これまでの活用方法

- ・畑の肥料(昔)→くさい
- ・せんべい→まずい



Q/A

Q. なぜガンガゼを駆除しているのか？

A. ガンガゼが海藻を食べ、魚のえさとなる海藻がなくなる。→魚もえさが無く死ぬ。

Q. ガンガゼを使用して商品開発をしたことはありますか？

A. ガンガゼのせんべいを使ったが1年で失敗した。前回、魚醤油も作ってみたが発酵がうまくいかず完成まで至らなかった。

ガンガゼが海藻を食べることで魚の数が減ってきていることが分かり、
1度失敗に終わった魚醤油作りに取り組むことにした。

☆魚醤油作り①

平成29年7月31日 14:00~ @宇久高校調理室

<講師>

松本 欣弘さん (係長)
(長崎県商工水産部水産業普及センター)



村上 正一さん (会長)
(宇久町観光協会)



<作り方>

《レンコダイ》

魚をミンチ状にする・・・①



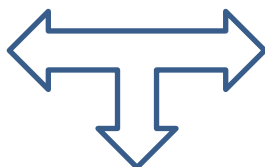
食塩水・乾燥麦麴・①を混合

《ガンガゼ》

ガンガゼの棘をおとし、殻ごと砕く・・・②



食塩水・乾燥麦麴・②を混合



発酵・攪拌



最初の1週間は毎日、その後は2週間に一回攪拌!

(塩分の不均一を抑え、腐敗防止のため)

☆魚醤油作り②

平成29年11月7日 16:00~ @宇久高校調理室



絞り・ろ過①



火入れ



瓶詰め



瓶詰め



ろ過① (搾りかす)

ろ過①



火入れ (90℃になるまで)



冷却 (60℃程度まで放置)



ろ過②



瓶詰め



完成!!!



ろ過②



レンコダイ

ガンガゼ

<ラベル>



レンコダイ



ガンガゼ

品質検査（遊離アミノ酸分析）

遊離アミノ酸とは・・・？

遊離アミノ酸は多くの食品において、それらの味を決定する成分であり、それぞれ特有の味をもっている。例えば、日本の伝統的調味素材であるコンブのだし汁やしょうゆやみそは多数のアミノ酸が含まれるが、グルタミン酸が圧倒的に多い。また、アミノ酸単独でうま味を示すアミノ酸（アラニンとグルタミン酸）や、苦味および酸味、または両方の味をもつアミノ酸がある。

甘味をもつアミノ酸	グリシン・アラニン・スレオニン・プロリン・セリン・グルタミン
→アミノ酸の甘味は砂糖に比べるとあっさり、さっぱりとした自然な甘味が特徴	
うま味や酸味をもつアミノ酸	グルタミン酸・アスパラギン酸
→うま味や酸味をもつアミノ酸は、料理の美味しさの決め手となる。特に、グルタミン酸の発見は、人間の味覚を研究する上で重要な発見となった。	
苦みをもつアミノ酸	フェニルアラニン・チロシン・バリン・メチオニン・アルギニン・ロイシン・イソロイシン・ヒスチジン
→苦味といっても、メチオニンは非常に苦く、バリンには多少の甘味も含まれる。	

<アミノ酸略号>

Asp	Thr	Ser	Glu	Gly	Ala
アスパラギン酸	スレオニン	セリン	グルタミン酸	グリシン	アラニン
Cys	Val	Met	Ile	Leu	Tyr
システイン	バリン	メチオニン	イソロイシン	ロイシン	チロシン
Phe	His	Lys	Arg	Pro	NH₃
フェニルアラニン	ヒスチジン	リジン	アルギニン	プロリン	アンモニア

遊離アミノ酸分析

1. 目的

レンコダイおよびガンガゼを原料に発酵熟成した魚醤油の遊離アミノ酸含有量を測定し、O島産との違いや成分を知ること、今後の魚醤油作りやレシピ開発での検討資料とするため。

2. 方法

本校で約3ヶ月発酵熟成させた魚醤油（レンコダイ・ガンガゼ）とO島産の魚醤油、計3種の魚醤油をサンプルとした。

<p>日付：12月8日（金）</p> <p>場所：長崎県総合水産試験場</p> <p>機器：日本電子 JLC-500/V2 全自動アミノ酸分析機</p> <p>方法：高速液体クロマトグラフィー（HPLC）</p> <p>試料：100倍希釈して測定</p>



液体クロマトグラフィーとは・・・？

多成分混合物から各成分を分離分析する方法。当初、色素を分離したところからギリシャ語の chroma（色素）と graphos（記録）を語源としてクロマトグラフィー（chromatography）と呼ぶようになった。様々な物質に適用され、移動する物質との間におかれた試料成分の化学的・物理的性質の差により分離分析される。

3. 結果および考察

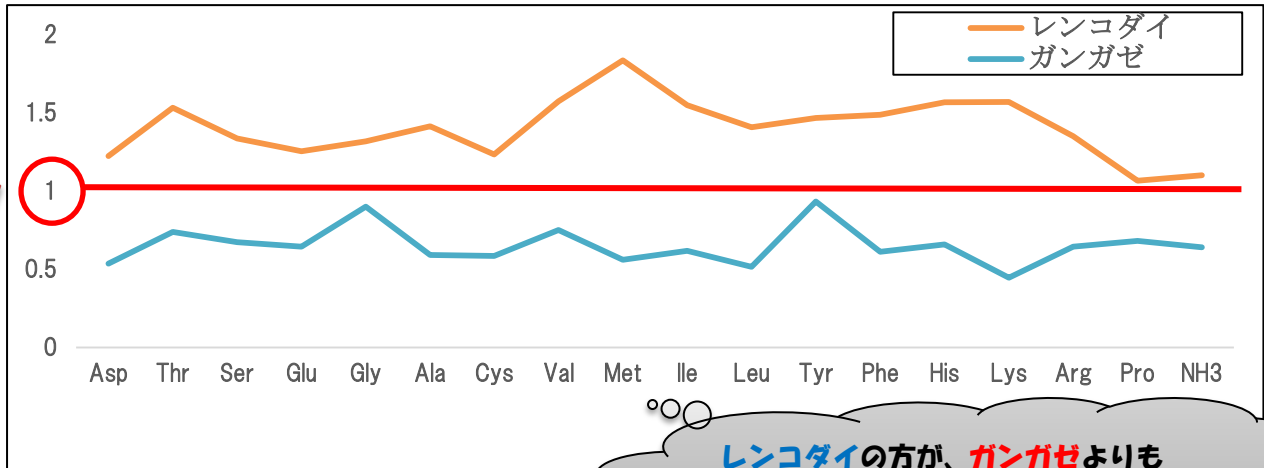
今回、各魚醤油の遊離アミノ酸量をもとに、以下の4つの比較を行った。

- (1) O島産の魚醤油を基準とし、レンコダイの魚醤油とガンガゼの魚醤油の遊離アミノ酸量 図1
- (2) ナンプラー（魚醤油）、O島産の魚醤油、レンコダイの魚醤油、ガンガゼの魚醤油それぞれの遊離アミノ酸組成 図2
- (3) 塩分濃度（%） 表1
- (4) 各魚醤油の総アミノ酸量 図3

※ナンプラーとは、全国で市販されている一般的な魚醤油

(1) O島産の魚醤油を基準としたときのレンコダイとガンガゼの魚醤油の遊離アミノ酸量を比較してみると、レンコダイの魚醤油は、O島産の魚醤油よりすべての遊離アミノ酸量が多く、またガンガゼの魚醤油の遊離アミノ酸量は少ないことがわかった。

図1 遊離アミノ酸 市販品 (O島産) 規格化パターン

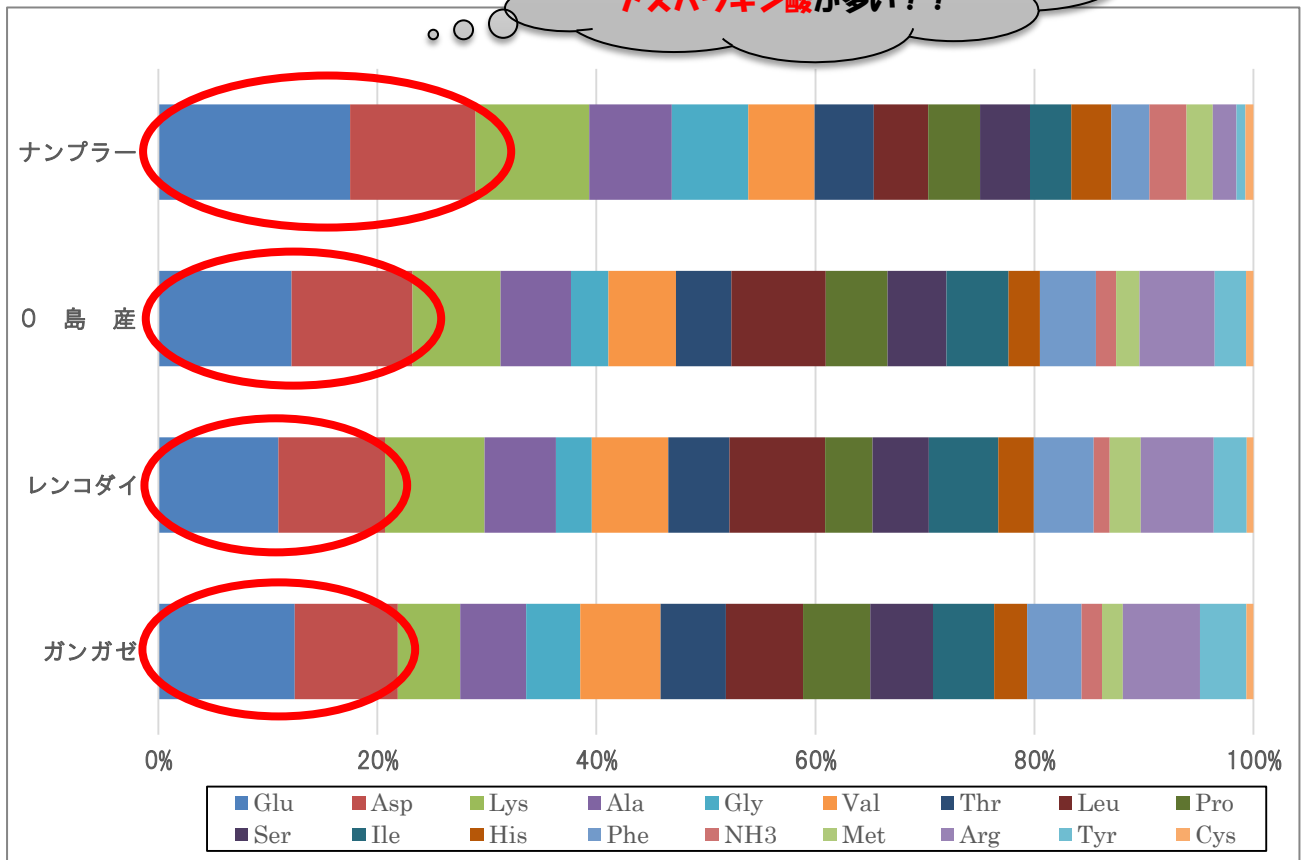


O島産を基準

レンコダイの方が、ガンガゼよりも遊離アミノ酸が多い!

(2) ナンプラー (日本食品標準成分表 (七訂) の数値)、O島産の魚醤油、レンコダイの魚醤油、ガンガゼの魚醤油の遊離アミノ酸組成を比較してみると、すべてにおいて最も割合を占めているのが、グルタミン酸 (Glu)、次にアスパラギン酸 (Asp) が多く、うま味成分が全体の約 20% 含まれていることがわかった。しかし、ナンプラー (日本食品標準成分表 (七訂) の数値) と比べると、組成比率は小さいことがわかった。

図2 遊離アミノ酸組成比 (%)



うま味成分のグルタミン酸とアスパラギン酸が多い!!

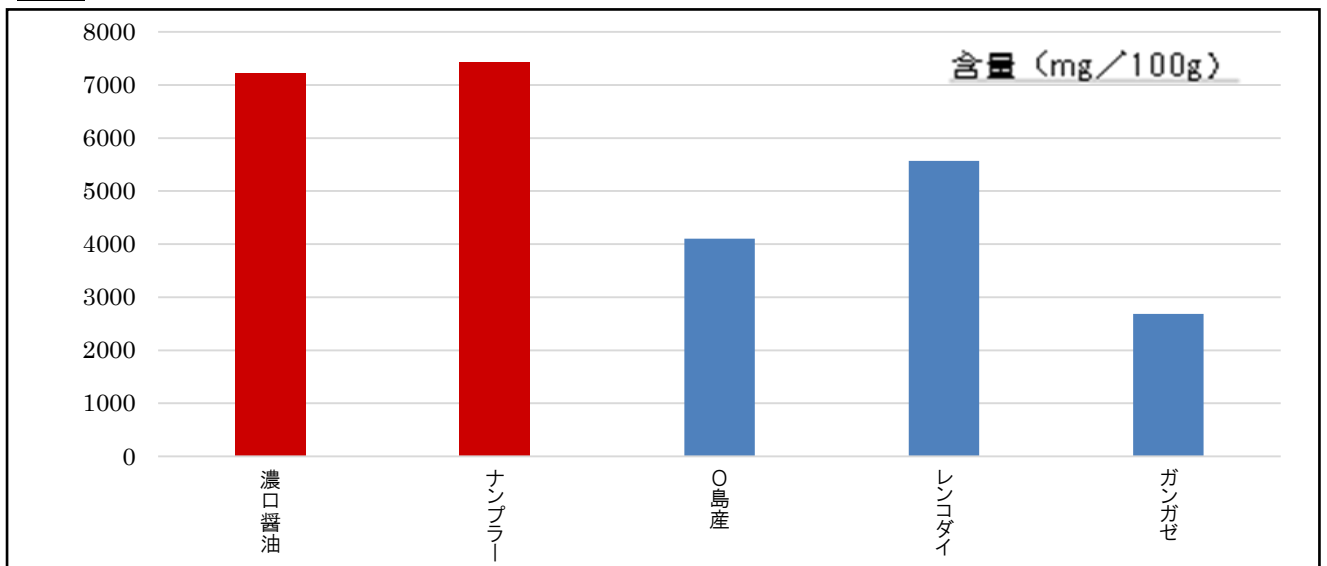
(3) 塩分濃度(%)は表1のようになった。レンコダイ・ガンガゼはともに塩分濃度21.9%に対し、〇島産と比べると塩分濃度は高く、ナンプラー(日本食品標準成分表(七訂)の数値)と比べると低いことがわかった。

表1 塩分濃度

	ナンプラー	レンコダイ	ガンガゼ	〇島産
塩分濃度(%)	22.9	21.9	21.9	20.7

(4) 総遊離アミノ酸量について、濃口醤油(日本食品標準成分表(七訂)の数値)、ナンプラー(日本食品標準成分表(七訂)の数値)、〇島産の魚醤油、レンコダイの魚醤油、ガンガゼの魚醤油の比較を行った。濃口醤油やナンプラーに比べ、総遊離アミノ酸量は少なく、特にガンガゼの魚醤油の総遊離アミノ酸量は、ナンプラーの約3分の1と少ないことがわかった。

図3 総遊離アミノ酸量



よって、考察として以下のようにまとめた。

- (1) レンコダイとガンガゼにおいて、ガンガゼの遊離アミノ酸の量が低いのは、もともとの原料に含まれていたたんぱく質の量が少なかった可能性や、たんぱく質分解酵素の量や活性に違いがあったためと考えられる。
- (2) 遊離アミノ酸の組成比率に大きな違いはなく、すべてにおいてグルタミン酸、次いでアスパラギン酸の含有量が多くみられた。うま味成分であるグルタミン酸やアスパラギン酸が多いことで醤油の味に近づいていることがわかった。
- (3) 試食後のアンケートから、ガンガゼの魚醤油が塩辛いという意見があったが、塩分濃度において、有意な差が見られなかったため、塩味は一緒に含まれるアミノ酸などの影響を受けると、味覚は個人差が大きいことが考えられる。
- (4) 熟成期間が短かった。総アミノ酸量は、熟成期間が長くなると徐々に増えてくると考えられるため、熟成期間の設定を見直す必要がある。

以上の遊離アミノ酸含有量の比較から、使用する魚でアミノ酸の量が違うことや約3ヶ月の熟成期間でできた総遊離アミノ酸量を知ることができた。今後は、使用する魚の検討や年間を通して定期的な遊離アミノ酸分析を行い、数値化することで適切な発酵時期や期間を設定したい。

<魚醤油作り 攪拌作業記録結果>

日程	気づき				
	におい	色	見た目	その他	
7/31 (月)	変化なし	変化なし	水分が少し出た		
8/1 (火)	少し匂いがくさい		水分が増えた		
8/2 (水)					
8/3 (木)					
8/4 (金)					
8/5 (土)					
8/6 (日)	少し黒い		水分が増えた (レンコダイ)	カビが生えていた (ガンガゼ)	
8/7 (月)					
8/17 (木)	醤油の匂い	黒っぽい	水分がたくさん 増えた		
8/28 (月)					
9/12 (火)					
9/25 (月)				カビが生えていた (レンコダイ)	
10/1 (火)					
10/2 (月)					手がかゆくなった
11/6 (月)					

(松本さんより)

最後の火入れ工程でカビや細菌は死滅するが、できればカビは生えないようにした方がよい。危険性の高い(毒を産生する)カビが魚醤油製造中に生えることは聞いたことはないが、カビの種類によっては、毒を産生する種類もいるので気をつけた方がよい。

ヒスチジン含量の多いサバやアジなどの青魚の場合、熟成中にヒスタミンが生成し・蓄積し、アレルギー症状が確認されることがある。今回の原料はどちらも、ヒスチジン含量がさほど多くないので、ヒスタミンが大量に蓄積した可能性はかなり低いですが、アレルギー症状は個人差が大きいので、絶対に出ないとは言えない。

※今回は当番制で攪拌作業を行ったため、におい・色・見た目は個人差があった。
 今後はにおい識別装置や塩分濃度計等を使い、科学的に計測を行う必要がある。

<活動報告>

日 程	活 動 内 容
5月22日(月)	ガンガゼ調査・駆除見学 インタビュー(本飯良港)
7月31日(月)	魚醤油作り①
8月1日(火)～8月7日(火)	毎日攪拌作業
8月17日(木)～11月20日(月)	二週間に一回攪拌
11月7日(火)	魚醤油作り②・インタビュー
11月8日(水)	ビン詰め作業
11月11日(土)	ラベル貼り
11月12日(日)	産業まつりにて魚醤油販売
11月19日(日)	アイランダー(東京)で紹介・試食会
11月27日(月)	ガンガゼ駆除見学(本飯良港)
12月8日(金)	遊離アミノ酸分析(長崎県総合水産試験場)

<アンケート結果>

- ・魚醤油は魚の種類で風味や味、色が違う。
- ・ガンガゼから熟成された魚醤油の量が少なかった。
- ・ガンガゼの方が塩辛かった。
- ・価格が高い → **量を減らして、価格の再設定を行う。**
- ・魚醤油のレシピを知りたい。
- ・レンコダイの魚醤油をサーモンにかけて食べたら、イクラの味がした。

水分が足りなかったからだと考えられる。次回作るときは塩分濃度25%の比率は変えずに水と塩の量を増やすとよい。(松本さんより)

<アイランダー(全国の島が東京に集まり、特産品を発表・試食・販売する祭典)での感想>

- ・レンコダイのほうがおいしい。
- ・ガンガゼはしょっぱい、きつい。
- ・来年も作るのだったら、縁があれば、居酒屋におきたい。

<今後の研究について>

- ・熟成の期間・・・熟成・発酵する期間を変えてみる。(今回は3ヶ月間発酵熟成)
 今後は半年～1年かけて発酵熟成させ、1ヶ月ごとに遊離アミノ酸分析を行い、熟成の過程や適切な発酵時期を研究する。
- ・レンコダイ以外の捨てられる魚(バリ・アオゴダイ)での魚醤油作り
- ・魚醤油を使用したレシピの開発

商品開発班

宇久島の食材を使用した商品開発（レシピ考案）



角切りにしたさつまいもを大学芋と甘煮にし、ロールケーキに盛り込んだ
「**おいもロール**」！



さつまいもをペースト・大学芋風にしたものと、カスタードでサンドした
「**芋パイミルフィユ**」！



宇久島でよく釣れるアジとアスパラを使用した
「**アジパラバーガー**」！



宇久島の形をモチーフにした
「**宇久島スコーン**」！





トッピングの具を鱗に見立て、魚の形をしたピザ
「**UKU やき**」！



しかし、どれも販売するには保存性や食べやすさが懸念されたため、懸念事項を改善し、新たにレシピ開発を行った。

宇久島の食材を使用した商品開発（レシピ考案）企画書①

商品名	おいもロール	商品写真	
発売する季節・月	秋(9~12月)		
商品を食べる場面	おやつ時		
対象者	子どもから大人まで全年齢対象		
企画した理由	<p>五島列島で有名なかんころもちは、宇久島でも秋になると作られ、私たちも大好きな商品の一つです。しかし、農家の高齢化が進み、干し芋の生産量が減少している現状があります。</p> <p>そこで、私たちは、かんころもち以外にも何かさつまいもを使用し、農家も元気が出るような商品を開発し、地域を盛り上げていきたいと思いました。</p> <p>私たちが考案したのは、「おいもロール」です。長崎のさつまいもは平均糖度34.35度といわれる甘いさつまいもなのでデザートにし、多くの人に食べてもらいたいと考えました。また、私自身がさつまいもを使ったロールケーキを見たことがないので、自分で作ってみたいと思ったからです。</p>		
原材料の特徴	<p>*さつまいも</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食物繊維を多く含むので、腸の調子を整え、美容にも効果的。 ・甘い宇久島産の芋でデザートに適している。 		
特徴・ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ロールケーキの生地には地元で採れたさつまいもが練り込まれており、中のクリームには、角切りにした大学芋風と甘煮に味付けをしたさつまいもを入れることで、さつまいも本来の味と食感を楽しむことができる ・生地には黒ごまを入れ、大学芋をイメージ ・季節を感じることができ、地産地消につながるさつまいもを使うことで子どもからお年寄りまで偏りなく食べてもらえる ・甘くなりすぎず、甘いものが苦手な方や歯が弱い高齢者もやわらかいため食べやすくおすすめ ・さつまいもを使用するのでダイエット中の方や健康志向の方も美味しくたべていただける ・食物繊維が豊富なため、腹持ちもよく、満腹感を得られやすい 		

見た目・作業工程
(全体・断面写真)




大学芋と甘煮の2種類を入れることで1つで2つの味や食感を楽しむことができた。

大学芋の黒ごまがアクセントとなってよかった。

パッケージ
デザイン



宇久島の食材を使用した商品開発（レシピ考案）企画書②

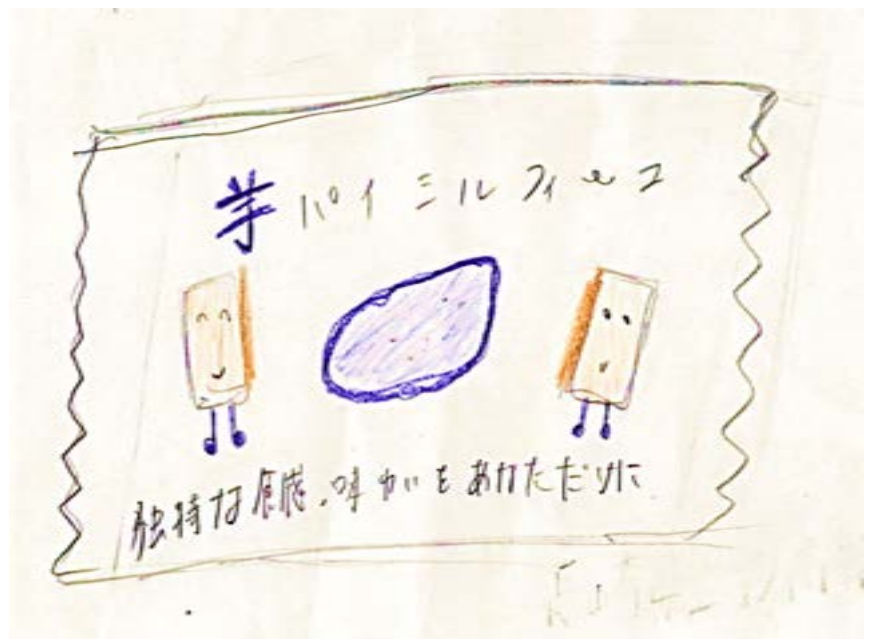
商品名	芋パイミルフィーユ	商品写真	
発売する季節・月	秋(8~11月)		
商品を食べる場面	おやつ、小腹が空いたとき		
対象者	全年齢対象		
企画した理由	<p>宇久島のさつまいもを使った商品を作りたかったからです。</p> <p>また、宇久島はかんころもちが有名ですが、かんころもち以外で、さつまいもを使った新しい商品を開発し、他の美味しい食べ方で幅広い人たちに食べてもらいたかったから。</p> <p>そこで、さつまいもの良さをサンドした「芋パイミルフィーユ」を考案しました。宇久島の芋はとても甘いのでデザートに適していると思いました。</p>		
原材料の特徴	<p>*さつまいも 香ばしい香り、食感、風味</p> <p>*カスタード 甘さ控えめ</p> <p>*パイ ・さっくりした食感</p>		
特徴・ポイント	<p>・外はサクツとした食感のパイ生地、中にはペースト状にしたさつまいもと、大学芋、カスタードで三層にし、新しい味に仕上げました。</p> <p>・いろんな食感と、芋それぞれの風味が出るので食べるのがとても楽しい商品となっています。</p> <p>・見た目がとても上品でお土産にもよい商品です。</p> <p>・小腹が空いたときに、手軽に食べることができます。</p> <p>・さつまいもを使用しているため、芋パイミルフィーユ1つで満腹感を味わえ、ダイエット中の人でもおすすめです。</p>		

見た目・作業工程
(全体・断面写真)




パイ生地をもう少し焼いた方が良かった
クリームを入れすぎると、食べたときにこぼれて食べにくかった。
層になっているので食べにくいので大きさを考える必要がある。

パッケージ
デザイン



宇久島の食材を使用した商品開発（レシピ考案）企画書③

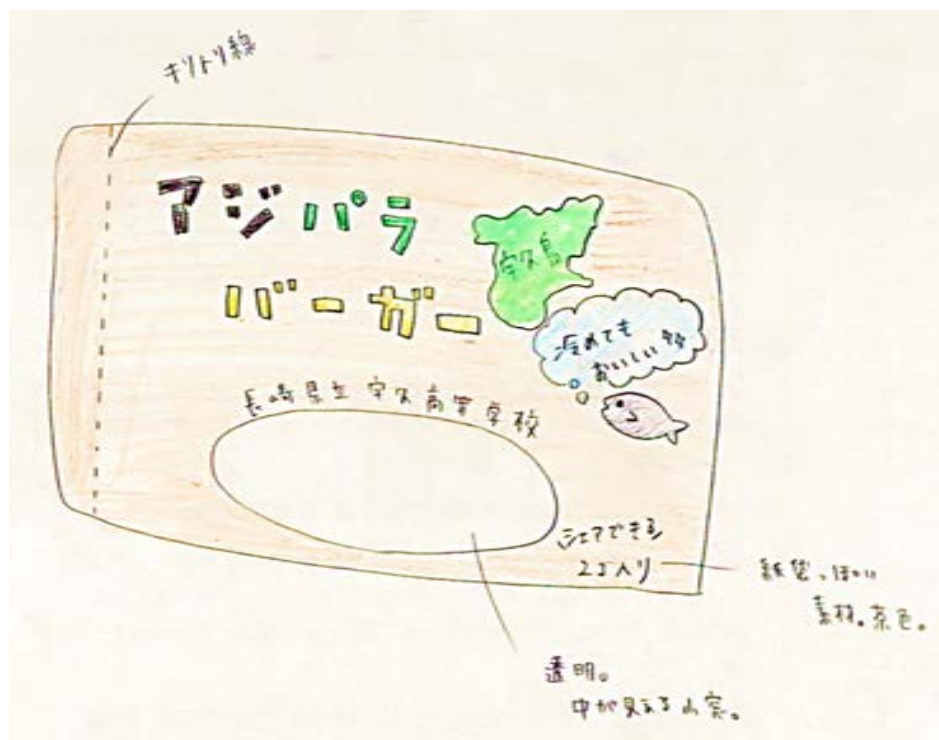
商品名	アジパラバーガー	商品写真	
発売する季節・月	春～秋(3～10月)		
商品を食べる場面	昼食時		
対象者	子どもから大人まで。 特に、魚をあまり食べずカルシウムが不足する10代～20代前半の若い世代。		
企画した理由	<p>宇久島でよく釣れるアジと生産されているアスパラを使用し、宇久島をPRしたいと思ったからです。</p> <p>そこで、宇久島の食材を使ってヘルシーで満腹感の得られるハンバーガーを作りたいと思い、「アジパラバーガー」を考案しました。</p> <p>肉に比べてヘルシーな魚を使用することで、ダイエット中にも食べてもらえるようにしました。また、特に若い世代は魚を食べる機会も少なく、カルシウムも不足しがちであるため、日常でどこでも手軽に食べることができ、さらに栄養も補えるものを作りたいと思いました。</p>		
原材料の特徴	<p>* 宇久島産のグリーンアスパラガス アスパラガスに多く含まれているアスパラギン酸が、疲労回復、スタミナ増強に効果あり。美肌作りにも効果的。</p> <p>* 長崎産の身がキュッと締まったアジ 青魚の中でも脂質が少なく、消化吸収が良いのでダイエット中にも適している。体力回復や疲労回復、免疫力の向上などの効果もある。</p>		
特徴・ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・普通のハンバーガーよりも小さめのサイズで2個入りなので誰かと分けて食べることもできる。また、1度で食べ切らなくてもよいので、様々なニーズに合わせる事ができ、食べやすい。 ・肉とは違い、冷めても脂が固まった感じにならず、いつでも美味しく食べることができる。 ・「ハンバーガー」というとカロリーが高く、特に女性から敬遠されがちだが、美肌効果のあるアスパラと魚の中でもカロリーが低く、たんぱく質も豊富なアジを使用するのでダイエット中にも適し、ヘルシーな組み合わせで、女性も食べやすい。 ・魚はカルシウムが豊富なため、骨粗鬆症や動脈硬化の予防につながる。 ・野菜もたくさん入っており、くしで固定するのでこぼれにくく、子どもでも食べやすく手も汚れない。 		

見た目・作業工程
(全体・断面写真)





今回はちぎりパンで小さいサイズにし試作を行ったが、実際に作ってみると、具が詰めにくく、食べにくいことがわかりました。そこで、もう少し大きくし、満腹感のあるヘルシーなハンバーガーを作りたいと思いました。

パッケージ
デザイン



宇久島の食材を使用した商品開発（レシピ考案）企画書④

商品名	宇久島スコーン	商品写真	
発売する季節・月	1年中(フルーツの採れる時期で味を変える)		
商品を食べる場面	朝食時、おやつ時、小腹が空いた時		
対象者	子どもから大人まで全年齢対象		
企画した理由	<p>今までになかった新しい発想のデザートを作り、宇久島のPRをしたいと思ったからです。</p> <p>そこで、私たちは少しでも宇久島について知って欲しいと思ったので、「宇久島スコーン」を考案することになりました。</p> <p>スコーンの形を宇久島の形にし、ソースは宇久で採れたフルーツを使用します。また、スコーンはフルーツを練り込むことで、フルーツの風味や色をつけることができ、カラフルなスコーンを楽しんでもらいたいと思われました。</p>		
原材料の特徴	<p>* 宇久島で採れるフルーツ びわ、福原オレンジ、ブドウ、メロンなど</p> <p>* ピーナツ 香ばしく、食感も良い。</p> <p>* 全粒粉 薄力粉と比べ、3倍程度の食物繊維や鉄分、ビタミンB₁を多く含み、栄養価が高い。噛みごたえのある素朴な味。</p>		
特徴・ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・形が宇久島の形になっている。 ・季節によってさまざまな味が楽しめる。 ・ジャム付き(びわ、福原オレンジ、ブドウ、メロンなど) ・果物のビタミンが豊富で健康にも良く、ビタミン不足の方にはおすすめ ・朝の忙しい時にも、手軽に食べられる ・独特の風味や食感 ・全粒粉を使うため、食感と香ばしさがポイント 		



見た目・作業工程
(全体・断面写真)



今回は、色が着くかを調べるためにポンカンで試作を行いました。

(気づき)

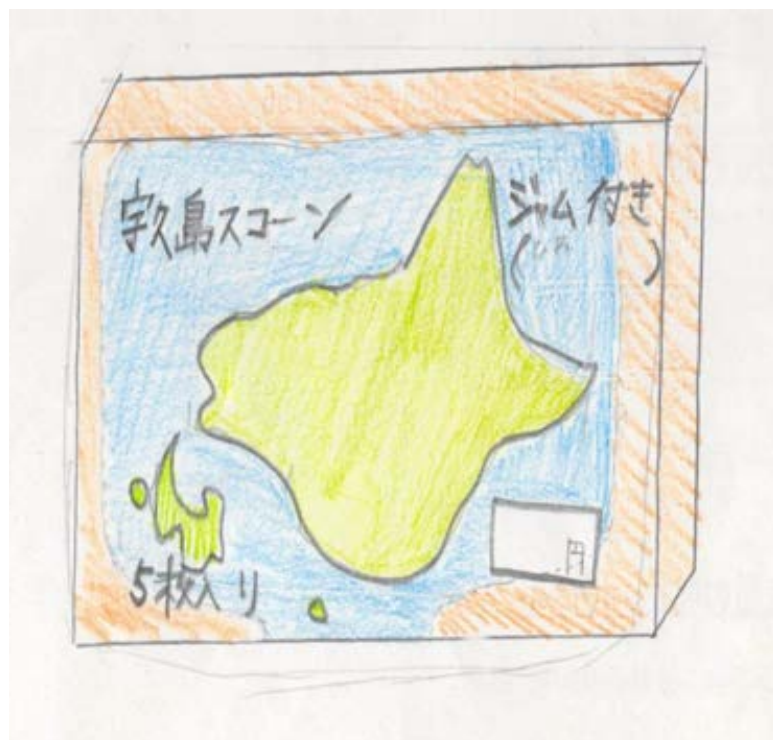
・ピーナツを砕いて入れることで、香ばしい味になり、食感も良かった

(反省・改善点)


・ポンカンの水分が多く、うまく生地がまとまらなかった

・思っていたよりも色が着かなかった
→分量や材料の見直しが必要

パッケージ
デザイン



宇久島の食材を使用した商品開発（レシピ考案）企画書⑤

商品名	宇久島スコーン	商品写真	
発売する季節・月	春～夏(3～8月)		
商品を食べる場面	朝食・昼食時		
対象者	子ども～高齢者、すべての人対象		
企画した理由	<p>宇久島でとれる新鮮なアスパラやコシヨウ鯛を使い、宇久をPRするとともに、宇久のおいしい食材を多くの人に食べてもらいたいと思ったからです。また、朝の忙しい時間や、小腹がすいた時などに手軽に栄養のある食事をできるものがあればいいなと思いました。私自身、魚が苦手なので、アレンジして魚を食べたいと思いました。</p> <p>そこで、私たちは、宇久の良さが詰まった「ピザ風たいやき」を考案しました。</p> <p>生地には魚を練り込み、中身の具は宇久産のアスパラガスや魚介類などをトッピングします。ソースはオーロラソースにすることで宇久の美しい夕日をイメージして作りました。大人から子ども、魚が苦手な人など様々な人に食べてもらえる商品を目指したいと思います。</p>		
原材料の特徴	<p>*長崎県産コシヨウ鯛 魚の中でも嫌味がない白身魚で食感もよい。</p> <p>*宇久島産のグリーンアスパラガス アスパラガスに多く含まれているアスパラギン酸が、疲労回復、スタミナ増強に効果あり。美肌作りにも効果的。</p> <p>*米粉 小麦粉アレルギーの方にも美味しく食べてもらうことができ、また食感もちもちしてよい。</p>		
特徴・ポイント	<p>〈見た目〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚を生地に混ぜ込む（魚が苦手な人、小さい子どもでも食べられるように） ・形は魚をイメージ（魚を使用していることを表す。馴染みのあるたいやきなので手に取りやすい。） ・トッピングの具材を鱗に見立てた（彩りもよく、おいしさを詰め込む） ・中の具は宇久産のものを使用し、外見はたいやき、中身はピザをイメージ ・ソースはオリジナルのオーロラソースにし、美しい夕日をイメージ <p>〈その他〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カルシウム豊富な魚を使うことで骨粗鬆症予防になる ・たいやきなので手が汚れない ・冷凍も可能で、電子レンジで温め可能 ・朝の忙しい時間や、小腹が空いたときなどにも手軽に食べることができる 		

見た目・作業工程
(全体・断面写真)



今回は、中身をアピールしたかったため、ピザにして試作を行いました。

〈気づき〉

- ・生地に練り込んだ魚の味はあまりせず、魚が苦手な人でも美味しく食べることができました。
- ・生地がもちもちして食感が良かった。

〈反省・改善点〉

- ・今回はピザだったが、たいてやきにした際に、どのようになるのかわからないので実際にたいてやき器で作ってみたい。

パッケージ
デザイン



★宇久島で獲れた新鮮なブリと隠し味に
手作り魚醤油を入れた魚型の餃子

ブリ100%!

～獲れたて鮮魚使用～



【レシピ】

《 材料(20個分) 》

タネ

魚ミンチ	110g	にんにく	8g
ねぎ	15g	塩	4g
にら	15g	酒	55ml
キャベツ	85g	魚醤油	15ml
干しいたけ	2g	揚げ油	500ml
しょうが	20g		

皮

強力粉	150g
薄力粉	150g
塩	3g
ぬるま湯	175ml

《 作り方 》

タネ

- ① ねぎ、にら、にんにく、しょうがをみじん切りする。
- ② キャベツは沸騰したお湯で一分間茹で、みじん切りにする。
- ③ 干しいたけは水で戻し、みじん切りにする。
- ④ 魚のミンチに塩を加える。
- ⑤ ①～④をボールに加え魚醤油、酒を加え、よく混ぜる。

皮

- ① 強力粉、薄力粉、塩を混ぜる。
- ② ぬるま湯を約3回に分けてよく混ぜる。
- ③ まとまったら打ち粉をしたまな板に移す。
- ④ こねる(耳たぶくらいに)。
- ⑤ 棒状に生地をまとめて20～40分間寝かせる。
- ⑥ 20等分に切り分け、形を作る。

* 今回使用した魚の型では5枚
作れました。(全長約10cm)



【試作と改良点】

《 ①使用魚の割合 》

ブリミンチだけを使った餃子と、魚ミンチとひき肉を使った餃子を試食し、アンケートをとった。

アンケート結果

ブリ100%	ブリ:ひき肉=3:1
60%	40%



結果からブリのほうが好評であり、ひき肉をいれることでパサパサした食感になるなどの感想があった。またブリだけを使うことにより、より宇久島らしさを出せるということでブリだけを使用した餃子を商品にすることに決定した。

《 ②タネの包み方 》

試作1

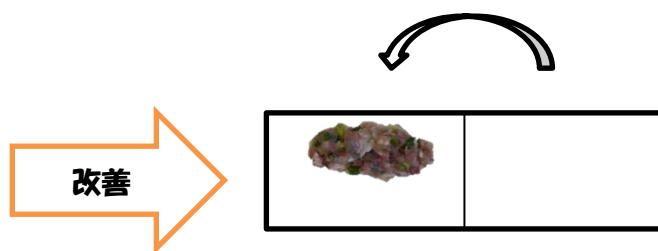
魚の形の皮を先に作り、タネを包んだ。



効率が悪く形も悪かった

試作2

長方形に伸ばした生地にタネを乗せ、折りたたんだ後に型をとった



効率がよく形もよかった

《 ③容器の選定 》

トレーからコップに変更

理由: 持ちやすさ、食べやすさを重視したため。



【価格設定】

原価計算を行ったところ、

1個あたり30円

2個入り100円で販売

【ラベル】



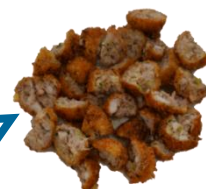
【アンケート結果】

- ・餃子の皮がモチモチしていておいしかった。
- ・にんにくの風味ができてよかった。
- ・形だけ魚と思っていたら魚醤油も使っていてうまみがでていた。



★宇久島の美しい海で獲れる美味しい魚(イサキとイカ)を使い、あごだしスープをアレンジして、新しい形で食べられる商品。

あごだしジュレ入り！
おかずにもおつまみ
にもピッタリ☆



【レシピ】

《 材料 (13 個分) 》 ミンチ

イカ	240g
魚(イサキ)	120g
小ねぎ	10g
玉ねぎ	1/2個
しょうが	25g
卵(衣用)	2個
パン粉(衣用)	50g
小麦粉(衣用)	60g
揚げ油	500ml

あごだしジュレ

あごだしスープ	5g(粉末)+水175ml
ゼラチン	4g



《 作り方 》

タネ

- ① イカを5分ゆでる。
- ② ①とイサキをフードプロセッサーでミンチ状にする。
- ③ 玉ねぎ、小ねぎ、しょうがをみじん切りにする。
- ④ ②と③を混ぜ合わせ、塩胡椒を加えまとまるまでよくこねる。
- ⑤ 半径2cmくらいのボール状になるくらいのタネをとり、丸める。
- ⑥ ⑤を小麦粉→卵→パン粉の順につけ、きつね色になるまで中火で揚げる。

あごだしジュレ

- ① 水にあごだしスープを入れ、よくかき混ぜる。
- ② ①を火にかけ、沸騰する前に火を止める。
- ③ ②にゼラチンを加え、よくかき混ぜる。
- ④ 粗熱をとったら、冷蔵庫で1時間
- ⑤ 固まっているので、ほど良く崩す。



【試作と改良点】

	魚の組み合わせ	結果
試作1	アジ×イカ	ぱさぱさ。まとまりにくい。つなぎを足した。
試作2	アジ+ヒラス×イカ	つなぎ無しでよくまとまった。
試作3	イサキ×イカ	まとまりやすく、食べやすい味。



11月の産業まつりで販売する際、イサキが旬の時期で手に入りやすく、試作の結果も食べやすい味だったため、**イサキ×イカ**の組み合わせに決定！！

- ・まとまりやすくするために、玉ねぎをかなり細かくみじん切りにした。
- ・イカの足はフードプロセッサーで刻まれにくいのであらかじめ細かく刻んでおく。
- ・あごだしジュレの中に入れると揚げている間に溶けてしまったので、揚げた後に上からかけるようにした。

【価格設定】

原価計算を行ったところ、

1個あたり58円

容器に入れオリジナルの旗を付けた竹串で固定



3個入り200円で販売

【ラベル】



【アンケート結果】

- ・イカのこりこりとした食感が良かった。
- ・薬味が効いていて、おかずにもおつまみにも合う味だった。
- ・ジュレがおしゃれだったが、絡みにくいのでたれの方がいいかもしれない。
- ・ジュレだけでなくタルタル Ver があっても良さそう。
- ・食べ応えがあり、美味しかった。



レシピ採用!



宇久島屋のお弁当に「Fish x フィッシュ」を入れてもらいました。(11月24日)



宇久島屋のアレンジで
ひじき入り!

★宇久島といえば魚ということで魚の形をした
かわいいクッキー

サクサク！美味しい☆
かわいい魚型クッキー！
(プレーン×チョコ)



【レシピ】

《 材料（天板2枚分） 》

魚型

無塩バター	200g
砂糖	170g
卵(S)	2個
バニラエッセンス	少々
★(プレーン用)薄力粉	400個
★(ココア用)薄力粉	340g+ココア600g



ラングドシャ

無塩バター	200g
砂糖	170g
卵(S)	2個
バニラエッセンス	少々
★(プレーン用)薄力粉	200g
★(ココア用)薄力粉	170g+ココア30g



《 作り方 》

- ① バターを室温に戻し、泡立器でクリーム状に練る。
- ② 砂糖を少しずつ加えながら白っぽくなるまで混ぜる。
- ③ 卵を溶いて少しずつ加えながら混ぜる。(空気を含めるようによく混ぜるのがポイント)
バニラエッセンスを数滴加えて、さらに混ぜる。
- ④ ふるった薄力粉を入れて、ゴムベラでさっくり切るように混ぜてひとまとめにする。
- ⑤ 20～30分寝かせる。(クッキー: 冷蔵庫 ラングドシャ: 冷凍庫)
- ⑥ 型を取る。(この際にオーブンを180℃に予熱しておく)
※型はアルミ板で手作りした。(写真①)
※魚の目にするための生地も丸める。
※魚型のクッキーはしっぽの部分が細くなるとちぎれやすいので太くする。
- ⑦ 180℃で焼く。(クッキー: 13分 ラングドシャ: **9分30秒**)



【試作と改良点】

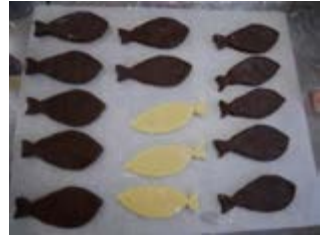
《 ラングドシャの焼き時間について 》

焼いた時間	気づき
9分	白っぽくやわらかかった。
9分30秒	ちょうど良い固さと色に焼けた。
10分	黒くなりすぎてラングドシャ感がなくなった。

焼く時間を変えて食べ比べてみた結果、色と固さが一番良かった**9分30秒**に決定した。

【価格設定】

原価計算を行ったところ、



1枚あたり	
魚型	プレーン 19円
	ココア 22円
ラングドシャ	プレーン 8円
	ココア 9円

魚型	プレーン 1枚
	ココア 1枚
ラングドシャ	プレーン 2枚
	ココア 2枚

6枚入り 100円で販売

【ラベル】



【アンケート結果】

- ・宇久島のやさしさが伝わるとても美味しいギョッキーだった。
- ・さくさくしていて美味しい。
- ・美味しかった。
- ・見た目がかわいかった。



① QRコード付きラベル作成

右の写真が実際に使用した魚醤油のパッケージの一部のQRコードで、読み取ると、私たちの動画が流れる仕組みになっている。

この動画を載せることで、誰が作っているのかが分かり、買い手側に安心して買ってもらうとともに私たちの活動をPRすることができた。



② ポスター

ポスターを作り、保健センター、児童センター、宇久幼稚園、宇久診療所、宇久公民館、小中学校など多くの方に見ていただけるように島内のあらゆる場所にポスターを貼った。

販売商品のポスターを貼ることで、「当日買いに行くね。」「楽しみにしているね。」と島の方々の声をいただくことができた。



③ 看板

↓実際に産業まつりに使用した看板



④ HPでの活動報告

クリック→ <http://www2.news.ed.jp/section/uku-h/>

宇久高校のホームページでも私たちの活動内容を掲載してもらった。

宇久島の方だけでなく島外の方にも私たちの活動を知ってもらうことができた。



⑤ アイランダー

アイランダーとは全国の島の人が東京に集まり、その島の特産品を発表、販売するイベントで、私たちが作った魚醤油も出品し、たくさんの方に試食をしていただいた。「来年も作るのなら、私の店で使用させてください。」という声もかけてもらった。



田舎力甲子園応募書類

いわきのNEW Food!! その名も「カジ〇」

福島県立湯本高等学校 家庭倶楽部

生徒代表 緑川 真果

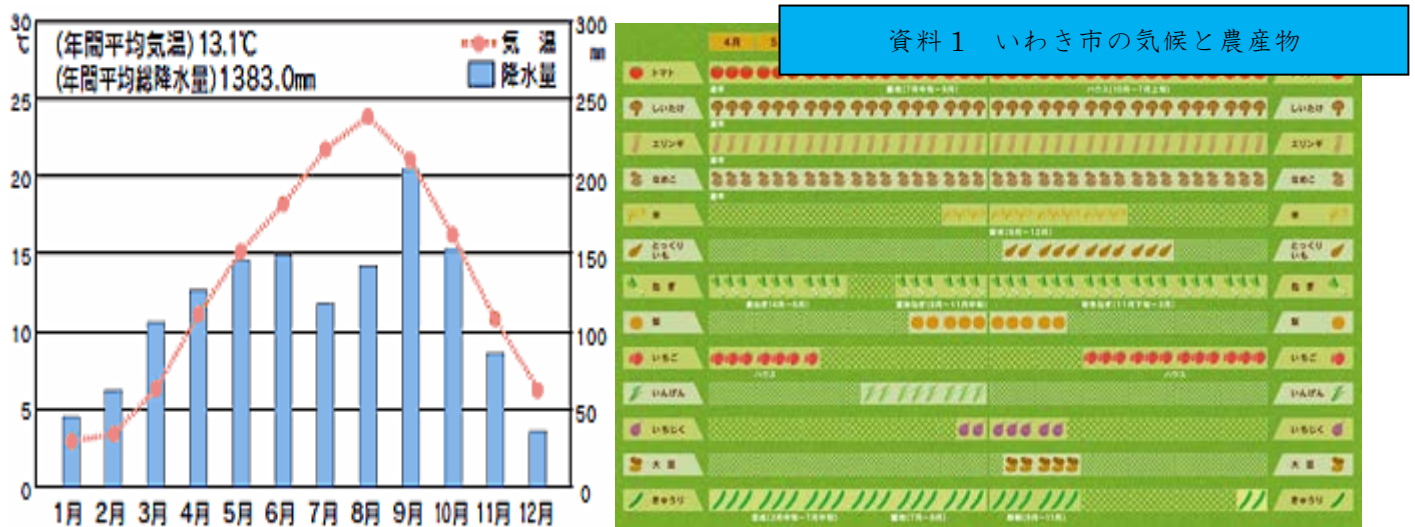
顧問 鈴木 美加子

1. テーマ設定の理由

いわき市は福島県の南部に位置し、福島県内一位の面積(1200 km²)と人口(約35万人(避難者を除く))を有している。明治から昭和にかけては、東京に最も近い炭鉱「常磐炭田」開発に伴い、エネルギー産業都市として発展した。その後、エネルギー革命により、炭鉱は閉山され、「スパリゾートハワイアンズ」「いわきマリンタワー」「アクアマリンふくしま」等の観光スポットを有する観光都市へと変貌をとげようとしている。又、その温暖な気候から多くの農産物が生産されている。(資料1)さらに、いわき市小名浜沖は黒潮と親潮が交わる「潮目の海」であり、プランクトン・小魚が豊富な豊かな漁場である。世界最大級の取扱規模である築地市場では99%の方が、「常磐ものは美味しい」と答えるほどである。(出典「平成27年水産関係者調査」(株式会社電通))

以上の点より、いわき市は現在観光都市であり、さらに農水産業が豊かな都市であると言える。

東日本大震災から7年。ハード面での復興は月日と共に進んでいる。しかし、人口減少・風評被害 ソフト面での復興等、課題が山積している。震災当時、小学生だった私達は、震災前のいわきの姿を知らない。そこで、いわきを知り、魅力を発掘すべく、4年間、「田舎(いわき)」について研究し、自ら考えた各種事業を様々なコンテストで発表してきた。今年度、5年目をむかえるにあたり、すべての事業を見直し、実現可能であり、かつ、本研究の最終目的である、「高校生から発信できる復興事業の展開」と「いわきの新たな魅力を発信 活気あるいわきを目指そう」を実現すべく、新たな事業を構築することとした。



<https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/ken-no-sugata/kiko.html> <http://www.misemasu-iwaki.jp/crops/index.html> より引用

II. 実施計画

1. 研究内容の見直し 2. 新たな事業の考案 3. 実施状況Ⅰ 4. 事業の見直しと立案
5. 実施状況Ⅱ（2018年4月からの実施内容も含む） 6. 結果・考察 7. 今後の課題

III. 実施内容

1. 研究内容の見直し

平成26年～28年の研究成果として、3つの旅行プランを完成させ、モデル事業として、産管民が一丸となり実施した。（別紙添付資料 ①②）

直接的評価と客観的評価と共に下記ページにまとめ、考察する。

評価項目・年度	26	27	28
プラン名	そうだ いわきに行こう Let's training camp	Donwasse! I waki with L ove♡	おどれ！いわきの traditional culture と共に！
対象者	将来観光業に携わる人	世界中の人々	いわき市に興味のある人
賞（大会規模）	優秀賞1位（県）	参加賞（県）	優秀賞2位（市） いわき市制50周年記念事業へ採択
モデル事業	○	×	○
事業参加者	小 中学生	×	いわき市民 埼玉市役所職員 幼児中学生
良い点	独自の商品開発（シャカジキ）と販売。 いわきの魅力（食 伝統文化 観光）にあふれている。震災後、新しく発掘されたいわきの魅力が取り込まれている。	都会に行かなくても、いわきで、流行（観光の流行例 グランピング）を追える。 いわきの伝統芸能を体験できる。 独自の商品開発（シャカジキ）と販売。	その土地の伝統芸能・伝統文化に触れ体験すると共に、体験だけでなく、参加し、その場で披露することができる。旅行プランに参加するだけで、周囲にもいわきの良さを伝えることができる。 市内においても、同様の効果が期待できる。
悪い点	内容が盛りだくさんすぎる。（詰め込みすぎ） モデル事業参加者からももう少し時間のゆとりがほしいとのアンケート結果あり。	いわきの魅力が伝えきれていない。 逆輸入にこだわり、いわきの魅力を発掘しきれていない。	自己の魅力を伝えるのが目的だが、他地区の事を学べない。 地域間交流の不足。 産官民の年密な打ち合わせが必要。 独自の商品開発（シャカジキ）と販売を実施しなかった。（要望が多数寄せられた）

3年間の旅行プランは大変好評であったが、高校生が主体になっての継続事業実現は難しい事がわかった。(旅行業務取扱管理者がいない等)そこで、商標権フリーを打ち出し、産官民・誰もが活用できるようにした。少しずつではあるが広がりを見せ始めている。

(各施設より口頭で報告あり)

H26.27年度の旅行プランでは、独自の商品開発(シャカジキ)の販売が大変好評であった。

H28年度は「今年売らないの？」

「新しいカジキグルメは？」と多くの意見を頂戴した。

＝需要を確認する事ができた。



2. 新たな事業の考案

1の結果より、本年度の事業を「**カジキと地元の農産物を使用した新商品の開発**」とした。

その後、新たな観光資源として産官民にPR・各事業者が実施するイベントにて販売を開始。

外部に発信することにより、「**おいしい いわき**」は広がり、「**田舎(いわき)へ帰ろう・田舎(いわき)へ行こう!!!**」という、気持ちが日本中に波及する。

又、継続事業とし、毎年開催することにより、産官民が協力、いわき市全体の経済効果を高めることができる。

これらの活動は、本研究の最終目的である、「**高校生から発信できる復興事業の展開**」と「**いわきの新たな魅力を発信 活気あるいわきを目指そう**」につながると確信する。

3. 実施状況 I

(1) カジキと地元の農産物を使用した新商品の開発

① 何故カジキ？

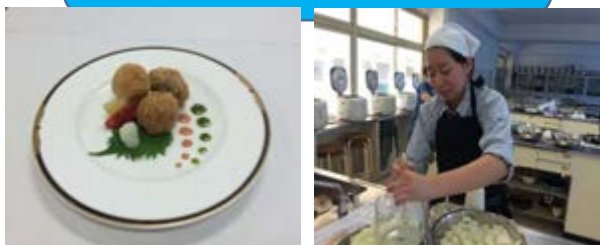
・いわき市小名浜沖は黒潮を親潮が交わる潮目の海で、プランクトン・小魚が豊富。大型カジキが集まる絶好の漁場であり、ビルフィッシュトーナメント(カジキ釣りの大会)としても有名である。しかし、クロカジキを食材として使用することはなかった。

2011年の東日本大震災で、いわき市のグルメを象徴する魚・目光の流通が止まり、これに危機感を抱いた地元では、新たな特産物を開発すべく、カジキグルメ実行委員会が創設した。クロカジキは脂身が少なく、日本では食されることが少ないが、太平洋諸国では、高級食材として使用されている。栄養価も高く、特に、「イミダペプチド」(疲労回復物質)は、鶏肉の5倍

(鶏胸肉 400mg/100g・カジキ 2000mg/100g)ふくまれ、さらに、高たんぱく低脂質である。

そして安価である。独特の「カジキ臭」をコントロールすることにより、六次化商品としての食材として可能性が広がる食材である。

湯本高校家庭クラブの3年間研究により、カジキ臭をコントロールすることに成功しました。



② 世界水族館会議イベント・米粉フェスタ

加が沖 カジキ臭 イミダペプチド2583mg/100g

研究1. 2年目成果 = 食塩水30%(海水)で解凍
研究 3年目成果 = お茶で蒸す

緑茶	麦茶	烏龍茶	ハーブ茶
○	×	○	◎

②カジキに合ういわきの食材は？

・「もっといわきの食材をしりたい」と思い、いわき市農林水産課・ワンダーファームを訪問したところ、現在6次化商品として注目されている、I w a k i L a i k i 米粉に出会い、美味しく、栄養価が高く、加工しやすい。是非、この、美味しさを地域へ、そして、日本全国へ伝えたいと思い、カジキとコラボレーションすることにした。

栄養価を市販されている小麦粉と比較した結果、低カロリー・高たんぱく・必須アミノ酸含有量が高いことがわかった。又、近年では、アレルギーフリー食材として注目されており、需要が高まっていることを確認することができた。(学校給食現場では、小麦粉の代わり使用。唐揚げの衣等に米粉が使用されている。小麦粉より甘みが強く、食感が良いと大好評である)



③「かじ〇」の開発

A 商品開発に関する知識と技術の習得

「消費生活」という科目で自主学習し、県が主催する商品開発講習会へ参加した。

学んだ内容を取り入れ、早速、ブレインストーミングを実施。新たな商品を模索。市場分析とKJ方を合わせ、新商品を考案した。

需要が見込まれる「カジキ」と、いわき市が6次化商品として注目されている、「I w a k i L a i k i 米粉」古来より栽培され、全国7位の生産量を有し、肉厚で甘みを誇る「いわきネギ」、香り高い「青紫蘇」を使用した商品を開発することとした。

(農林水産省地域特産野菜生産状況調査より)

B イベント販売から店舗販売へ拡大できる商品は何か

これまでの経験をふまえ、いわき市内で行われているイベントの商品を調査した。意外なことに「コロッケ」を販売している店舗がほとんどないことがわかった。(2017年に一店舗のみ)

平成26年～平成28年度のいわき市内のイベントを調査しました。



C 商品の決定 開発

A. Bの結果をふまえ、ブレインストーミングを実施した。活発な意見が交わされた。

開発商品を「カジキのコロッケ」とし、名前を「カジ〇コロッケ」とした。ネーミングには、カジキでいわきのまるい笑顔が、見られますように！という願いが込められている。米粉・カジキ、単品実験の結果を取り入れ、試作を繰り返し、完成させた。販売価格を原価の3倍である、1セット200円とした。

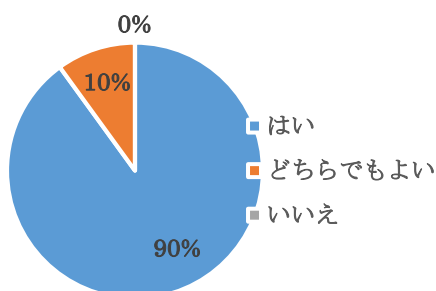
セット内容は、カジキ〇コロッケ（カジキ 米粉 ジャがいも いわきネギ 青紫蘇）と（米粉カジキ きな粉の洋菓子風コロッケ）である。



D イベント販売

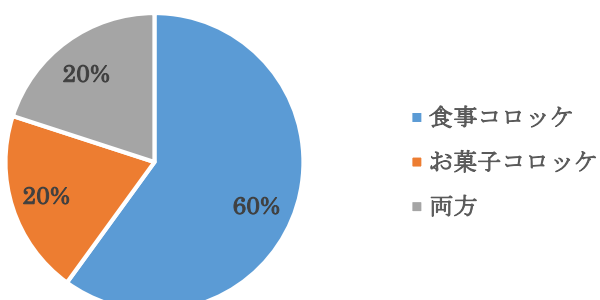
①世界水族館会議にて200セット限定販売した。イベント開始直後から行列ができ、20分で完売した。第1回の事業後のアンケート結果で、「増産を希望します」という意見が90%寄せられた。

増産を希望しますか？



②次に、Iwaki Laiki 米粉フェスティバルへ参加した。このイベントは、Iwaki Laiki 米粉・福島県内の特産品（新・旧）をPR活動する場として開催されたものである。第2回目となる今回のイベントでは、製作過程を見直し、生産個数400個に増産することができた。しかし、イベント開始から2時間で完売となり、「又、買えなかった」という声が聞かれた。又、アンケート結果より、カジキ〇コロッケ（カジキ 米粉 ジャがいも いわきネギ 青紫蘇）に人気が集まっていることがわかった。又、第1回目のイベントが、ネットで話題になり、県外からお見えになったお客様も確認することができた。

どのコロッケが好きですか？



③湯の街学園祭

第3回のイベント開催は、本校の地元でもある、常磐地区からの強い要請を受け、開催した。前2回評判を受けての開催依頼となった。

販売内容を、アンケート調査から、かじ○コロッケ（食事バージョン）のみとし、販売価格を原価の3倍である1個100円とした。

イベントの開催規模を考慮し、230個準備したところ、イベント開催から2時間で完売となり、「又、買えなかった」という声が聞かれた。

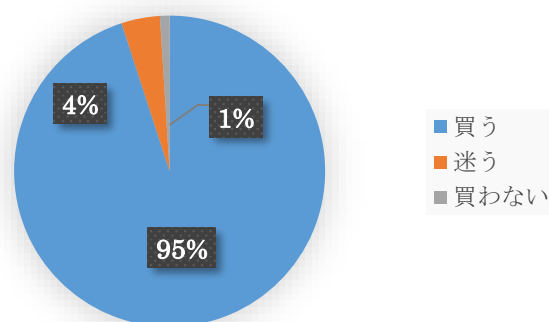


④常磐地区世代間交流事業（料理教室）

第4回のイベント開催は、いわき市社会福祉協議会からの要請を受けての開催となった。

「美味しかったから又食べたい。食材をしりたい」とう要望を受け、実施した。当日は多くの方が来場された。カジキとiwakiの特産品をしり、「もっと食べたい・お店で買うね」という声が95%をしめた。（試食中口頭調査）

どのコロッケが好きですか？



4. 事業の見直しと立案

「カジキと地元の農産物を使用した新商品の開発」という目標を立て、商品開発・販売することにより、多くの皆様にいわきの食材の美味しさをPRすることができた。

又、これらの活動を通して、JAいわき（産）いわき社会福祉協議会（官）カジキグルメ実行委員会・湯本高校（民）が一体となり、活動することができた。いわき市経済同友会からの高い評価を頂く事ができた。

「おいしい いわき」も少しずつではあるが、「田舎（いわき）から発信することができた。」

しかし、日本中には波及していない。継続事業とも言えないことは明らかである。

そこで、上記の内容を高校生が発信源となり、少しでも実現できないかと考え、ブレインストーミングを実施し、新たな事業計画として以下の2つの事を実施することとした。

A = 湯本高校生が主体となって「おいしい いわき」を県内外へPRする。=料理コンテストを通じての食材PR。=日本各地に波及=いわき食材購入層の増大。=経済効果大♥

B = 「かじ○コロッケ」の商品化=産・官・民が一体となって取り組む新規事業へ参加=いわき食材購入層の増大。=経済効果大♥

「本当にできるか」という不安もあったが、顧問の「やってみなきゃわからない。失敗しても、そこから見えるものもきっとある！」という言葉に後押しされてのスタートとなった。

5. 実施状況Ⅱ（2018年4月からの実施内容も含む）

A＝湯本高校生が主体となって「おいしい いわき」を県内外へPRする。＝料理コンテストを通じての食材PR。＝日本各地に波及＝いわき食材購入層の増大。＝経済効果大♥

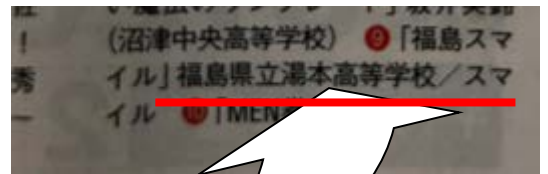
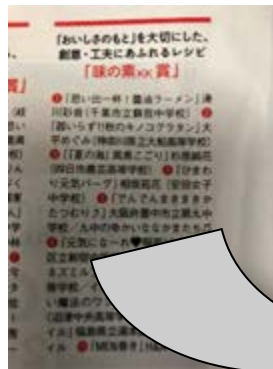
福島県内産の食材を使用したコンテスト（9個）へ県内外を問わず応募した。上位大会において、食材に大変興味を持って頂き、「購入したい」「いわきに行ってみたい」という意見が多く出された。

（9コンテスト中7個）

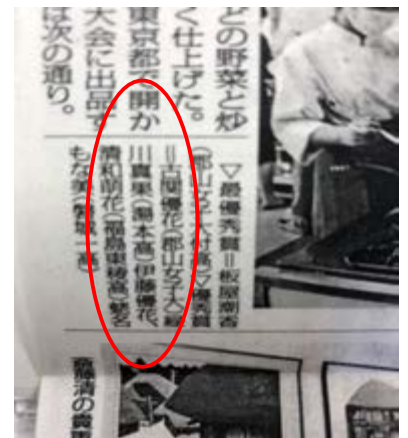
絶品うまいもん甲子園＝福島県大会第2位



ジュニア料理選手権＝味の素KK賞受賞＝オレンジページへ掲載



食肉惣菜創作発表大会（ミートデリカコンテスト）＝福島県大会第2位



第1回高校生レシピコンテスト（トマト料理コンテスト）＝ワンダーファーム賞 いわきFCパーク賞



I w a k i L a i k i 米粉料理コンテスト＝最優秀グランプリ



第7回食糧学院 東日本高校生レシピコンテスト＝技能賞受賞



家庭クラブ連盟研究発表大会＝県大会 優秀賞受賞

B = 「かじ〇コロッケ」の商品化 = 産・官・民が一体となって取り組む新規事業へ参加 = いわき食材購入層の増大。 = 経済効果大♥

2018年3月より、いわき市発信の「創生カジキグルメ」を20・50・100年先に繋げる為に・・・と題し、いわき市・カジキグルメ実行員会・いわき市経済同友会・湯本高校家庭クラブが一丸となって取り組むこととなった。又、この事業は「次世代後継塾」ともいわれ、未来の地域リーダー育成も視野に入れている取り組みである。

2018年5月～9月まで、「学び」「ブレインストーミング」「ブラッシュアップ」を繰り返し、10月商品完成と販売実験・協力販売店への委託・日本中への販売開始となる。いわき食材の購入層の増大については、経済効果増大へと期待されている。



6. 結果・考察

実施状況1では、「**カジキと地元の農産物を使用した新商品の開発**」という目標を立て、商品開発・販売することにより、多くの皆様にいわきの食材の美味しさをPRした。

この結果を受け、いわき市発信の「創生カジキグルメ」のメンバーとして選出され、20・50・100年先を見通し、いわき市・カジキグルメ実行員会・いわき市経済同友会・湯本高校家庭クラブ、産・官・民が一丸となって取り組むこととなった。4. **事業の見直しと立案**で示した、**B = 「かじ〇コロッケ」の商品化 = 産・官・民が一体となって取り組む新規事業へ参加**に繋がったと確信する。

さらに、**=いわき食材購入層の増大。 = 経済効果大♥**については、現在継続事業が達成することにより、効果が実感できると考える。

又、新たに4. **事業の見直しと立案**で示した、**A = 湯本高校生が主体となって「おいしい いわき」を県内外へPRする。 = 料理コンテストを通じての食材PR**では、想像以上の効果をあげることができた。福島県内産の食材を使用したコンテスト（9個）へ県内外を問わず応募した。上位大会において、食材に大変興味を持って頂き、「購入したい」「いわきに行ってみたい」という意見が多く出された。

（9コンテスト中7個）

コンテスト事に聞き取り調査をしたところ、約95%の方が「**おいしい いわき**」を買ってみたい「**田舎（いわき）へ帰ろう・田舎（いわき）へ行こう!!!**」という解答を得ることができた。（各コンテスト会場出口調査にて）

この事は、**=日本各地に波及 = いわき食材購入層の増大。 = 経済効果大♥**へ確実に近づいていると考える。

私たち自身の変化としては、下記のような内容を顧問の先生から頂いた。

自ら立案したこと実現・発信する中で、子ども達の中に、地域リーダーとしての資質が芽生えてきたアンケートを基に分析すると、自分から進んでやるという項目において、とてもよくできていると答えた生徒の割合が5%から24%へ、今住んでいる街を他人に自慢したいが0%から100%へ上昇した。今住んでいる街をもっとよくしたいと考える生徒が0%から100%へ上昇した。

又、地域創生を目指し、大学進学した生徒が数多くみられた。今後も期待する。

(例 宮城大学(地域経済) 福島大学(地域経済) 駒沢女子大学 千葉労災(地域医療))

7. 今後の課題

今後の課題は、もちろん、**いわき食材購入層の増大。＝経済効果大♥「田舎(いわき)へ帰ろう・田舎(いわき)へ行こう!!!」**という、気持ちが日本中に波及することである。

継続事業が実現した今、本研究の最終目的である、「**高校生から発信できる復興事業の展開**」と「**いわきの新たな魅力を発信 活気あるいわきを目指そう**」につながると確信している。

今後も、本家庭クラブのモットウである「学校には安らぎを・地域には温もりを・家庭には温かさを」を大切に活動していきたい。

時空を乗り越えたつながりを

～平成最後の虫送り 杏和高校の挑戦～



愛知県立杏和高等学校 地域研究

飯田真世 伊藤響 大島将義 加藤亜矢 黒田航輝 木村美穂 澤井翔太
沢田茉優 立松真実 寺澤史貴 早川侑那 坂東壮一郎 蓑島千東 東莉玖
山口唯月

はじめに

私たちの愛知県立杏和高校は愛知県稲沢市の旧祖父江町にある。「祖父江の虫送り」はここで行われ、愛知県の無形民俗文化財になっている。

虫送りは初夏に、稲の害虫を村から駆除し追い出すために全国的に行われてきた行事である。形態はいろいろあるが、斎藤実盛人形をつくり松明で行列を行い村境まで虫を追い出す地域も多い。しかし、農薬の普及や都市化が進む中で多くの地域でその行事はなくなっていった。愛知県内も多くの地区で行われていたが、大々的におこなれているのはほんのわずかである。その一つが、私たちの地域に残された「祖父江の虫送り」である。

毎年7月10日前後の土曜日に藁で作った実盛人形を先頭に太鼓・半鐘を鳴らし、松明を持ち田んぼの周りを行列し、最後に実盛人形を昇天させる。斎藤実盛は、平氏の武将で稲に足を取られて倒れたところを、殺されたことから怨霊となって農民を困らせた。実盛の怨霊を鎮めることで虫を追い払い豊作を祈る行事である。

以前は祖父江町全域でも行われていた。13年前まで祖父江町牧川地区の島本新田だけで残っていたが、2005年中止になってしまった。それを惜しむ有志の力で翌年の2006年復活することができた。さらに2007年祖父江虫送り牧川実行委員会が中心となって稲沢市立牧川小学校で行っている。

5年前市役所からこの伝統行事に「参加しないか」と声がかかり、高校の先輩たちが参加するようになった。それ以来、杏和高校として参加しながら様々な調査や研究をしてきた。

私達、このメンバーのほとんどが昨年実際にこの行事に参加した。伝統行事を外から見るだけでなく、伝統行事の担い手として参加し、実盛人形作成や松明の作成にかかわった。たくさんのお麦藁の袴取りに苦勞しながらかかわることができた。単調な作業も多かったが、その中で地域の人とたくさんのお話をしながら、地域の方々の温かさを感じることができた。また、夜の虫送り行事への参加をすることで、江尾時代から続く伝統が刻まれてきたその行事の魅力をも十分に感じることができた。

今年度、4月、再び仲間が集まったとき、今年はどうのようにこの伝統に参加するかを話し合った。例年通り、ただ虫送りに参加し調査するだけでなく、今年は一歩行動を前に進めてみようというということになった。調査は継続しながら、虫送りに関して可能な限り地域に情報発信しよう。自分たちが感じたその魅力を地域の人に、愛知県内の人に、全国の人に、少しでもその魅力発信していこうということになった。

わたしたちの今回の研究は3部からなる。それは以下のとおりである。

- I部 祖父江の虫送りとはどんな行事か
当日の様子と参加した感想
- II部 比較研究 祖父江の虫送りをより理解するために
地域の市史・町史を通じた文献調査
近隣地域の行事との比較
他の地域の虫送りのとの比較
- III部 情報発信 祖父江の虫送りの魅力を知ってもらうために
情報発信と今後の計画

I部では、私たちの参加している祖父江の虫送りについて説明する。今年の虫送りは7月7日（土）が予定されている。今の時点ではまだ行われていないので昨年の様子を再現し、当時書き残した感想をまとめてみた。

II部では祖父江の虫送りをより知るために類似のものとの比較研究・調査を行った。まず、私たちの通学地域である尾張西部の市史・町史・村史を全て調べ、かつて全域で行われていた虫送りの地域的な特徴を調べてみた。次に、市史などにも載っていないが、現在でも行われている「虫祭」に実際に調査してみた。さらに、他地域・他県で行われている虫送りについては現時点行っていることをまとめることにする。

III部では、祖父江の虫送りの情報発信について、現在行っていることをまとめてみた。この原稿をまとめる段階では、虫送りはまだ2週間後の話である。実際情報発信がどの程度の効果をもたらすかはわからないが、今の時点のことをまとめることとする。

I 部

祖父江の虫送りとはどんな行事か

1. 祖父江の虫送り当日の様子 2017/7/8

1) 一部 人形・松明作り 13:00～17:00



12:30 ごろ作成会場の稲沢市立牧川小学校につくと会場の学校の外には看板・のぼりがあった。今年は虫送り用と郷土資料館用の2体を作らなければいけないので大変である。実盛人形は全員で組み立てていくのではなく、「手足班」、「頭班」、「ウマ班」など、部位に合わせて分かれて作り、それぞれが出来上がったところで集めて合体させた。馬は稲ワラ、小麦ワラ、細縄、サツマイモ、ナスを使い、実盛人形は小麦ワラ、ハカマくず、稲ワラ細縄を使い作られる。



体育館内は部品ごとの看板を立てられどこで何を作るかがわかるようになっている。

まずは、麦の袴をとる作業。

私たちはわかれていろいろな人と話ながら作業をおこなった。



地域の方に教えてもらいながら、麦ガラのはかまを一本ずつ剥いた。この作業はとても細かくて、根気のいる作業だった。ここでは、年代が違う方たちとたくさんお話をすることができ、本音を聞くことができた。この作業は本当に大変だった。

実際に作るのを体験してみて思ったことは、小麦多すぎ！でした。初めのほうは小麦の稈をきれいにすることがストレス発散になるなどと言っていましたが、ものの数分で飽きてしまいました。でも、来たからにはちゃんとやり遂げたかったので頑張りました。個々のパーツが出来上がっていくのを見ていると早く完成作がみたくなり、頑張る気力になりました。

なぜ稲の藁でなく麦ガラを使うのか聞いて見たところ「小麦稈は稲藁よりかたい」「形が作りやすい」「美しくみえる」という答えがもらえた。

入手方法は、「以前は地元で作っていたが、今は作っていない」「稲沢で、手作業で育てるより岐阜から仕入れたほうが安いから」「もし、岐阜で育てなくなったら、遠くからでも仕入れる」そうだ。

次は松明作り



松明は麦ワラ、菜種ワラ、稲ワラ、縦割りにした竹から作られる。まず麦ワラの「ハカマ」を取る作業をする。「ハカマ」とは、ワラの一番外側に付いている薄い皮のようなもので、その後の作業のしやすさや、見た目の点からこの作業を行う。まず束になった藁を十本ほど均等に並べる。その次に、藁に対して垂直になるように麦わらを置く。この作業は麦ガラの穂の部分と根の部分の向きを揃えることと、麦ガラを少し重ねて置くこと、麦ガラの量を揃えること、松明の下の部分から順番に置いていくことが重要。実際にやってみると、何度やってもうまくいかず、見ているだけでは分からない難しさがあった。次に、麦わらの上に菜種ガラを置く。菜種ガラは松明の上の部分から置いていくことと、少し重ねておくことが重要。その次に菜種ガラの上に麦わらを最初と同じように重ねていく。麦わらの間に菜種ガラを入れるのは、松明に火をつけたとき、よく燃えるようにするための工夫。次に、一番最初に並べた藁を使って麦わらをまとめる。藁を使って束ねていくときに、藁の結び方にも特徴がある。その結び方とは、まず藁を交差させて力いっぱい引っ張る。その次にその藁をねじる。ねじった後一つにまとめて、半

分に折り曲る。折り曲げたら、松明の上の方向から麦わらと藁の間に挟みこませれば完成。縄で竹を結ぶときは、固く結びすぎてしまうと火をつけても燃えにくくなってしまったり、ゆるく結んでもほどけてしまうので力加減がとても大切。次に、それを縦に五等分に切り込みを入れた竹に挟む。このときに、竹と竹の間隔が均等になるように、竹の中心に麦わらを置くことが重要。その次に、麦わらと竹を縄で結ぶ。このときの結び方は、麦わらをまとめるときとは違い、まず縄を二回竹に巻きつけ、その次に力いっぱい引っ張ってから、固結びをし、これで松明は完成。

松明についても聞いて見た。「松明のひものしめ具合は、その日の天候によって決まる。風が強い時は燃えすぎないようにしっかりしめる。風が弱い時は燃えるようにゆるくしめる」そうである。また、「なたねを入れるわけは、松明を燃えやすくするため」だそうだ。

人形づくり

各パーツごとに作る。顔作りにも関わることができた。



麦を引っ張り組むことで馬の頭部を作る。一緒に作業しているのは高木さん。唯一昔から行われていた島本新田から唯一参加している人。微妙な難しい作業はこの人のアドバイスは欠かせないそうだ。今年の麦は短いらしく、人形の形がうまく作れずに困っていた。



馬を作実盛人形と合体させる。



海田会長さんによる実盛人形の顔描き。

毎年会長さんが描いているのか聞いてみると

「いや、去年から。あの一、今までは家で書いてきてたんだけど、それはやっぱり今までずっと伝統でその現場で書いとったもので、現場で書こうってことで去年から書いたら、自分はみんなの方見て書いたんだけど、実盛さんがみんなの方みてなくて、せっかく書くのに顔をみんなの方向けないのはどうだってことで、今年は脚立持って来たんだ。」

と答えてくれた。

顔が完成。会場に拍手が沸く。様々な作業の遅れがあり予定より一時間遅れの 5 時に一部が終了した。私たちはお寿司とお茶をもらい一時休憩。

2) 二部 虫送りの行列 19:00~20:30



牧川小学校の校庭に実盛人形と松明が並べられる。松明を並べるのに私たちも頑張った



19時行事が始まる。最初は会長さんの挨拶。市長さん、議員さんの挨拶。



だんだん暗くなりはじめ出発。祖父江と書いた提灯、実盛人形、中学生の抱えた太鼓が続く。



私たちも一番後ろで出発



今年は風が強いらしい。火をつけると一気に燃える。小学生には大変。

火を灯した松明を持って歩いている最初に行った人たちを見ていると、まるで、江戸時代にタイムスリップをしたような奇妙な体験をしているように思われた。どんどん火を灯す場所まで近づくと、日に対する恐怖心とともに好奇心が出てきた。自分たちの番が来て、火を灯したと同時にわっと感動が出てきた。



光の列が出来上がる。



火の勢いに押され続ける。

松明を持って歩いているとき、風の影響もあって、どんどん火が燃え盛っていき、火を調節するための水がなくなっていたので、このままでは火が持ち手まで来てしまうのではないかとあせった。途中で消防団の方が水を持ってきて調節してくれたのと、周りが田んぼなので火の粉が落ちてもしないの幸いだった。



重くはないけれど、火をつけると熱くてバランスを保つのも難しかった。自然と汗が出て腕が疲れてくると、だんだん重く感じた。でもこうした方がいいよ、とアドバイスをもらうなど周りの方々にたくさん助けてもらった。みんなで協力して持つことは楽しかった。



実盛昇天の地に近づく



松明を火に投げ入れる。



いよいよクライマックス。鐘や太鼓が打ち鳴らされる。



実盛が昇天し拍手とともに終わる

2.祖父江の虫送りに参加して感じたこと

1)

私は中学校の頃に一度、夏休みの宿題で祖父江の虫送りについて調べたことがありました。しかし、なかなか参加できるチャンスがなく、今回初めて実際に虫送りに参加することができました。実際に参加してみると、調べても分からなかった行事の雰囲気や、人形の作り方、行事に参加されている方の気持ちなどを知ることができたり、伝統行事を続けていくことの大変さを身にしみて感じることができました。

1部

私は最初、地域の方に教えてもらいながら、麦ガラのはかまを一本ずつ剥いていきました。この作業はとても細かくて、根気のいる作業でした。ここでは、年代が違う方たちとたくさんお話をすることができ、本音を聞くことができました。

次に、地域の方々と一緒に松明を作りました。この作業はとても力が必要な作業で、女の人の力だけでは決して作ることはできないようなものでした。まず束になった藁を十本ほど均等に並べていきました。その次に、藁に対して垂直になるように麦わらを置いていきました。この作業は麦ガラの穂の部分と根の部分の向きを揃えることと、麦ガラを少し重ねて置くこと、麦ガラの量を揃えること、松明の下の部分から順番に置いていくことが重要でした。実際にやってみると、何度やってもうまくいかず、見ているだけでは分からない難しさがありました。次に、麦わらの上に菜種ガラを置きました。菜種ガラは松明の上の部分から置いていくことと、少し重ねておくことが重要でした。その次に菜種ガラの上に麦わらを最初と同じように重ねていきました。麦わらの間に菜種ガラを入れるのは、松明に火をつけたとき、よく燃えるようにするための工夫でした。次に、一番最初に並べた藁を使って麦わらをまとめていきました。藁を使って束ねていくときに、藁の結び方にも特徴がありました。その結び方とは、まず藁を交差させて力いっぱい引っ張ります。その次にその藁をねじっていきます。ねじった後一つにまとめて、半分に折り曲げます。折り曲げたら、松明の上の方向から麦わらと藁の間に挟みこませれば完成です。縄で竹を結ぶときは、固く結びすぎてしまうと火をつけても燃えにくくなってしまったり、ゆるく結んでもほどけてしまうので力加減がとても大切でした。次に、それを縦に五等分に切り込みを入れた竹に挟んでいきました。このときに、竹と竹の間隔が均等になるように、竹の中心に麦わらを置くことが重要でした。その次に、麦わらと竹を縄で結んでいきました。このときの結び方は、麦わらをまとめるときとは違い、まず縄を二回竹に巻きつけます。その次に力いっぱい引っ張ってから、固結びをしていきます。これで松明は完成です。

私は、松明を作りながら虫送りで使われる大量の麦がどこで作られているのか気になったので、地元の方にお話を伺ってみると、虫送りで使われる麦ガラは大量に必要なので、岐阜県海津市の農業の方たちと協力して作っているとおっしゃっていました。

た。農業の方は上の小麦になる部分だけを収穫して、下の部分をそのままにして乾燥させて作るそうです。地元の伝統的な行事をこの先もずっと続けていくために、周りの地域の方たちと支え合っていることがよく分かりました。

2部

牧川小学校に集合して行われたセレモニーでは、1部のときよりもたくさんの方が参加していて、地域のみんなで盛り上げ、この伝統行事を未来に繋げていこうという思いが伝わってきました。また、大人だけではなく小学生や中学生、それよりもっと小さい子どもたちも多く参加していました。なぜ虫送りに参加したのか気になったので、小学生に話を聞いてみると、毎年参加しているからだと話していました。小学生にとっては、虫送りに参加すること、虫送りを行うことが当たり前のように感じているようでした。私はその話を聞いてとても良いことだと思いました。なぜなら、小さい頃から行事に参加することで将来大きくなったときに、行事を運営していく中心的存在になれると思うし、自分の住んでいる地域に残っている伝統行事に誇りを持つてると思うからです。また、これからも虫送りを続けていきたいという思いも芽生えると思ったからです。

セレモニーの後は、1つの松明を5~6人で持ち、一列に並んで田んぼの周りを練り歩きました。その日は風が強く、松明に火をつけるととても激しく燃えました。火の近くはとても熱く、松明を持つと少し恐怖を感じるほどでした。最初は大変な思いをして作った松明を燃やしてしまうのはもったいないと思っていましたが、実際に体験してみると、頑張ったからこそ達成感がありました。田んぼの周りを一周した後、松明を火の中へ投げ入れました。私が持った松明が一番最後だったので、みんなが松明を投げ入れたところには、大きくなった火があり、火の方に顔を向けると熱風が襲い掛かってくるような感じでした。それでも、一生懸命に作った松明を火の中に入れるときは、熱さを忘れるくらい爽快感がありました。虫送りのクライマックスでは、実盛人形を火の中へ投げ入れました。実盛人形を火の中へ投げ入れるときは、周りに鐘や太鼓が鳴り響き、特に盛り上がっていました。その光景は、とても迫力があり、その場に一体感が生まれていました。虫送りがすべて終わった後には、清々しい気持ちになり、参加できて良かったと心の底から思うことができました。

今回、実際に行事に参加することで、調べるだけでは分からないようなことをたくさん知ることができ、地元の伝統行事を知る良いきっかけとなりました。地元の方とお話をしているときに、昔と今では行事を行う意味が変わってきているなど感じることもありましたが、しかし、地域のことをこれからの世代に伝えていくためにも、地域の人たちの交流の場としても、地域の伝統行事を守っていくことは大切なんだと感じました。また、未来にこの伝統行事を残していくために、地域の方に積極的に声をかけて参加してもらったり、小さい子にも参加してもらおうなど、さまざまな工夫も凝らしていかなければいけないことが分かりました。また、違う年代の方と話すことの楽しさ、行事に参加することによって得られる新たな発見や、楽しさを感じることができたので、これか

らは、私自身も積極的に地域の行事に参加していきたい、この楽しさを他の人にも知ってもらえるように伝えていきたいと思いました。そして、参加する人の輪が広がっていき、人と人との交流も増えていけば良いなと思いました。

2)

私は初めて虫送りに参加しました。虫送りというものがあること自体初めて知りました。

虫送りが隣の町に虫を追い出すためにやっているというところが面白いと思ったし、やり方がとても気に入ったので参加しました。

体育館に入ったとき、出来上がったものがすでに置いてあり、想像以上に大きく驚きました。また、こんなに大きいものがつくれるのかなと少し不安にもなりました。また、小麦稈の量が予想をはるかに超えていて、言葉もでませんでした。松明もとても大きく、すべてのものが予想外でした。

実際に作るのを体験してみて思ったことは、小麦多すぎ！でした。初めのほうは小麦の稈をきれいにすることがストレス発散になるなどと言っていましたが、ものの数分で飽きてしまいました。でも、来たからにはちゃんとやり遂げたかったので頑張りました。個々のパーツが出来上がっていくのを見ていると早く完成作がみたくなり、頑張る気力になりました。今回は小麦稈をきれいにすることばかりやっているので、次は違うこともしてみたいなと思いました。また、今回は大人の方とあまり仲好くなれなかったので次の機会や他の体験などではもっと積極的にいきたいです。

松明づくりも体験させてもらいました。松明づくりに竹を使用することに驚きました。松明というものがいまいよくわかっていなかったので知るいい機会になったと思います。松明を作る時のひもの結び方が見ているだけでは全然分からず、実際に教えてもらってもいまいよくわかりませんでした。思ったよりも力が必要だったのでこれをすいすいとやっている地域の方は本当にすごいと改めて思いました。最後のすべてのパーツを組み合わせていくのをみていて、稈と稈の間に稈をいれるのだと驚きました。また、性器まできちんとついていてしっかりしていると思いました。顔もきちんと描かれていてすごいと思いました。すべての作業が終わり、完成作をみたとき達成感と謎の愛着がわきました。

実際に持って歩くことも体験しました。思っていたより松明が重かったです。昔の人はこんな重たいのを持って隣町まで歩いてたというのですごすぎだと思います。少しの距離ですら重くて耐えられませんでした。また、火をつける場所と持ち方が思っていたのとは逆で、とても怖かったし、不安でした。煙が自分にとってもかき臭かったです。今は火の加減をするためにたくさんの方がいますが、昔はすべて自分たちでしていると思うと不安はないのかなと昔の人にとっても聞きたくなります。最後燃やす場所に着き、松明をいれ、実盛も入れた後、疲労と達成感に包まれました。とても疲れたけど、

とても貴重な体験ができたと思います。このほかの地域御行事にも積極的に参加していきたいです。驚きがたくさん的一天でした。

3)

今回私は初めて虫送りに参加をしました。これまでも敬老会や公民館祭りなど、地域の行事に参加する機会はありませんでしたが虫送りの様に地域の歴史文化に触れることのできる行事は初めてのことでとてもワクワクしました。

はじめは麦わらを見栄えの良いうように綺麗にする作業で地元のおじいさんとお話をしながら作業をしました。そのおじいさんは今年が三回目ということでとても手慣れっていて素早く綺麗にする方法を教えてもらいました。

大学で地域の歴史を研究しているという方や地元の小学生も体験活動に来ており、最近では若い人たちも多く参加してくれて嬉しいとおっしゃっていました。松明や人形の作り方などは地域の実行委員会に資料は残されてはいるものの、実際に作る技術をこれからは次の世代に受け継いでいかなくてはならないと。

松明や人形作りや第二部で松明をもって歩いている時など、周りを見渡すとたくさんの方々がいて、なんだか不思議な気持ちになりました。普段同じ区域に住んでいても顔を合わせる事のないような人たちに会い、一つの事を成し遂げる。一つの文化を学ぶことから多くの人に会い、いろいろな話を聞かせてもらいました。ただ単に文化を知るだけではない何かこそばゆいものが得られる地域史にとっても興味がわきました。最後に手を引かれて大取の実盛人形を投げさせていただいた時、それまでの疲れを忘れるほどやり遂げたという達成感でいっぱいでした。

今回は初めての参加ということではじめは見様見真似で役に立てたとはとても言えないと思いますが、次回参加するときは今回地域の方々に教えてもらったことを活かしていきたいと思っています。

4)

私は初めて虫送りに参加しました。参加した理由は、自分の地域以外ではどのような伝統行事をしているのか気になったからです。自分の地域の伝統は小さい頃から必ず触れることができます。しかし、他の地域の伝統に触れる機会はなかなかありません。だから良い機会だと思い参加しました。

私は、「虫送り」と聞いて何も想像できませんでした。どういったことをやり、どんな意味があるのか。第一部に参加はできなかったのですが、牧川小学校に到着した時にサネモリ人形を見つけて驚きました。とても大きくて迫力がありました。それと同時にこれを燃やしてしまうのか、と残念にも思いました。

そしてしばらくお話を聞きました。虫送りは農薬がなかった時代に命懸けで行われていました。害虫は人間の最大の敵で、稲を食べてしまっていました。それが原因で大

飢饉に陥りました。私は「命懸けで」と聞いたとき、疑問に思いました。今では危なかったらすぐに水で鎮火でき、農薬を使えば害虫にも困りません。何の苦労もなく食物を育てることができます。でも昔はこのようなことができるはずありません。だから「命懸けで」と言われているのだと思います。

そしてもう一つ、藁を竹で包んだ松明というものが並べられていました。そしてそれを六人で持ちました。重くはないけれど、火をつけると熱くてバランスを保つのも難しかったです。自然と汗が出て腕が疲れてくると、だんだん重く感じてしまいました。でもこうした方がいいよ、とアドバイスをもらうなど周りの方々にたくさん助けられました。六人で協力して持つことは楽しかったです。サネモリ人形を炎に投じるときはドキドキと胸が高鳴りました。もともと大きかった炎がさらに大きくなって、昔も今も変わらずこの伝統行事が行われていることは凄いことだと思いました。

今回の経験を通して、地域の伝統行事に触れていくことは大事であり自分の地域のこともより知っていき積極的に関わりたいと思いました。

5)

今回祖父江の虫送りと玉野の虫送りに参加してみて、僕は伝統行事の楽しさや地域の人達の心の温かみに触れることができました。昔は日本各地で行われていた虫送りですが、今では行っている地域も少なくなっているらしいです。今回参加した2つの虫送りの参加者の平均年齢はとても高かったです。

10年以上前から参加している人に話を聞いてみたところ、「地域の人でも年々参加することができなくなってきているので、今の虫送りは地域の人だけでなく周りの沢山の人の協力があって成り立っている。」と話してもらいました。このことを聞いて虫送りは地域の人やその他の沢山の人のつながりによって今まで継続して行われているのだとわかりました。他にも、祖父江の虫送りでする沢山の麦も昔は農業が盛んで沢山の作られていたのですが、今では作る人が減ってしまっているのです。わざわざ虫送りをするために麦を注文するそうです。

2つ目の玉野であった虫祭りは規模はあまり大きくなく、神社でお祈りをしてその時に使った竹を各玉野の町内とそこに参加していた人たちの田んぼにさすという内容です。竹の長さは長い竹と短い竹の2つがあり、町内の竹が長い竹で、地域の人々の田んぼにさす竹は短い竹と分かれています。色々調べたところ自分が住んでいる地域の近くでも同じような形式の虫送りが行われていることがわかり、自分の身近な場所であっても知らないことがまだまだたくさんあるということを知ったと同時にもっと沢山の伝統行事に参加したいと思いました。

6)

今回初めて虫送りに参加するまで、虫送りと言う行事自体、聞いたことがなく、どんなお祭りなのか全く知りませんでした。自分で調べて、他の人に聞いて、昔の人たちは道具がない中で困ったことを解決しようとする工夫に驚きました。

実際に参加してみて、ワラは重く、火が近くにあり熱く一周周った後にはへトへトになっていました。けれど、友達と一緒に協力してワラを持ったり、地域の人と交流して色んな話をしたり、とても貴重で楽しい体験が出来ました。

今回参加した祖父江とは違う地域でも、「害虫を追い払う」と言う目的は同じでも虫送りが始まった起源が違ったり、用いられるものが違ったり、調べれば調べるほど少しずつ違いが出てきて、面白かったです。

農薬が開発された今でも、こうした虫送りが行われるのは、伝統を守っていくためや、地域の方との交流などの場となるのでこうした昔から続けられている行事によって、地域活性化が出来るのではないかと感じました。

これから、積極的に地域の行事に参加していきたいと思いました。

7)

「誰も作ろうとしないんだ。ほら、皆何をしたらいいかわかってないだろ。それじゃ駄目なんだよ。」運良く一番ベテランの方の隣で作業をさせていただいた私は、ふとこんな言葉を耳にしてしまった。

初めて虫送りに参加した私は全くと言っていいほど完成形が目に浮かばぬまま、藁の余分な部分をひたすら取る作業を見よう見まねで行っていた。この作業をしないと次の作業が出来ないんだと、他の方々は口々にぼやく。

最初に動き出したのは私が所属していたグループ。馬の顔の作り方をベテランの高木さんが周りに教えながら作っていた。それを私は近くで見学し、時にはお手伝いをさせていただきながら、思っていたよりも力技であることや崩れないようにする藁の巻き方ひもの結び方を学んだ。しかしその時後ろを振り返ると、黙々と藁の手入れを続けている人や、何もしないで携帯を触っている人、次の作業がわかっていないであろう人たちのかたまりが目に入った。私はその時高木さんの言葉が少し、ほんの少しだけだが、わかった気がした。高木さんの中に生きている虫送りは、現状とは違うものだと感じる。大人から子供まで皆が必死で、全員が作り方や作業の内容を把握し、前向きな気持ちで次から次へと手を出す。そんな言葉にならない一つの地域としての繋がりをを感じるような祭りだったではなかったのだろうか。

それが今やどうだ。やらされている空気がどことなく感じられていたのは私だけではないはずだ。受け継がす側と受け継ぐ側の見えているものが同じでなければ、最良の形のまま虫送りが行われることは今後一切ないだろう。

8)

じりじりと太陽が照る祭りにふさわしそうな真夏の天気の中、私は胸を踊らせながら牧川小学校という名の保育園ぐらいの小さなところ体育館へ向かいました。中へ入ると床はビニールシートが敷いてあり、その上に何万本もの麦藁と菜種がらがあちこちに山のように置いてあり、それを囲むようにしておじさん達や小学生達がわらを持って作業をしていました。私はこの行事に参加するのは初めてだったので、何をすればいいのかをおじさんばかりのグループに混ぜてもらいました。

そのグループはどうやら、松明を作るそうで、藁の皮をむくことを約二時間行くと、次に藁を数本束ねたものを均等に十本ぐらい並べてその上に葉、菜種がら、藁の順に置いて下の葉の束で結び、長い竹を縦に四方向に切ったものの中に入れて最後はロープで縛るということを何回も繰り返し行いました。これを行っている時に私はこんなに大変なことを昔から今まで続けてきたのかと思うと、伝統を受け継ぎ、こう背へ伝えること自体がとても偉大だと感じました。

夕方になり、予定よりも一時間以上遅れて第一部が終わりました。私は二時間の休憩を経て第二部を迎えます。

午後七時頃、夕日が沈みかけて、少し涼しくなって、気がついたら運動場は祭りに参加する人、見物する人でにぎわっていました。

開会式を終え、さあいよいよ祭りだという雰囲気の中、五、六人のグループに分かれて松明を持ちます。三十本ある松明のうち私がいるグループは三十番目の一番最後の松明を持って小学校を出ました。火を灯した松明を持って歩いている最初に行った人たちを見ていると、まるで、江戸時代にタイムスリップをしたような奇妙な体験をしているように思われました。どんどん火を灯す場所まで近づくにつれ、日に対する恐怖心とともに好奇心が出てきました。自分たちの番が来て、火を灯したと同時にわっと感動が出てきました。松明を持って歩いているとき、風の影響もあって、どんどん火が燃え盛っていき、火を調節するための水がなくなっていたので、このままでは火が持ち手まで来てしまうのではないかとあせりました。途中で消防士の方が水を持ってきて調節してくれたのと、周りが田んぼなので火の粉が落ちて燃えたりはしないので幸いでした。そこでふと思ったのが、虫送りが他の地域で行わないことの一つに、家が回りにたくさんあると、火が燃え移って火事になる恐れがあるからということです。周りが田んぼばかりだからこそ行事を行うのにふさわしい場所を選ぶことも大変棚と思いました。

祭りもそろそろ折り返し地点になってきた時、五、六人の人たちに写真をフラッシュ付きでいきなり撮られたのは驚きました。

その後少し歩くと、大きな火が見えてきました。その場所でクライマックスを楽しむようです。近づくにつれ、先に松明をそこで燃やした子供や大人の姿がありました。自分たちが持っている最後の松明を火に放つと拍手をしてくれました。最後の締めは実

盛人形を昇天させるために火を放つのを地域の人たちにすすめられたけれども、もう一度あの熱い火の中に行くのは無理だと思ったので断ってしまいもったいないことをしたなと思いました。

今回地域の伝統行事に参加してみて、今までは地域の伝統行事が自分の住む場所にあるのかも分からなくて、あったとしてもきっとつまらなそうに終わっていたけれど、実際に体験してみると、意外と興味深かったり、達成感を味わったりして得るものが自分にとってとても大きかったので、地域の伝統への視野が広がったような気がします。夏休みなどを通してもう少しそういったことに積極的に参加してみようかなと思いました。

9)

祭りの起源は、歴史的背景を持っており、それぞれに意味がある。私は昔から伝統的に続いている虫送りを体験してきた。地方でも続けられている所は減ってきている中続けることができているのは素晴らしいと思う。

前半にわら人形と松明、後半に松明を燃やして田を回り、最後に人形も燃やすという流れであったが、大半は前半の人形、松明づくりに労力が費やされた。

前半の人形作りではまず、わらを一本一本余分な部分をむいて取り除く。そしてそのわらを束ねて編むことで最終的に人形や松明の形を作っていくが、この過程のなかで地域の方々と少しずつ交流していくなかで多くのことを学んだ。例えば、今年はわらの長さが短かったようだ。参加している方たちの中には農業関係者の方もいるようであったが、恐らくそれだけでは補いきれないのだろう。こういった点を見ると経済的背景も大まかな形で見ることができる。多くの人が支えあって成り立つものだと改めて感じる。また参加する方々の多くは高齢であり、彼らが主体的に取り組んでいた。しかし、交流することにより人生の価値観など文化以外についてのことも感じ、多くのことを学べると実感し、その意義を考えると是非若者にも参加していただきたいと思う。一人ひとりが違う人生を歩んでいるが故、それぞれが別々の行事に参加する意味を感じながら取り組んでいることがわかった。

後半では、前述通りに松明を燃やして田を回っていった。特にわら人形を燃やす瞬間は圧倒された。全員でやり遂げた達成感は普段感じることはできないものであった。

後日、別の地域の虫祭りというものにも参加した。歴史的背景としては虫送りと同義であるが、行う方法に違いがみられた。こういった時代の流れによって伝統的文化の形態に変化があることもわかった。

こうして地域の伝統的文化に直接触れてみると、知識だけではわからない部分が多々あった。今回の虫送りへの参加は非常に有意義なものであったという確信ももった。

10)

僕は祖父江の虫送りに参加し、多くのことを学びました。

一つ目は虫送りの初めで、平安時代に武将斎藤実盛が戦で、馬の脚が稲にとられて殺されてしまい、稲の恨みから害虫となり、稲を食い荒らすので、害虫を追い払って怨霊を鎮める事から虫送りが行われると知った。これを知り、平安時代の出来事から今の世代まで続いている伝統的な行事に参加できてとても良かったです。この伝統的な行事を次の世代にも続けていけるよう、今の若者たちは虫送りに積極的に参加し、いろいろな人に呼び掛けていくことが大事だなと思った。

二つ目は、松明の作成です。菜種に藁をつつみ、割れ目を入れた竹に差し込むという作り方を学んだ。菜種に藁をつつむときに使う縛り方がとても難しく、何度も教えてもらいながら縛ることができた。その後、おじさんたちにサポートしてもらって、ほぼ一人で松明を作ることができ、達成感を味わうことができた。また、松明を作る際に使われている藁は、麦の藁を使い、イネの藁はあまり使われないと知った。理由は、イネの藁は折れたりしやすく、曲げたり加工したりするのに不向きだからと聞いた。藁なら何でもいいわけではなく、向き不向きがあることを初めて知った。

僕は虫送り行事で実盛人形を燃やす瞬間が一番心に残った。みんなが何時間もかけて作った実盛人形や松明がすぐ燃えてしまうのはなんだか寂しい気がしたけれど、すべて燃えてしまったとき、達成感を味わうことができた。実盛の怨霊を昇天させることで、地域の作物がよく収穫できるようになったらいいなと思った。これからもできるだけ参加し、友達などを誘って、虫送りの行事を次の世代につなげたいと思った。

11)

松明作りと実盛人形の傘の作り方を教えてもらった。紐の結び方が特殊で結ぶのが難しかった。松明をもって田んぼの周りを歩くのは火の粉が落ちてきたりなかなか熱かった。実盛人形が火のなかに入れられるときはすごく豪快で見ていてよかった。作業が暑い中での作業だったので大変でしたが友達と話しながらや地域の人が丁寧に教えてくれてとてもいい体験ができました。

12)

今回、実盛人形の作成と松明作り、そして虫送りを体験した。人形・松明づくりは牧川小体育館で、虫送りは牧川小周辺の屋外で行った・

午後1時から4時までの日程で実盛人形と松明を製作した。
実盛人形2体(1体は保存用)、松明30本(前日8日に牧川小学校の生徒が6本製作)を製作した。

実盛人形は全員で組み立てていくのではなく、「手足班」、「頭班」、「ウマ班」など、部位に合わせて分かれて作り、それぞれが出来上がったところで集めて合体させた。馬

は稲ワラ、小麦ワラ、細縄、サツマイモ、ナスを使い、実盛人形は小麦ワラ、ハカマくず、稲ワラ細縄を使い作られる。

松明は麦ワラ、菜種ワラ、稲ワラ、縦割りにした竹から作られる。この地域で多く栽培されている稲のワラを主に使わないのは、「麦ワラの方が見た目が良いから」だそうだ。

まず麦ワラの「ハカマ」を取る作業をする。「ハカマ」とは、ワラの一番外側に付いている薄い皮のようなもので、その後の作業のしやすさや、見た目の点からこの作業を行う。

「麦ハカマ取り」が終わった麦ワラは、別の場所に運ばれて、菜種ワラ、竹と合わせられる。

竹の上に麦ワラを等間隔で、前に置いたワラに 3 分の 1 かぶるように乗せていく。この上に燃えやすい菜種ワラを乗せる。その後、一度立てて上下に床にたたきつけてワラを竹の奥まで押し込む。押し込んだら再び倒し、稲ワラで縛っていく。このとき、菜種ワラや麦ワラが外に飛び出さないように縛る。縛り方はいくつか種類がある。縛り終わったら束ねて、長くして完成。

松明には、本来子供用、大人用などの大きさの違いがあるが、今年はワラの長さが例年に比べて短く、松明も多少小さくなった。

今回初めて地域の伝統行事というものに参加した。自分たちが参加することでこの貴重な行事を継承していくことの重要性や、校外に出て地域の方々とコミュニケーションすることの大切さを学んだ。また、こうした際に訪問し体験して調べていきたい。

Ⅱ部

比較研究

祖父江の虫送りをより理解するために

1.市史・町史・村史の中の虫送り

1) 調査したこと

虫送りについて、私たちが通学しているこの尾張西部ではどう行われていたのかを知るために、近隣の図書館で調べてみた。

今回は尾張の虫送りについて調べたのは以下の14の旧市町村である。

1. 一宮市
2. 一宮市 (萩原地区)
3. 尾西市 (現在の一宮市)
4. 稲沢市
5. 八開村 (現在の愛西市)
6. 立田村 (現在の愛西市)
7. 佐織町 (現在の愛西市)
8. 津島市
9. 美和町 (現在のあま市)
10. 七宝町 (現在のあま市)
11. 市江村 (佐屋町→現在の愛西市)
12. 弥富町 (現在の弥富市)
13. 十四山村 (現在の弥富市)
14. 飛島村

(↑番号は北から南に順番になるようにした。)

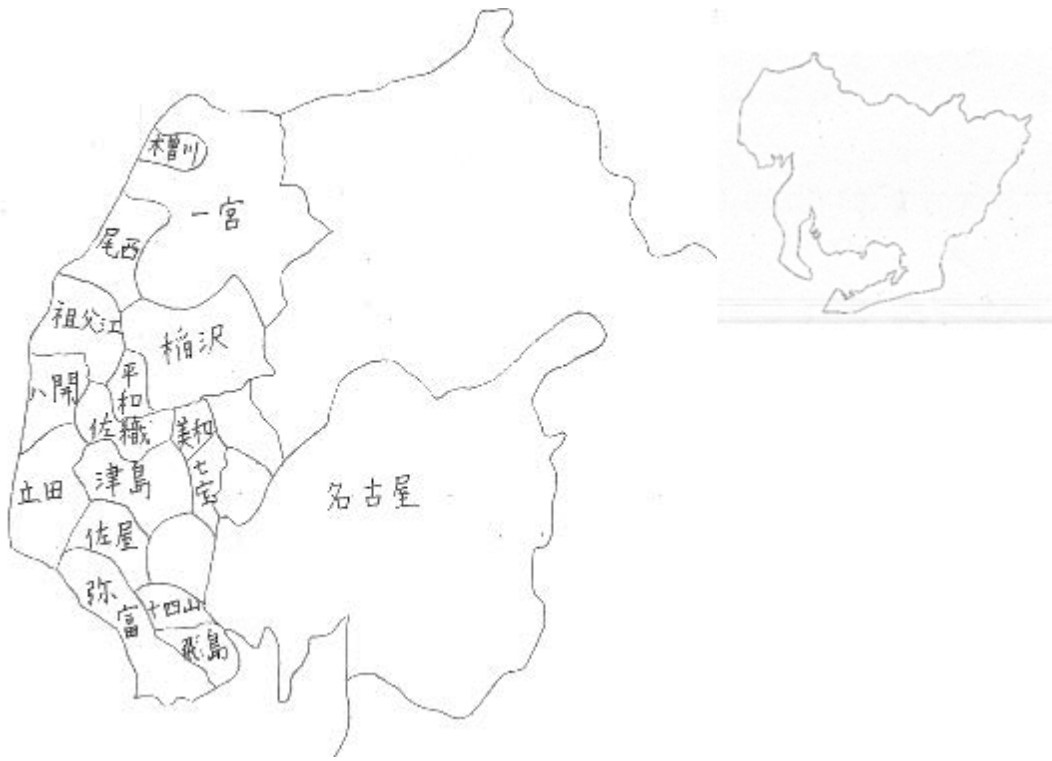
まとめた内容は下の表の通りである

	旧市町村	現在市町村名	出典	道具など	歌	参詣者へのふるまいなど	特徴	現在
1	一宮市	一宮市	一宮市史 S14	鳳凰・斎藤実盛の藁人形・幟旗鐘・太鼓	「浮塵の神送れよ」	?	五月六月頃行う。 浮塵子祭りともいう、鳳凰及斎藤実盛の藁人形又は幟旗を立て、鐘太鼓を鳴らし「浮塵の神送れよ」とロ々に呼び田間の畔道を一巡し、村境に至りて捨る。 下町は六月中頃地藏寺にて虫拂札を請け青竹に差して田中の畔にさすのみとなる。	?
2	一宮市萩原地区	一宮市	一宮市萩原町史 S44	松明	?	酒	鐘と太鼓を乱打して、松明持って他の虫を一挙に追い払う勢いで、田の畔を練り歩いた。	?
3	尾西市	一宮市	尾西の年中行事 H16	竹に御幣を付けたもの	特になし。	お神酒	別名「虫祭り」。昔は松明や提灯を農道や木曾川の堤を練り歩く本来の虫祭りが行われていたという（上祖父江の南外山地区）。 村の農家総出で夕方たいまつをかざして村内の四社を回り、虫祭りをした。現在では神事のみ行われ、御幣のついた竹が希望する家に配られる（西萩原）。 氏子たちが御祈祷が済んでから振舞われるお神酒をいただいたあと、神主からお祓い済みの御幣を受け取り、町内の農家の稲田まで運んでその年の豊穰いのる（開明の野府地区）。 神事後、御幣のついた竹を田の角に立てた。（三条の宮新田地区・明地の吉藤地区） 7月10日ごろ行われる。八劔神社で神事が行われ、御幣を田の角に立てる。昔は松明を燃やす本格的なものが行われていた。（玉野）	6月中旬に八劔社などで神事と御幣を田に立てることのみ行われている。今回の調査で2カ所確認できた
4	稲沢市	稲沢市	新修稲沢市史研究編 5 社会生活 (上) S58	御幣、のぼり、太鼓、実盛人形（別名「シャネモリサマ」）、松明、鐘	「おくる、おくる、おんかのかめおくれた。」	お神酒	別名「おんか」、「豊熟祭」ともいわれる。歌を唱えながら火をつけた松明を担ぎ、太鼓、鐘を叩いて畦道を練り歩いた。のぼりには、五穀豊穰と書かれた赤、青、紫、白の5色の紙を竹につけたもので、御幣は神社などにあるようなものを竹につけたもの。最後に実盛人形を火に投入して終了となる。	?

5	八開村	愛西市	八開村史民俗編 H6	お札、太鼓、半鐘、松明、実盛人形、藁人形、小麦ガラ製の馬、提灯	「送る、送る、田の虫送る。」	酒、大根つけ	田植えの1週間から10日後に行われた。近世では「虫祭り」ともいわれる。当日は津島神社でお札を受け取り、田に立て氏神に祈る。夕刻から酒を飲み、太鼓や鐘を鳴らしながら歌いながら畦道を歩く。 実盛人形と馬は最後に燃やしたという。一つのムラが虫送りを終えると、日を改めて次のムラが行った。 若い衆が先頭に立って酒を飲みながら行う祭り。昭和初めには松明を武器としてぶつかり合い津島警察から中止された。	江西では昭和4、5年ごろまで、立石、新田では昭和12、3年ごろまで、小判山では20年ごろまで。
6	立田村	愛西市	立田村史 H8	たいまつ、津島神社からのお札、鉦、太鼓、ムギガラ製の馬（山路）、	?	【森川】 お神酒、するめ 【山路】 お神酒、きゅうり、なす、豆腐	土用三郎（←土用に入って3日目のこと）に行われた。第2次世界大戦までは各字ごとに実施していたが、戦後は梶島を含め森川全体で行うようになった。虫送り当日に津島神社からお札をいただいてきてご祈祷をし、その後舟に5、6人ずつ分乗して行った。梶島の方から大森、下古川、上古川へと、鉦や太鼓をならしながら移動した。終わると大森のお宮へ集まって、するめを肴にお神酒をいただいて解散となった。山路ではお宮でお神酒をいただいてから出かけた。つまみはきゅうり、なす、豆腐程度だった。	山路では昭和15、6年に中止になり、以後取り止めになっている。
7	津島市	津島市	津島町史 S13	実盛・馬人形、松明、半鐘または寺院の大鐘	「虫を上へ〜。」	?	百姓が最も大切にしている。稲の枯死防ぐために田植えから2週間後に行った。鐘太鼓を打ち鳴らして歌を唱えながら、行列を作って歩いた。人形松明は最後燃やした。実盛が戦敗の結果害虫となり、稲を食い散らかしたことから、実盛・馬人形を作って虫送りが行われた。	明治24、5年ごろに廃止。

8	佐織町	愛西市	佐織町史 S59	松明（子供用・大人用・若い衆用で分かれています）、麦ガラ・ナス製の人形サネモリさんおくじゃく、太鼓、鐘、弓張提灯	?	酒、キュウリの酢もみ	7月10日ごろ開催。ムラ総出で松明の行列を作って地区の田をまわり、虫を焼き殺し送る。松明1本を10人程で担ぐ。南から北方へ行って終わる。	行われていない。農薬普及（昭和20年中頃）まであった。明治32、36年に海部郡役所、それ以前に愛知県令から官権の布令あり、禁止されるが、第2次大戦中の一時期を除いて継承されていた（東部は昭和初年までに消滅）。
9	美和町	あま市	木田の歩み 木田の歩み研究会 S55	半鐘、太鼓、松明、数体の武者人形		酒	別名「オンカ（ウンカ）祭。田植が済んだころ行った。西へ進んだ。松明をかざし、太鼓、鐘を鳴らしながら田甫を練り歩く。	酒の上でよく争いがあったので、明治末期に行われなくなった。
10	七宝町	あま市	七宝町史 S51	紙旗、笛、太鼓、鐘、実盛の首	歌詞不明（「天下泰平、五穀豊穰」と書かれた紙旗あり）。	?	田植が終わって間もなく行われた。俗に「をんか」という。紙旗や実盛の首を造ってかつぎ、笛を吹き、太鼓と鐘を打ちながら水田をかけ廻り、夕方に紙旗と首は福田川に流して蟲送りの終了となる。	ただ氏神に豊穰の祈禱をするのみとなった。
11	市江村	佐屋町→愛西市	市江村史 S40	たい松（大きいものは大人、小さいものは子供）、斉藤実盛の藁人形、鐘太鼓	歌詞不明（囃し自体はあり）。	?	「蟲送り」。日暮れになると神社境内に集まり、斉藤実盛の人形を先頭に、鐘太鼓で囃し、たい松に火を付けて田の畦道を行列して一巡する。火の光を見た蛾が集まって焼死する。実盛の霊を鎮めるためにたい松を点じ、鐘太鼓で実盛を送り出す行事となったという。	大正の時代まで行われたが、今日では農薬が発明され駆除が容易になったことから中止されている。

12	弥富町	弥富市	弥富町誌 H3	津島神社からのお札、松明（子供用の小さいものもあり）⇒戦後は子供祭礼用の提灯を使用、大太鼓、	【本田地域】 キュウリの酢もみ、里芋や蓮根などの煮物 【新田地域】 特になし。		【本田地域】 神社で祈禱、社務所でナオライ。当日、各家々では麦藁や菜種がらを材料にして一疋から一・五疋もある松明を用意。日が沈んだころ、村中の者が村の西外れで関西線踏切の辺りに集合。大太鼓を合図に一斉に松明に点火し賑やかな行列が始まる。津島神社のお札を先頭に、松明を手にした村人たちが太鼓をたたきながら、村の西の外れから火の見櫓を通り、北外れにある墓地へ。墓地に着くと、草むらにタイマツを投げ、虫送り行事は終了し、参加者は家路に着く。この日、子供らにはコーヒーが振る舞われた。 【神田地域】 田植えが終わると津島神社へ全員で行き祈禱してもらう。そのお札を青竹に縛って田の端に立てておく	?
13	十四山村	弥富市	十四山村史 民俗編 H11	鐘、太鼓、幣	「送ろ、送ろ、田の虫送ろ」	お神酒、肴として 瓜茄子。	7月ごろ行う所が多い。稲の変色は虫のせいとされ、虫は馬に足をとられて討ち取られた平将門の怨霊であると語り継がれてきた。それを追い払うために歌を唱え、鐘・太鼓を打ち鳴らして水下から水上へ行列して最後は村境で追い出した。厄払いの後は悪霊退散のお札を田ごとに立てて守ってもらった。雨乞いも兼ねて行われ、金幣、白幣、黒幣のうち、まずは黒幣を受ける。道中休むと雨降り、ご利益なくなるといわれる。金幣、白幣を受けてこないのは、ご利益が強すぎて雨がふ降りすぎるからだという。見事雨が降ると、氏神社でオシメリ祝いをして、多度大社へお礼参りをした。虫送りの他に寺による虫供養も行われている。供養札を村の中心の井桁南の決められた位置に立て、田ごとに小さいお札を葦に挟んで立てて、虫が稲に害を与えぬように守ってもらった。	神社の虫よけ祈禱札を田に立てる風習は現在も残っている（明治35年3月26日に当時の愛知県知事より廃止の意向が出された」と記録にある。このとき、害虫駆除についての細かな規則も提示された。）
14	飛島村	飛島村	飛島村史通史 編 H12	半鐘を棒に吊るしたもの	「送った、送った。田の虫送った。」	ナスやキュウリを刻み、焼き麩を入れた酢のものを作って、お神酒とともにふるまった。	大宝では「オクロ」といっ。呪術的要素が強かった。歌を唱えながら半鐘を打ち鳴らしながら地区を一巡。打ち鳴らされた金は熱を持ち、水に浸すと「ジューッ」と音がしたといわれる。この日は農休日となった。	?



【旧市町村名】



【現在市町村名】

2) 虫送りの地域による違い

かつては尾張西部全域で行われていたことをこの作業で確認できた。しかし、地域によって虫送りの方法が微妙に異なっていることが分かってきた。特徴とお囃子と行事の名前についてまとめてみた。

①虫送りの特徴

虫送りの内容は大きく分類すると、以下の3つに分けられる。

- A：実盛人形等を先頭に松明に火をともし行列し、祭りの最後に松明と共に火に投じる。
- B：実盛人形等を用い行列を行うが、松明など火は使用しない。
- C：実盛人形は登場せず、御幣やお札を各々の田に立てる。

全体的に実盛人形や松明などを用いて、最後火に投じる場合が多い。しかし、南へ下っていくにつれて、津島神社の強い影響を受け、津島神社からのお祓いをうけたお札を虫送りに用いたり、場所によっては火を使わなかったりする傾向が一部で見える。一宮市の虫送りは、実盛人形を用いるが、最後は捨てるのみで、火にはかけず、札を付けた青竹を田中の畔にさして終了となる。尾西市では火を使う本格的な虫送りが行われていたが、現在は神社での神事のあと、御幣を田にさすのみとなった。立田村ではお札を用いて、舟に乗って鐘などを打ち鳴らして移動し、最後にお宮でお神酒をいただいて終了する。美和町では、実盛と思われる武者人形が数体も作られる。提灯も使われた。弥富町（現在の弥富市）の本田地域では松明は使われるが、実盛人形は一切登場しない。先頭には実盛人形ではなく、津島神社からのお札がある。最後松明は墓地の草むらに投げ、虫送りの終了となる。さらに、同じ弥富町内でも、神田地域では田植え後に全員で津島神社に行き、祈祷をしてもらい、そのお札を青竹に縛って田の端に立てて終了となり、弥富町内だけでも細かな違いがあった。十四山村では雨乞い的な要素が強い。悪霊退散の札を田ごとに立てた。金幣、黒幣、白幣のうち、まずはちょうどよい雨を降らせるために黒幣を受ける。見事に雨が降ると、氏神社でオシメリ祝いをして、多度大社へお礼参りした。寺による虫供養も行われている。供養札を村の中心の決められた位置に立て、田ごとに小さいお札を立てて、虫が稲に害を与えないように守ってもらった。飛島村の虫送りは呪術的要素が強かった。使われるのは半鐘を棒に吊るしたもので、これまで調べて来た虫送りの中で最も使う器具の数が少ない。虫送りの内容はその半鐘を打ち鳴らしながら地区を一巡するのみで、一巡し終わったあとの鐘は熱を持ち、水に浸すと「ジューツ」と音がしたといわれている。当日は農休日となったという。

ここでは大きく3つに分けたが、地域によってさらに細かく分かれる場合もある。

しかし、元々ほどの地域も人形・松明を使用した大がかりなものであったのが、徐々に簡素化が進んだことで、地域による違いが生まれたのだと推測できる。

②虫送りの「歌」の違い

多くの虫送りには「歌（お囃子）」がある。ここでは北から南へ順番に並べ、比べる。

一宮市「浮塵の神送れよ」

一宮市萩原地区 ？

尾西 特になし。

稲沢市「おくろ、おくろ、おんかのかめおくった。」

八開村「送る、送る、田の虫送る。」

立田村 ？

美和町 ？

津島市「虫を上へ〜。」

佐織町 ？

七宝町 歌詞不明（「天下泰平、五穀豊穰」と書かれた紙旗がある）。

市江村 歌詞不明（お囃し自体はあり）。

弥富 ？

十四山村「送ろ、送ろ、田の虫送ろ。」

飛島村「送った、送った。田の虫送った。」

各地で微妙な違いがでて面白い。「？」で表した所は歌詞が不明だが、おそらく存在していたと考えられる。

③虫送りの呼称の違い

一宮 「浮塵子祭り」

一宮萩原「虫送り」

尾西「虫祭り」

稲沢「おんか」または「豊熟祭」

八開村「虫祭り」

立田村「虫送り」

津島「虫送り」

佐織「虫送り」

美和「オンカ（ウンカ）祭」

七宝「をんか」

市江村「蟲送り」

弥富「虫送り」

十四山村「虫送り」

飛島村「オクロ」

「虫送り」の呼称も使われているが、それとは別に古くからの呼称が現在まで伝わって使われているところもある。尾西の「虫祭り」の名称は神社が主体で行われている影響が表れているものだと考えた。一宮の「浮塵子祭り」にある「浮塵子」(ふじんし)は、「ウンカ」の漢名で、「ウンカ」は「カメムシ目ウンカ科および近縁の科の昆虫の総称」らしい。これらの虫たちが稲に害を与えることから、それらを駆除するために「ウンカ」や「浮塵子」が呼称の一部に使われたのだと考えられる。

3) 文献調査を通して

市史を見るのは初めてなので作業自体楽しかった。こんなにも多くの市町村で虫送りがかつては行われていたことを確認できた。お酒が入り喧嘩になったこと(美和町)や松明を使っただけで喧嘩で警察から中止命令が出た(八開村)など本当に面白かった。また、明治30年代には県や郡から虫送りは迷信に過ぎないから中止するようにという命令(佐織町・十四山村)が出ていることが書かれている。たぶんこの地域のすべての町村に出されていると考えられる。しかし、すべての地域でその後も行事が続けられた。県の命令を無視して行わなければならないほど農薬のない時代人々が虫の被害を恐れてこの行事を大切なものとして行っていたこと強く感じる事ができた。

ほとんどの町村で昭和初め、遅くとも昭和30年代にその姿を消している。そんな中で祖父江では、形は変わったかもしれないが、実盛人形や松明を使い大掛かりなものが今でも残っていることはこの文献調査を通して本当にすごいことだと実感することができた。

2. 近隣地域の虫祭について

近隣地域で市史などに載っていない「虫祭り」と呼ばれる伝統行事があることがだんだんわかってきた。それについても調査を行った。

今まで私たちが行った調査は三か所である。

昨年行ったのは一宮市玉野地区、一宮市阿古井地区である。そして今年は稲沢市矢合の新田地区である。



1) 虫祭り (一宮市玉野)

調査日 2017年7月9日 八劔神社

地域：4つの地区からなる

参加者：参加するのは総代、各地区の年番長、年番

やること：御幣づくり、神事、大きな御幣を作る



宮司さんが御札を折る。地域の方が小さな御幣を作る



大きな御幣を作る。竹を少し割る。そこに御札をさす



麻紐で縛って完成



修理中の社殿。



神事始まる



近くで撮影を許される。がんばって撮影した。



東玉野地区の年番長さんが地区の大きな御幣をさす。

11時から御幣づくりが始まった社務所の中で宮司さんが御幣の御札をおっていた。その横で年番さんたちが小さな御幣を作っていた。カメラを向けると「顔をとるなよ」と笑いながら見やすいようにしてくれた。その後、宮司さんを中心に大きな御幣が作られた。大きな御幣は地区に一つずつだから4本、小さな御幣は地区に5・6本なので21本作るとのことだった。

しばらくすると神事が始まった。今年は社殿が工事中ということで、例年と違うところに席をつくり行っている。「来年はきちんとやるからぜひ見に来て」といろいろな人から言われた。各地区の年番長さんが代表で参るのに合わせて後ろの方で同じ地区の年番の人が一緒に拍手を打つのが印象に残った。

神事が終わったあと地区ごとで御幣を田んぼにさす。「この後で田んぼ行ってさしてくるから、見と一緒についてきて」と言ってもらえたので、実際にさすところを見るこ

とができた。東玉野地区の大きな御幣を公民館近くの田の端っこにさし行事が終わった。

神社ではいろいろな話が聞けた。祖父江のような松明はこの地区ではどうかと聞くと、「簡素化されて今はない」「昔は燃やして虫を退治したけど、今は祭礼で虫が寄りないようにしている」「田にさした御幣は収穫するまでそのまま、収穫が終われば役目が終わるので燃やしてしまう」と教えてくださった。「ここらへんではみんなやっている」「今日は遅いほう。「宮司さんはいろいろな地区を兼ねている関係で、宮司さんが順番を決める。今年のローテーションは終わりのほう」と教えてもらった。また、「君たちの住む地域でもきっとやっているから注意深く気をつけて見てみて」と言われた。

あととっても面白かったのは、東玉野地区の大きな御幣をさすとき、年番長さんが最初さそうとしたところは小さな川の中でそこはコンクリートで固められていてさせなかった。年番長さんは「私もまだ若いから、実は初めてなんだよね」と笑ってさせるところを探し、「ここでいいか」とさしていた。神社にまつわる行事はなんだかんだ言っても年10回ほどあるとのことで「大変ですか?」と聞くと「まあね」と言っている姿が印象的だった。

すべてを終えて学校に帰る途中、偶然小さな御幣をすぐに見つけることができた。地域の人々の思いを知ることができた気がしたものすごくうれしかった。



2) 虫祭り (一宮市阿古井周辺)

調査日：2017年7月15・16日

①7/15 須佐之男社 (一宮市) にて

地域：地区が6個

参加者：参加するのは宮総代、各地区の年番長、年番

やること：御幣づくり、神事、御幣の配布



竹に御幣をはさむ



6本が完成



須佐之男社に宮司さんが入る



神事始まる



年番長の方が次々に祈祷、終了後、年番長の方が自分の町のものを持って外へ





終了後社務所で宮司さんとお話、お神酒とするめが配られる。私たち高校生もお茶とするめをいただいた。



いろいろな話も聞けた。旧尾西市この地域は、江端、江端団地、須賀、西阿古井、中阿古井、下阿古井の6地区からなっている。この日は宮総代、宮代、各町の年番長・年番さんが集まって行われた。青竹に御札をはさみ御幣を作り、神事を行うのが今日の行事。10時半から約一時間で終了した。

昔は地区用に大きなものを6本とすべての家に配布するために小さいものを300本～350本作ったそうだ。農家は自分の田畑に非農家は庭に差していた。だんだん非農家が増えてきて、「もらっても困る」という声も大きくなり小さな御幣は廃止した。各家庭用がなくなったのはいつか？「10年前かな」「7～8年前かな」「××ちゃんの時だから・・・」「そうじゃなくて〇〇君の時かな・・・」と時期ははっきりしないがここ10年くらいのようだ。

御幣は豊作を祈り、虫よけのために御幣は各町の「おびしゃ地」というところに差すらしい。西阿古井の年番長さんが「今年は恵方の北北西にたてる」と話されると、他の地区の方が「うちは毎年いつもいっしょだよ」と差し方も町で違うことが分かった。地元の人もお互いが違うことを知ってびっくりしているようすが面白かった。さらに、御幣はその後どうなるか聞くと西阿古井の人は「どんと焼の時にもやす」に対し、須賀の人は「今年のやつをさしに行くときに、去年のやつを抜く」とこれも全く違っていた。多くの人が「昔のことはよくわからない」「だんだん簡素化している」という話もしてくれた。

②7/16 西阿古井公民館（一宮市）にて

須佐之男神の 6 町の一つの西阿古井に伺った

参加者：西阿古井にすむ人達



御幣が床の間にお神酒とともにまつられている。まずは町内の総会。



総会終了後、虫祭、その後食事会



その間に年番長さんが「おびしゃ地」に御幣をさして終了。

11 時から町内の会議が行われた。色々な話を話した後。虫祭が行われた。床の間に飾られた御幣に向かって、年番長さんを先頭に全員が正座して拍手を打って終了。この後の食事会の場でお神酒が配られていた。楽しい食事会が始まると、年番長さんが少し離れたところにある「びしゃ地」に行き、御幣を北北西の方向に建てた。町内の各家庭から一人ずつ集まって行く虫祭だからもっと仰々しいならわしと思ったので、あまりにもあっさりですこしびっくりした。

3) 虫祭り (稲沢市矢合 新田地区)

調査日：2018年6月17日

①鈴置神社 (稲沢市) にて

地域：稲沢市矢合 新田地区

参加者：今年参加するのは新田地区の2番組の人々

新田地区には4番組までである。そのうちの2番組

つまり4年に一回回ってくる

やること：御幣の竹づくり

地域の15か所に御幣をさす



運ばれてきた竹を割り一定に長さの棒状にする。上には御幣を挟む溝を作る。



御幣を挟み15本完成。地図にはこの日御幣をさす場所が書かれている。



御幣を地図に従ってさす。私たちがやらせてもらった。その後神社に帰り行事終了。

9時から始まるということで8時40分くらいに現地に行った。この日は多くの行事がたくさんある。神社の清掃、大きく育った木の伐採、さらにこの日は行事が4つある。多くの人が出てあわただしく動いている。9時から「虫祭り」、20時からは「天王様迎え」「大提灯

灯し」「お灯明灯し」がある。後の3つは津島神社の御札を掲げその後75日間続く無病息災を祈る行事でこの地区では虫祭りとは別の行事らしい。

宮総代の永井さん（1944年生まれ 72歳）から話を聞くことができた。永井さんのおじいさんが昔から行事に力を入れていたらしく、永井さんは子供のころからおじいさんについて手伝ったりして、地域の行事には興味があったらしい。虫祭りについて聞くと「小さい子供ころは夜、



宮総代の永井さんから話を聞く

藁や麦で作った大きな松明をたくさんたいて村の境を歩いて、虫を外に追い出していた。最後に松明を燃やした。そして、ここはもう虫を追い出した地域ということをはっきりさせるために御幣を村の境に建てた」「子供たちは学校から帰ってきてこの行事に参加するとおやつがもらえるから喜んで参加した。今の子はおやつなんかではよろこばないけど」と。この場所でも昔は松明を燃やしていたことが分かった。その松明もいつの間になくなったらしい。「20代の厄年の時(昭和40年代初めか?)、私の提案で復活させたけど3年くらいでなくなってしまった。今の形になって御幣だけさす形になってしまった」と歴史を教えてくれた。

この新田地区と言われる集落は4番組の編成でなっていて、その組が順番に年番として行事を行っている。つまり4年に1回仕事が回ってくる。記憶があやふやになるため、何かやるたびにみんな「こうだっけ」「どうなんだ」と相談しながらやっている様子がみていて面白かった。

御幣は誰がどこで作っているのか聞いてみると「前はこの神社の宮司がいたけど、亡くなってからは国府宮神社に相談をして一宮今伊勢の宮司が担当してくれている。5月に行われた五穀豊穡祭りの時に宮司さんが作ってくれた御幣を使っている」「御幣は昔は和紙だったが、すぐ破れてしまうので破れない丈夫な紙でできている」と教えてくれた。

昨年調査したすぐ近くの一宮市の二つの神社では、その場で御幣は宮司が作るが、竹は事前に準備されていた。宮司による神事が行われた後、御幣をさしに行った。



古い御幣

しかし、ここでは御幣は事前に作られていて、御幣を挟む竹の棒をその場作っているという形で今年のところと真逆であった。神事は全くなくすぐに田にさしに行くことになった。これもあっさりしていてびっくりした。

その後15本の御幣を二班に分かれて集落の北側と南側に分かれて行動した。御幣を田にさすときも、「この地図がないとどこにさすかわからないんだよね」と言いながら集落のひとは笑

いながら言っていた。ところどころに去年の御幣がささって残っていた。その近くに新しい御幣をさした。そこでも面白いことが起きていた。「この古いやつどうするんだ」「抜くのかな、それともそのままかな」とどうすればよいのかもめていた。北を回った班は持ち帰ってきたが、南を回った班はそのまま放置していた。こんな不一致が生じていることも面白かった。

南側を回った班では「せっかく来たんだから、一本さしてみる」と言われ、「本当にいいんですか」と言いながら御幣をさすことさせてもらった。なんかその集落の人に申し訳ない気がしたけど、行事にかかわれてうれしかった。



私たちが御幣をさした

神社にもどると特に何もなく、解散してこの行事は終わった。あまりにあっさり終わってびっくりした。



夜の「天王様迎え」行事も見学させてもらった。津島神社の御札がどう扱われるか気になったからだ。昨年市史や町史を文献調査した時に、尾張南部の海部津島津島地域では虫送り・虫祭り行事で津島神社の御札が使われることが多いことが分かっていたからである。いくつかの地域では御幣に代わりに津島神社の御札を利用して田にさす例がいくつかあったからだ。ここ稲沢市矢合の新田地区では全く別物として説明され。しかし、疫病神の神様として強く根付いていて、同じ日に行われることを考えると本当は無関係ではないのかもしれない。歴史の中で変わったのかもしれないそんなことも考えられる。最後に、お供えをみんなで食べる直会場で、突然挨拶を求められ、びっくりした。一日、無関係の自分たちに対して、丁寧に話をしてくださり本当にうれしかった。「こんな行事を見て何が楽しいの?」とか「ただのままごとのような見てもしょうがない」と謙遜されながらも、地域で伝統を守ってきた誇りを感じることができた。何よりも地域の人たちの温かいぬくもりを感じることができた。



4) 虫祭り調査を通して

3か所を調査してみて、かつては松明を使って行っていたが、簡素化の中で御幣をさすという形態に変わってきたことがわかった。簡素化し、形式化するなかでもなおこの行事が地域で続き、行事を通して人々がつながっていることを実感することができた。行事のやり方もあやふやになり、「これはどうなんだっけ」というふうに相談しながらやっている様子も見ていて楽しかった。伝統行事はこんな風に少しずつ変わりながら今に続いていることも知ることで本当に面白く感じることもできた。

また、私たちの一人は、家で見学したこのことを話すと「うちの地域でもやっているよ」と言われ、初めて自分の集落で同じような行事が行われていることを知ってびっくりした。

私たちが知らないだけで、同じような小さな行事はたくさんあると思うので、できる限り実際に自分たちの目で見てみたいと思った。

また、この行事を見ても、多くの人力があって初めて成り立っていることが分かった。この行事を維持していくにはたくさんの労力と集落の人の思いが必要だと思った。今でも、大々的に実盛人形を作り、松明もやし行っている祖父江の虫送りが続いていることがどんなにすごいことか、実感することができた。

3.他の虫送りとの比較

調べていくとほかの地域でも大々的に虫送りを行っている地域があることわかる。大きな太鼓を使う地域、実盛人形を使わない地域、松明が小さい地域などいろいろある。そこで、いくつかの地域に問い合わせをすることで他地域の虫送りと祖父江の虫送りの比較をしようと考えた。

メールや手紙で問い合わせをしたのは

愛知県常滑市矢田地区

三重県熊野市丸山千枚田地区

三重県四日市市四郷地区

三重県松阪市甚目地区である。

特に、愛知県常滑市の矢田地区の皆川さんはわざわざ、学校まで資料を届けてくださった。常滑市矢田の虫送りは、祖父江の虫送りと並ぶ虫送りで、この二つをセットにして「尾張の虫送り」として愛知の無形民俗文化財に指定されている。6月30日（土）に実際に虫送りが行われるのでこれを見学し、調査する予定である。皆川さんからいただいた資料も参考にしたいと考えている。

そのほか松阪市からも資料やDVDをいただくことができた。ほかにもメールで返事も届いている。この夏休みをかけて比較検討することで祖父江の虫送りの独自性・特徴を明確化したいと思っている。これは今後の課題である。



Ⅲ部

情報発信

祖父江の虫送りの魅力を知ってもらうために

1. 情報発信を決めるまで

今年度、4月、メンバーが集まったとき、今年はどうのようにこの伝統行事に参加するかを話し合った。夜の虫送り行事への参加をすることで、江戸時代から続くこの行事の魅力を十分に感じることができた。

例年通りただ虫送りに参加し調査するだけでなく、今年は一歩行動を前に進めてみようという意見が出た。私たちの学校は都会にある学校ではない。どちらかといえば田舎にある学校である。地域とともにある学校だ。総合的な学習の時間で地域の人のお話を聞く機会も多い。何かあれば地域の人々が学校にやってくる。だから、何か自分たちが地域に貢献できないかと考えた。自分たちでも簡単にできることは、情報発信である。地元の伝統行事で、県の無形民俗文化財の虫送りを情報発信しようということになった。虫送りに関して可能な限り地域に情報発信しよう。自分たちが感じたその魅力を地域の人に、愛知県内の人に、全国の人に、少しでもその魅力を発信していこうということになった。

まずは4グループに分かれて話し合い。内容を発表した。



その後、現実的で実行可能か、お金はかけなくてできるか、持続可能か、高校生がやれる範囲かなどを考え、やれることを絞った。特に重視したことは二つである。一つ目は自分たちでも重荷になることなく、気軽にできるかどうかである。受験生でもある自分たちに使える時間は限られている。なかなか時間を割くこともできない。また、一時的にがんばっても途中で出来なくなるものではあまり意味が無い。無理をしなくても。ちょっとした空き時間

でもできることを考えた。

もう一つは、お金をかければ、やれることは増える。でも私達はお金を全くもっていない。お金がなくてもできることを考えた。

最初は体験コーナーを作るとかミニマスコットを作るなども出たが、コストのことや主催団体でない私たちが行えることではないなどの意見がでて、主に SNS を利用した情報発信を行う事になった。

特に SNS を利用した情報発信は、有効だと考えた。昨年も感じたが、虫送りを中心に行っている人や人形作りを行っている人はほとんどが高齢者である。40歳代や50歳代の人ほとんどいなかった。まして20代や30代のひとはゼロに等しい。この高齢者の人達は、ネットを利用して情報発信することがあまり得意でない人が多い。だから、「祖父江の虫送り」はほとんど、ネット上では宣伝されていない。

にもかかわらず、カメラを持って、また伝統行事を好きな人が大勢集まってくる。この人たちはどこから、この情報を仕入れてくるのか不思議に思った。

もし、私たちが SNS で情報発信をすることで、地域の人が苦手としている所を補うことができれば、「祖父江の虫送り」を知ってもらい、多くの人にきてもらえるのではないか。これによって地域活性化に貢献できるのではないかと考えた。

2. 情報発信すること

やることは以下の4つのことに決まった。

- ①Twitter を利用した情報発信四コマ漫画作り
- ②当日は、TwitCasting を使って動画のライブ配信
- ③当日にパンフレットの配布
- ④目を引くための4コマ漫画づくり

受験勉強との両立もあり、時間的・金銭的制約もあるのでできる範囲で行うことを決めた。

3. Twitter による情報発信

祖父江虫送り https://twitter.com/Mushiokuri_S

1) プロフィール

愛知県立杏和高等学校による、「祖父江町虫送り」の地域活性化応援アカウントです!! 3年生14人と愉快的な社会科教諭が活動しています。祖父江に伝わる伝統行事を知ってほしい、見てほしい、来てほしい!!!



2) ツイートの様子

5月31日開設し現在に至っている。

開設から3週間の6月20日現在でツイート数は60で、一日平均約3個のツイートになっている。開設はじめはあまり準備ができていなくツイートが少なかったが、最近4コマ漫画をツイートするなど多くのメンバーがそれぞれのかたちでかかわっている。ツイート内容もそれぞれの個性が出て面白い。特に順番を決めずにそれぞれがつぶやいている。

3) ツイート内容は

①行事そのものを知ってもらうもの

- ・行事の日程説明
- ・場所の地図
- ・当日の作業工程 人形の作り方・材料等
- ・虫送りの様子

②昨年参加した時の感想

- ・感想によって当日の雰囲気伝える

③斎藤実盛について

- ・虫送りと斎藤実盛の関係
- ・実際の斎藤実盛
- ・実盛人形の変化

④マンガ「さねもり君劇場」

- ・虫送りをわかりやすく知ってもらうために一番マンガが好きなものを書いた。結構シュールなできになった。

⑤祖父江の虫送り豆知識

- ・昔の虫送りと現在の比較

⑥雑感

- ・実盛になったり、虫になったりして気持ちつぶやいた





4) 効果

現時点ではよくわからない。思ったよりも拡散が進まないのだから効果は出ているのだろうか。学校名のついた Twitter なのでフォロー先もあえて限定していたが、途中から歴史、民俗、祭り、伝統行事に関心のある人に広げる必要性を感じフォロー先を広げるようにした。また、学校の WEB にもこの取り組みをアップロードし、広げる努力を現在続けている。

だんだんと、伝統行事や祭や歴史が好きな人からのツイートやフォローが増えつつあるので今後は楽しみである。

今年の虫送りは7月7日で、当日まで、まだ2週間ある。その日までツイート数を増やしていきたい。そのツイートが効果は当日の様子を見たい。

4. TwitCasting を使って動画のライブ配信

当日は、実盛・松明作りから、夜の虫送りまで、動画は配信を計画している。これによって、現地に來れない遠くの人にもその魅力を知ってもらおうと考えている。また、動画として保存しておくことで、記録として残したり、今後の研究や宣伝に利用できるのではないかと考えている。

5. 当日にパンフレットの配布

現在、当日虫送りの説明パンフレットを 300 部ほど配ろうと計画している。現在準備中である。



6. 四コマ漫画「さねもり君劇場」

少しでも、虫送り、実盛を身近に感じてもらうために4コマ漫画を作った。意外とシュールなできになり、親しみやすい仕上がりになった。



虫送り(内容)



わーい、わーい、わーい



虫送り(伝説)※諸説あり



ワシキもな怖くないよ。



わーい迷惑...



虫送り伝説その2 (※諸説あり)



終わりに

私達は、虫送りへの参加し、虫送りという行事についての調査・研究を行ってきた。さらに今年は情報発信という新しい試みを現在行っている。

この活動も、虫送りのすばらしさを知ってもらい、少しでも多くの人に祖父江に来て欲しい。祖父江の地を少しでも元気にしたい。地域活性化をしたいという思いで始めたことだった。しかし、やっているうちに実は一番大切なことは地域活性化そのものではないことに気づいた。

私達が作業をやっている、歓声上がる時が何回かあった。

初めて大きな歓声が上がったのは、奈良県立奈良朱雀高校のビジネス企画部とつながった時だった。フォローしたところ、すぐのフォローが返ってきた。数百キロも離れたところにいる見ず知らずの高校生と「虫送り」という3文字をきっかけにつなぐことができた。同じ時に違う場所で同じ事を行っている同世代の人達とつながれた奇跡に感動した。

その後、ダイレクトメールで会話を続けた。こちらが「地域の虫送りを応援してるアカウントなのですが、よろしければお話、交流させていただくことは可能ですか？」と送れば、「連絡を下さり、ありがとうございます。私たちと同じ高校生の仲間が『虫送り』について活動されていることを知って本当に喜んでます。交流については、当部からもお願いしたいところです。」とすぐに返事が返ってきた。

結果、お互いが持っている資料も交換することができた。交換することで、他の高校生が頑張っているなら、絶対に負けられないもっと頑張ろうという元気をもらうことができた。



手紙で、虫送りのことを訪ねた愛知県常滑市矢田地区の皆川さんは大量の資料を学校まで届けてくださった。高速道路を乗り継いでも2時間近くかかる距離をわざわざである。資料を準備するだけでも大変なのに、赤の他人の高校生のためにこんなことをしてくれる人もいるんだとびっくりすると同時に、こんな風にしてもらえることに心から感謝した。

ネット上で私たちに対してコメントが入っている時も、「こんなツイート来ている」と皆で喜び合った。

調査で地域の行事に入った時も、地域で一生懸命行事を行っている人が、突然やってきた高校生に丁寧に伝統行事を説明してくれる。自分たちの行事なんて「見られて恥ずかしい」と言いながら貴重な時間を私たちに割いてくれる。色々な話をしてくれ、温かく私達を仲間のように迎えてくれる。

一人が書いた実盛の漫画に「すごーい」「かわいい」と喜び合う。一人のツイートに「こ

の文章おもしろいよね」「××らしい」などたわいもない愉快的言葉を交わす。パンフレットが完成した時、「すごーい」まるで自分が作ったかのようにみんなで喜び合った。

結局私達の心を一番動かすのは他の人とのつながり。人とつながることがこんなにも素敵で大切なことなんだということを今回再認識した。つながりが人の心を変え、人に勇気を与え、人を元気にしていく。これこそ私たちが求めていることだと痛感した。

虫送りという行事はさまざまつながりをわたしたちに与えてくれた。享保の時代から続くという虫送りは古の人と私たちを、また、私たちと未来の子孫とを時間を超えて結び付けてくれる。また、祖父江の虫送りを広げたいという思いが、他の地域の高校生との交流を、見知らぬ人とのつながりを作ってくれた。また、日常の中では接することのない違う世代の方と触れ合うこともできた。

今回、私たちの活動が地域活性化に役に立ったかといえ、今の段階ではわからない。でも少なくとも私たちの心の中では大きな変化が生じている。人と人のつながりが何よりも大切なことが分かった。つながりの輪を少しずつでも大きくすることが人を元気にし、地域を元気にすることができるかと確信を得ることができた。

これからも私たちは「祖父江の虫送り」をキーワードにつなかりを広げ、地域を元気にする活動を続けていく。地域を元気にしようと始めたが、何のことはない結局それが自分を元気にすることに他ならないということがわかったからだ。

最後に自分たちのことを見つめ、自分たち自身を元気にする方法を教えてくれる機会を与えてくれた「田舎力甲子園」という企画に心から感謝します。本当にありがとうございました。



Heartful action in 口熊野かみとんだ～SDGs(エス・ディー・ジーズ)に基づく貢献活動～

和歌山県立熊野高等学校 Kumanoサポーターズリーダー キャプテン 榎井智輝 副
キャプテン 岩佐ゆりか

平成23年Kumanoサポーターズリーダー

学校家庭クラブとタイアップ

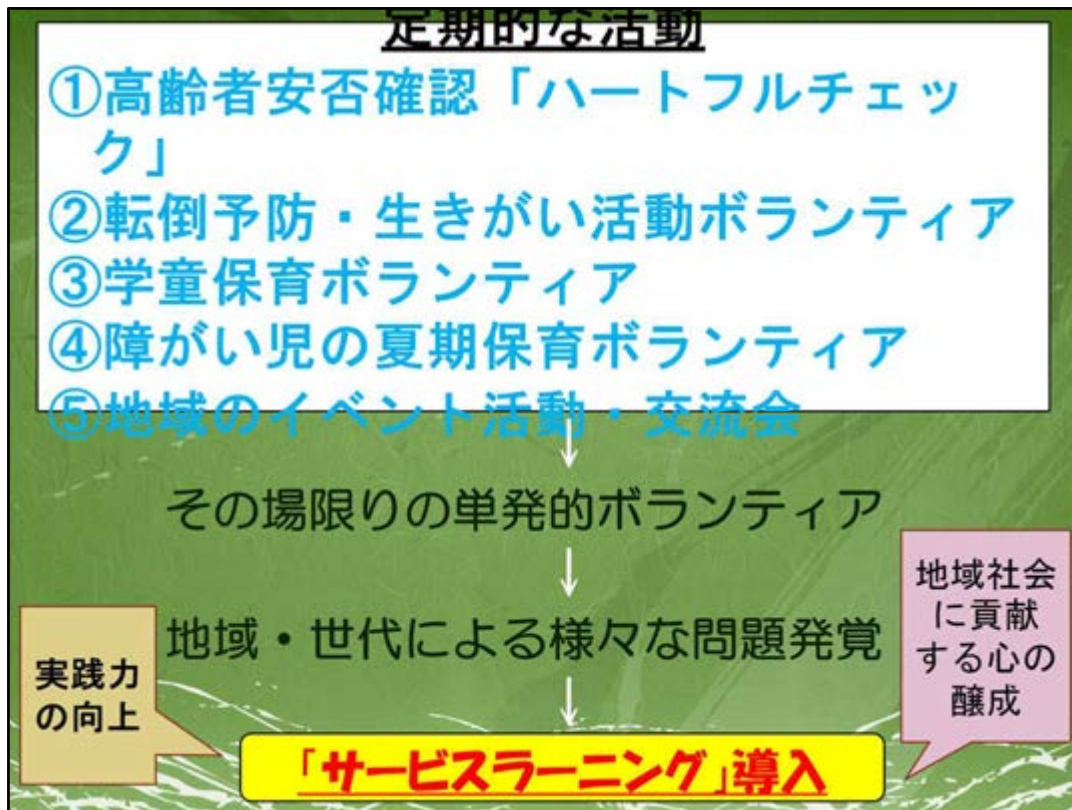
- 週に数回の活動のみ・・・練習したくても場所がない
- レベルの低いダンス・・・レベルを上げたくても指導者がいない
- 別名「アルバイト部」・・・もてあました時間をアルバイトに費や
す

家庭科の先生は「保育」が専門（ダンス・歌唱・読み聞かせ・折り紙等の指導が可能）

新たなモットー：
「地域に根ざし、地域に貢献する高校生リーダーを目指して」

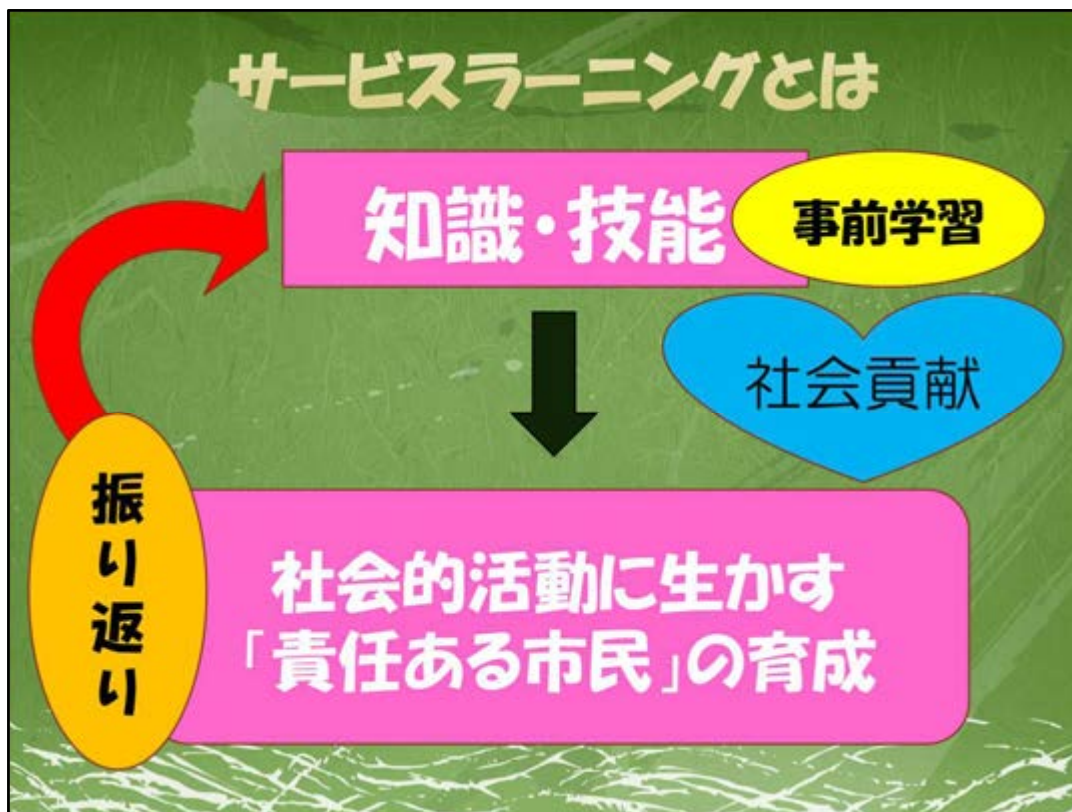
Kumanoサポーターズリーダーと活動を共有
平成29年度のボランティアは130回以上

平成23年、クラブ活動である「Kumanoサポーターズリーダー部」が、家庭クラブとタイアップし活動を始めることになりました。当時のサポーターズは、ダンスや運動クラブの応援などが活動の中心でしたが、設立当時の勢いはなく、その存続が問われるようになっていました。そこで家庭科の先生が顧問になったことを機に、「地域に根ざし、地域に貢献する高校生リーダーを目指して」を新たなモットーに掲げ、活動の輪を広げることとなりました。現在熊野高校学校家庭クラブは、サポーターズと活動を共有することにより地域の交流活動やボランティア活動など様々なイベントに参加しています。



活動内容は、地域の高齢者・学童・障がい者との触れ合いを大切にしたサポート活動から、イベントでのダンス披露、防災や世代間交流など幅広く、地域の絆作りや問題解決に取り組んでいます。

開始当初は単発的な活動でしたが、地域や世代で異なる課題の解決に向け、サービスマーケティングを取り入れた継続的な取り組みに発展しました。教室で学んだ知識や技能を地域住民のサポートに活かすことで、地域社会に貢献する心の醸成と実践力の向上を図っています。



『サービスラーニング』とは、教室で学んだ知識・技能を、地域社会の課題を解決するために活動の中で生かすことを通して、市民的責任や社会的役割を学んでいく学習方法をいいます。



こうした活動を続けてきた結果、平成27年に地元自治体である上富田町と「まちづくり連携交流協定」が結ばれました。



町役場や福祉・教育・介護・防災を担う地域団体と学校が打ち合わせを重ねながら、地域のイベント等への参加をコーディネートするほか、毎年6月にはサポーターズをはじめ、生徒会や各クラブキャプテンが町長訪問を行い、活動を通して気付いた地域の問題や課題について、提言活動を行っています。



サポーターズの人気のひとつに、創立当時のダンス活動があります。週の4日はダンスの練習に励み、イベントで披露をしています。ジャンルはヒップホップ、よさこい踊り、チアリーダー、ジャズダンス、高齢者むけの予防体操と幅が広く、町からの援助でプロダンサーから指導を行っていただきます。世代に合わせて披露する内容を考えています。



上富田町は、和歌山県で唯一人口が増え続けている町です。しかし、その傾向はあと数年で止まり、他の市町村と同じように人口減少、少子高齢化が進むとされています。

上富田町「まち・ひと・しごと創生総合戦略」



上富田町
まち・ひと・しごと創生総合戦略
平成28年2月
町政山形上富田町

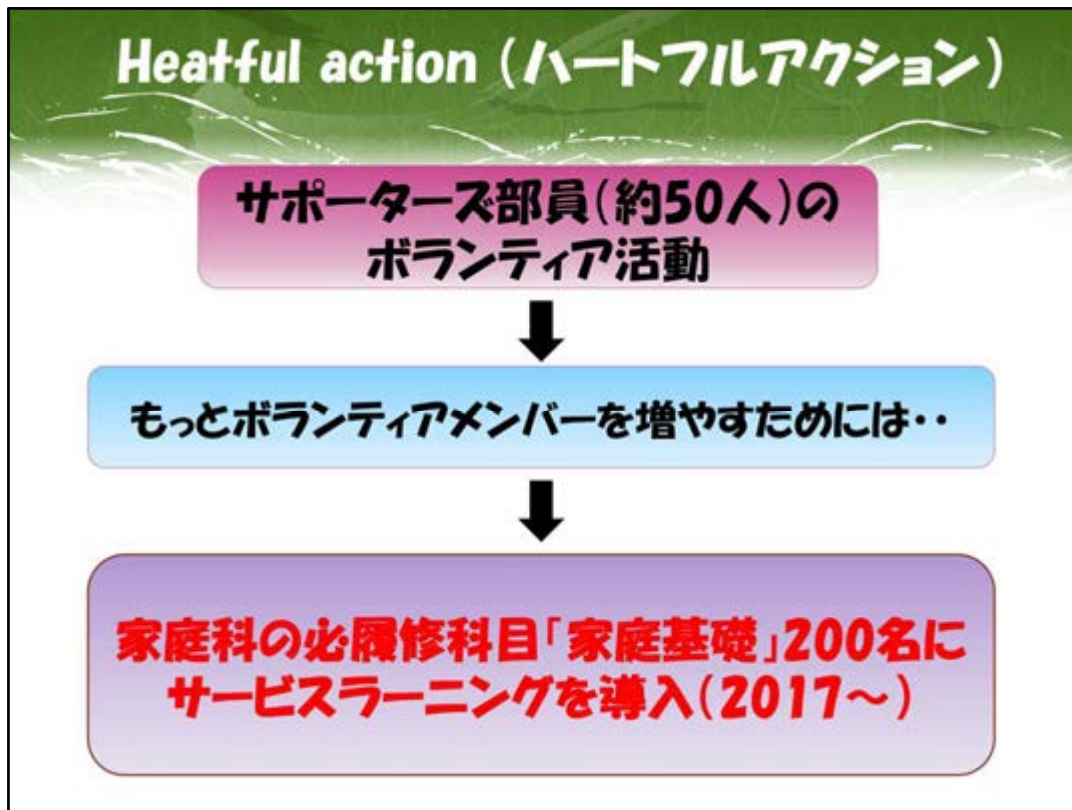


**「愛町心」を育てる
「上富田町のアイデンティティ」を高める**

**KPI（主要業績評価指数）
= Kumanoサポーターズ
リーダー部員の増**

部員数	平成26年→47名	平成27年→56名
	平成28年→49名	平成29年→56名
	平成30年→52名（平均50名をキープ）	

平成28年の「上富田町 まち・ひと・しごと創生総合戦略」には、人口ビジョンとして、「愛町心」を育み、町のアイデンティティを高める重要業績評価指標(KPIケイピーアイ)のひとつに、『KUMANOサポーターズリーダー部員の増』という文言(もんごん)が入っています。



このKPIにサポーターズだけでなく、もっと多くの高校生がサービスラーニングを実践し、地域貢献活動に参加できたら、町が活性化し大きなアクションに繋がるのではないかと考えました。そこで、顧問の先生から、家庭科の1年生の「家庭基礎」の授業200名にサービスラーニングを行い、自分たち2・3年生がパイロット的存在としてボランティア活動に参加することを提案されました。そしてこれを『ハートフルアクション』と名づけました。

サービスラーニングの導入

- サポートーズの実績の蓄積
2つの全国大賞と数々の受賞
(2016 young japan action / パナソニック教育財団 心を育む活動)
- 町内唯一の県立高校
H27連携交流協定・H29コミュニティスクール
モデル校指定
- 行政中核施設と連携◎
上富田町役場・
社会福祉協議会・
保健センターなど
- 地理的環境◎
町内全域を15分
以内で移動可能

教室の「知」と「社会実践」をリンク
「新しい教育プログラム」

授業にサービスラーニングを導入するには、一般的に多くの壁が予想されますが、サポートーズの実践の蓄積に加え、サービスラーニングを導入する好条件が揃っていました。人口約1万4000人の町内唯一の県立学校であり、町と協定を結んでいることから、役場や福祉センターなど行政中核施設との連携が容易でした。また町内全域を15分以内で移動することができる地理的環境も、教室の知と社会実践をリンクさせる新しい取り組みをする上では好都合でした。

絆が生み出した具体的な効果

高齢者の安否確認「ハートフルチェックボランティア」

<p>年間 300軒 訪問</p>		<p>訪問者 を待つ 生きがい 楽しみ</p>
<p>コミュニ ケーション 力の 向上</p>		<p>いつま でも 自分の 事は 自分で</p>
<p>防災 (自助・ 共助)</p>		<p>高校生 から パワー をもらう</p>
<p>癒や される</p>		

学校家庭クラブ活動とタイアップしたサポーターズの取り組みが生み出した具体的な効果を紹介します。

麻痺がひどく寝たきりで介護を受けていた高齢者が、声掛け訪問をきっかけに身の回りのことを自分で行い、散歩に出かけるまで元気になりました。高校生が来てくれると活気が出る。気に掛けてくれてほんとにうれしいなど、高校生の訪問を誰もが心待ちにしています。年々ハートフルチェックの登録者数は増えています。

絆が生み出した具体的な効果

高齢者の安否確認「ハートフルチェックボランティア」

基本チェックリスト(厚生労働省)

25項目の質問に答えることで、自分に必要な介護予防の取り組みを知ることができる

	質問項目	回答
21	(ここ2週間) 毎日の生活に充実感がない	1点・はい 0点・ いいえ
22	(ここ2週間) これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった	1点・はい 0点・ いいえ
24	(ここ2週間) 自分が役に立つ人間だと思えない	1点・はい 0点・ いいえ
25	(ここ2週間) わけもなく疲れたような感じがする	1点・はい 0点・ いいえ

アンケート項目の21~25(23を除く)において、ほとんどの方が「いいえ」と回答

さらに5年間このハートフルチェックアンケートを行ってきた結果、厚生労働省が作成した「基本チェックリスト」のなかにある4つの項目において、ほとんどの方が「いいえ」と答えていることが明らかとなっています。この効果は、健康寿命の伸び率にも大きく関わっています。



学童保育外遊びのサポートを行うことで、児童たちが「逆上がりができるようになった」「一輪車に乗れるようになった」「二重跳びができるようになった」と保護者からの声が多くなりました。
また道端で転んだ小学生を学校まで送ってくれたとお礼の電話がありました。


絆が生み出した具体的な効果
学童保育ボランティア」

自分がサポーターズのお姉さんにとってもお世話になった

ボランティアがしたい

自分もサポーターズに入部して恩返しをしたい!

持続可能な活動



昨年度入部生の中に、学童保育へ通っていた部員がいました。「自分が学童にいた頃、ボランティアに来てくれたサポーターズのお姉さんがとても優しくしてくれて、自分も恩返しをしたい」と話していました。クラブ離れといわれる昨今ですが、サポーターズはこのような形で活動が引き継がれています。



地域の方々からさまざまな場所で活動発表を依頼されるようになり、全国の様々なコンテストで2つの大賞と奨励賞や優秀賞を受賞したことで、地域活性化に繋がった等があげられます。このように、サポーターズの地域連携を取り入れたボランティア活動は、地域が抱える問題の解決にも繋がっていて、地域と生徒の間にwin-winの関係が築かれています。生徒達にとっては、経験するすべてが実践であり、ここでコミュニケーション力が磨かれることによって、公共心や他者を思いやる感性が育成されます。このような部員たちの変化・成長はサービスラーニングによるものだと考えられ、これを教科学習に取り入れることによって、同様の効果が期待できると考えました。

事前アンケート集計結果

サービスラーニング項目	人数 (第1希望) 2017年度	人数 (第1希望) 2018年度
①ハートフルチェックボランティア	66	37
②学童保育ボランティア	114	154
③障害児の夏期保育ボランティア	12	4
④高齢者の転倒予防・生きがい教室	8	5
合計（人）	200	200

200人のサービスラーニング第1希望集計はこのようになっています。第1希望通り参加できるように、生徒一人一人と打ち合わせをしながら進めました。



- ◆本当に2ヶ月児は小さくて命の重みを実感した。知識をもった母親になれるようにしていきたい。保育師という夢も絶対かなえたい。
- ◆将来結婚したとき女性をサポートし、手助けできるパートナーになる。沐浴は握力弱い女性では大変。
- ◆産まれてくる子に会いたい気持ちが強いので、痛みは感じないことをインタビューを通じて知った。



サービスラーニング:学童保育平日ボランティア

参加した生徒たちの感想はこのようになっています。

- ◆指導員は女性の先生ばかりなので、男性職員が増えれば体を使ったふれあい遊びなどができるのに。
- ◆けんかの時の指導員さんの対応が素晴らしかった。将来は小学校教諭を目指したい。
- ◆1年生と5年生と関わって、成長すると考え方が遊びと共に変化するんだなと思った。



- ◆聞き取りやすい声でしっかりと喋れた。将来介護の仕事に就いたときこの経験を生かしたい。
- ◆最初は不安でしたが、元気ではきはきした高齢者の方とお話ができ、こちらが逆に励まされた。
- ◆練習通りに折れて良かったが、教えるのは難しかった。



◆皆さん元気な方ばかりで、認知症とは無縁な方たちばかりだった。元気に日々生活ができている、安心というか良かったと感じた。

◆とても77歳とは思えないくらいお元気な方だった。中2の時職場体験学習で介護施設に行ったが、緊張して上手く話ができなかったが、今日はきちんと目を合わせて話げできた。ずっと元気でいて欲しい。町で認知症の方と遭遇したら、経験を生かして自分から話しかけていきたい。



- ◆初めての訪問で緊張したが、相手の目を見て笑顔で話せたので良かった。小学校の見守りパトロールもされていると聞いて、80歳でも地域のために働いてくれていることに驚き、感謝したい。
- ◆お友達が病気になってしまい、悲しくて趣味のカラオケにも行かず元気がなさそうだった。早く元気になって、楽しく歌ってくださいとお声掛けをした。
- ◆サポーターズの先輩のコミュニケーションスキルの高さに圧倒された。



障害を持った方々と積極的に交流を持つことで、相手の立場になって考えることの大切さを学びました。災害が起こったときに、障害を持った方々がいつどこで何をしているかを知ることができ、自分たちが率先避難者として行動できたらいいなと感じました。



1年生の感想からは、乳児や子ども、高齢者とのふれあいを通して多くの気づきや発見があり、相手に対する気遣いや、自身への振り返りが行われている様子が窺えます。また、そこから自分の将来や職業について思いを巡らせる記述も読み取れますが、これらはまさに体験を通じてしか得られないものです。こうした実践の中で、1年生たちは授業で学んだ知識・技術を活用し、振り返りや改善を繰り返しながら教室での学びを定着させています。

サポーターズリーダーと同様の効果

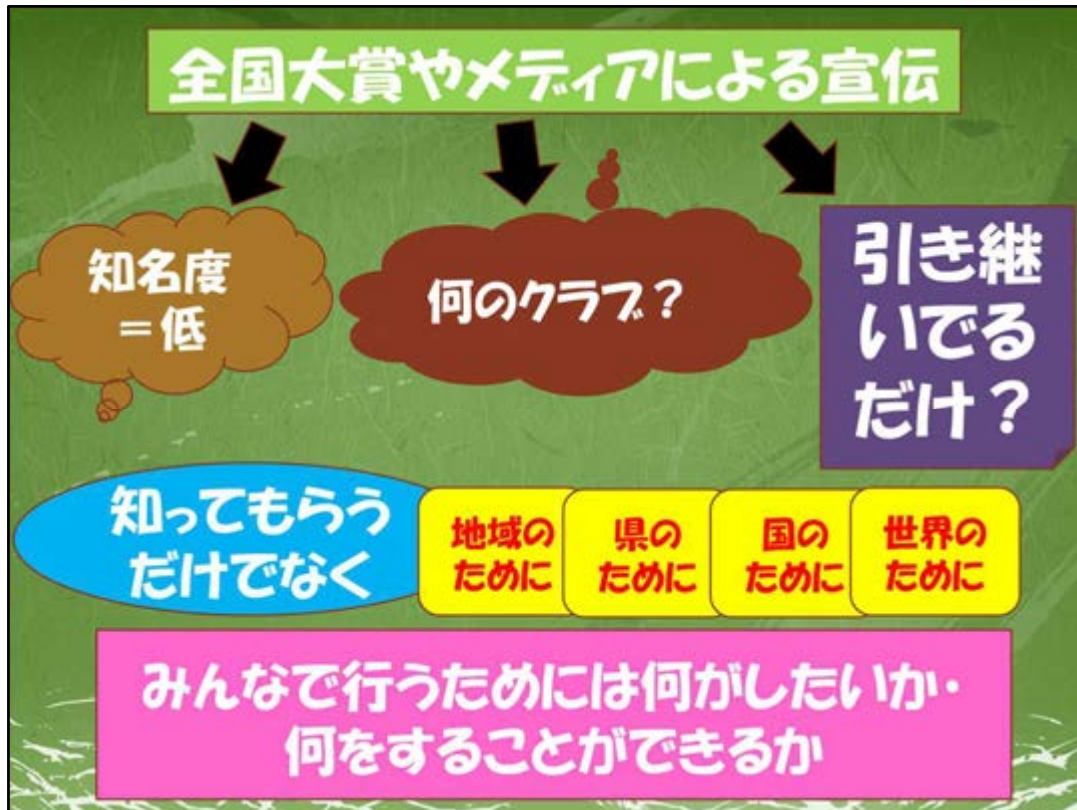
- 他世代に関心を持ち、思いやり、いたわる感性を養うことで意欲的に活動に取り組むことができた。
- 技術を実際の現場に生かすことで、自信や誇り、意欲の向上に繋がった
- 現場の方々と交流することで、社会的職業的自立の基盤となる能力や態度に身近に触れ、自己のキャリア発達に繋がった。
- 実際に多くの世代の方々と関わることで、社会性やコミュニケーション力が身に付いた。

従って、サービスラーニングは教科学習においても、サポーターズの実践と同様、これらの効果が現れていると考えられます。

・「町の職員としてぜひ採用したい」

・「今までは近隣の高校しか求人を出していなかったが、ぜひ熊野高校の生徒がほしい」

など、地元のあちらこちらでうれしい話が増えています。



全国的に表彰されたり、新聞にも取り上げられたりしてはいますが、サポーターズの知名度はまだ低く、近くの高校生は未だサポーターズが存在を知らない・何をしているのか分からないと聞きます。活動内容も先輩達から受け継いだものをそのまましているだけに感じます。みんなに知ってもらうだけでなく、同じような活動で地域のために・県のために・国のためにボランティアをみんなで行うためには何がしたいか・何をすることができるかを新しく考えたいと思いました。



そこで考えたのが「SDGsエス・ディー・ジーズ」です。エス・ディー・ジーズとは、Sustainable Development Goals の略称で、日本語では「持続可能な開発目標」と言います。エス・ディー・ジーズは、2015年の国連サミットで採択されたもので、2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた(かかげた)目標です。

SDGsに基づく地域貢献活動	
ボランティア活動	目標
◆高齢者の安否確認 ハートフルチェックボランティア	3.9  
◆学童保育ボランティア	1.3.4.5.9     
◆障がい児夏期保育ボランティア	3.4.9   
◆高齢者の転倒予防教室・ 生きがい活動ボランティア	3.9  
・障がい者支援施設 あすなろ平瀬の椰夏・冬祭り	3.4.8   
・ソロフチミスト 講演会&ダンス披露	4.5  
・和歌山FB社会人フットボール 応援ボランティア	8.9  
・「ドリーム・ナイト・アット・ ザ・スー」ボランティア	3.8.10   
・世界遺産熊野古道御創建2050年式 年例大祭ボランティア	8.9.15.16    

上富田町が目標として掲げている3[保健]については、6つの活動に当てはまる結果となりました。さらに、4の[教育]は4つ、5のジェンダーについては2つ、9の[インフラ、産業化、イノベーション]に関しては、6つのボランティア活動に当てはまっていることがわかりました。

パートナーシップで目標を達成しよう

**持続可能な開発
に向けて
パートナーシップ
を強化**

17 パートナーシップで
目標を達成しよう

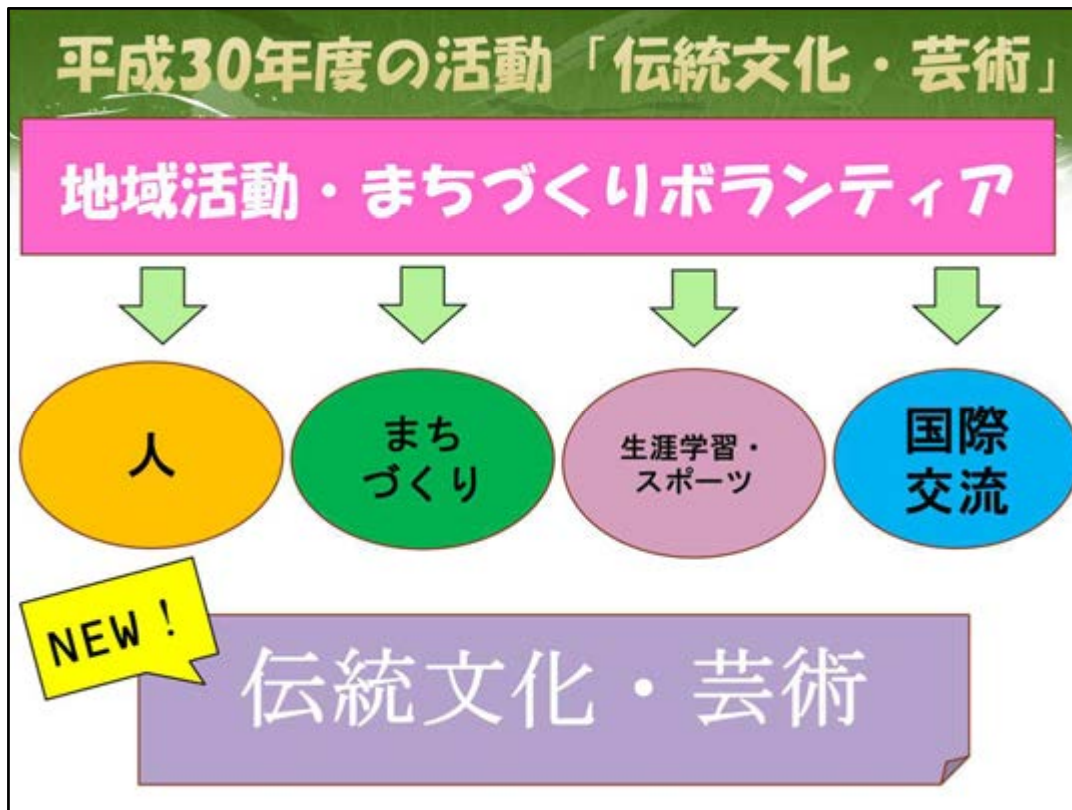


**すべての活動に
当てはまる**

人と人との関わり




さらに、活動のすべてに当てはまる項目が「17」の「パートナーシップで目標を達成しよう」という項目です。私たちのボランティア活動には必ず相手が存在します。事柄やものが対象ではなく、ヒューマン(人間)を相手にした活動です。関わりを持つことですべての活動を活性化させるこの目標にすでに突き進んでいることがいえます。



私たちの挑戦はまだまだ続きます。今までの地域活動やボランティアは、「人」「まちづくり」「生涯学習・スポーツ」「国際交流」などに関わる分野で、ともに協働しています。ここからさらに来年度、「伝統文化・芸術」に目を向けようと、さらなる一歩を踏み出そうとしています。

受け継がれる貢献活動

2018年計画

- ◆福知山公立大学2018 地域活性化策コンテスト『田舎力甲子園』応募6月
 - <2017年度 「佳作」受賞>
- ◆田辺市青少年国際交流協会「台湾」派遣事業 10名参加 7月27～8月2日
 - <台湾花蓮市災害復興支援>
- ◆福島県出会いふれあい体験事業 1名参加7月26～30日
 - <福島県南相馬市>
- ◆第42回全国高等学校総合文化祭 ボランティア部門 8月8・9・10日
 - <長野県駒ヶ根市>
- ◆高校生ボランティア・アワード2018 8月21・22日
 - <東京国際フォーラム>
- ◆1.17防災未来賞ぼうさい甲子園 2019年1月
 - <2017年 高校生部門 優秀賞>

どの先輩もなしえたことのない、新たな取り組みにこれからも挑戦していきたいと考えています。その活動がどの目標項目に当てはまるかを設定し、その目標に向かってアクションを起こし、終わったら活動を報告、他団体との交流やコミュニケーションを広げ、2030年までに多くの目標を達成する。これこそが私たちサポーターズリーダーに与えられた使命であり、この精神を後輩達にも受け継いで言って欲しいと思います。



ご清聴ありがとうございました。

命と文化が光る、笑顔の里づくりを目指して
～地域資源の発掘と、新たな農村経済のしくみづくり～

熊本県立菊池農業高等学校 農業科グリーンライフ研究班

農業科2年 高村 吉伸（タカムラ ヨシノブ）

農業科2年 磯田 優心（イソダ ユウシン）

農業科3年 樋口 陽介（ヒグチ ヨウヅケ）

熊本県菊池市泗水町吉富250

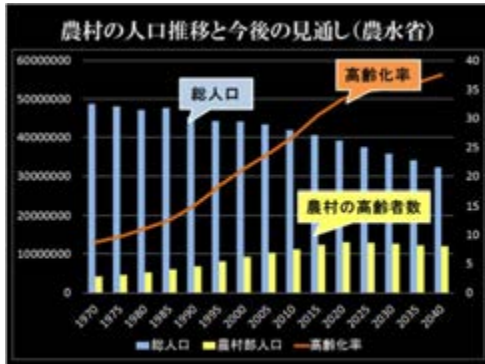
0965-38-2621

命と文化が光る、笑顔の里づくりを目指して ～地域資源の発掘と、新たな農村経済のしくみづくり～

2018年度 熊本県立菊池農業高等学校「グリーンライフ研究班」



1. 研究の動機、および目的



【↑農村の人口推移と今後の見通し】

今から約50年前の1960年代を境に、日本の人口は減少を続けています。特に農村部では高齢化や担い手不足が深刻で、人が住まなくなった中山間地では、食糧生産・環境の保全・文化の継承・人のつながりといった、農村が持つ大切な役割や、貴重な地域資源が失われています。こうした問題の解決のため、私たちグリーンライフ研究班では、「命と文化が光る、笑顔の里づくり」をテーマに、総務省の事業から独立した、菊池市の取り組み＝地域と学校とが協力する「域学連携」のメンバーとして、2014年から、農村に人を呼ぶ活動を続けています。

5年目に突入した本年、この「域学連携」の会議で、県外の参加者の方から、「取り組みは素晴らしい。でも、経済の流れをつくらないと、持続可能な集落として、農村を守ることはできませんよ」という指摘を受けました。

厳しい現実にも直面しながらも、関係者で話し合いを重ねた結果、これからは、農村部を維持するための、新しい仕事やお金の流れをつくる必要があると考えました。



「人が減って、年寄りばかりになった...でも、菊農生が来てくれるなら、頑張りたい！」

「田舎を走って盛り上げる、菊農の『農村アスロン』、うちの地域でもやってくれませんか？」活動の中、限界集落で聴かれないくつもの声が、農村の賑わいと、貴重な文化を守る、そんな私たちの原動力になっています。

2. 実施計画と、活動の流れ

《これまでの取り組み》

- 1年目...ヤギや固定品種による、昔ながらの農業の復活
- 2年目...文楽や神楽といった、農村芸能の継承
- 3年目...子どもたちを対象とした体験塾で、次世代の育成
- 4年目...若者のネットワークづくりと、経済効果の研究

科目「グリーンライフ」のもと、活動を続ける私たち。

本年は、「新たな農村経済のしくみづくり」のため、次の4つを行動目標としました。

【これまでの活動のようす↑→】





《本年の活動》

- ①課題を整理するため、クラス全体で考えることにしました。
- ②地域資源の発掘と、これを活かした経済の流れづくりに取り組みました。
- ③グリーン・ツーリズムの、旅行商品としての可能性を探りました。
- ④活動を広げるため、たてと横、それぞれのつながりを強化しました。

3. 研究結果

①課題の整理と、アイデアの提案…授業での公開討論会

10月からの農業科の授業で、公開討論会を実施。1年生では科目「農業と環境」・「植物バイオテクノロジー」にて、また2年生では「グリーンライフ」にて、「農村に、新たなビジネスを興そう」のテーマのもと、中山間地が抱える課題を整理し、共有することにしました。【パネルディスカッションのようす→】



パネラーの投げかけに、フロアからも反応があり、「菊池らしい素材を、探し出す必要がある」、「農村ならではの商売が成り立てば、人も集まってくるのでは？」など、今後につながるアイデアが飛び出し、研究への大きな刺激になりました！

②地域資源の発掘と活用…養蚕文化を活かした、伝統行事の保存



「菊池らしい素材」とは何なのか…討論会の意見をもとに考えてみましたが、私たちはまた別の壁にぶつかりました。新たな流れをつくるには、今あるものとは別の素材が必要です。

「農業に関わる、埋もれた素材はないか…」古い資料を調べるなか、学校創立100周年の記念誌に、ヒントを見つけました。もともと農蚕学校だった本校の周辺は、県内でも有数の、カイコ・絹糸の名産地だったのです。

【↑農蚕学校時代の実習風景】

地域資源である養蚕文化の発掘とグリーン・ツーリズムへの活用のため、現地調査・詳しい方への聴き取り・試験飼育をスタート。この中で、カイコが作る「まゆだま」を使った工芸品が、かつて人気のお土産品だったことを知りました。そこで、この「まゆだま」を活かして、経済面で地域に貢献しようと考えました。



【↑「蚕霊塔」での現地調査】



【↑泗水製糸場跡での聴き取り】



【↑カイコの試験飼育】

1月5日、3年間お手伝いを続けてきた、数百年の歴史を誇る地元の農村芸能「穴川夜神楽」への来場者の方を対象に、正月飾りを一緒に作る「まゆだまクラフト」を実施。社会福祉協議会やボランティア団体の皆さんと協力し、3時間でおよそ1万円の収益を得ることができました。

子どもから年配の方まで、幅広いお客さまに喜んでいただき、「1回200円でいいの?」「もう少し飾りをつけてくれたら、商品として、1つ1,000円で買いますよ!」といった声が聴かれ、価格設定を工夫することで、さらなる収益が見込めることを確認しました。



【↑大人気のまゆだまクラフト】



【↑収益金を夜神楽保存会に提供】



【↑クワの試験栽培も開始】

売上げは全て、夜神楽保存会に提供。主役の鬼神さんとして、舞い手も勤められた区長さんから、「高校生のアイデアで地域に貢献してもらっただけでなく、経済的な応援もいただき、ありがたい。大切にに使わせてもらいます」と言っていただき、小さな規模でも、経営・経済の新しい流れを創ることが、地元の伝統を守ることもつながると、実感しました。

5月からはクワの試験栽培も開始。隣町の山鹿市にて養蚕農家を営む、「お蚕ファーム」の花井さんとつながり、教材としての活用や、新しい工芸品の開発に向け、準備を進めています。

③旅行商品としての可能性を探る…『菊農発 農村滞在プログラム』の確立に向けて

2月以降は、都市部の若者や親子連れ、また復興ボランティアや外国からのゲストをターゲットとした、グリーン・ツーリズムによる旅行商品の開発に向け、動き出しています。

農作業とスポーツを組み合わせた菊農オリジナルイベント＝『農村アスロン』を軸に、固定品種の栽培・ヤギ飼育・養蚕・井手くんだり・神楽といった、農村体験のプログラムを、JA旅行部の皆さんに提案。日帰りで、4人家族を3組受け入れた場合、1回で最大12万円の売上げが期待できます。「若者のアイデアは貴重です。九州地区の会議に提出するので、企画書を作ってください！」とお願いしたので、企画書を作ってください！」とお願いしたので、商品化実現に、一歩近づきました。

JA菊池・農協観光
プログラムを旅行部に提案

【JAの農村体験】
1日平均：5,000～10,000円
4人家族 3組を受け入れ
農村滞在プログラム1回で
10,000×4人×3組

**最大12万円
の売上げ！**

若者のアイデアは貴重です。
九州の会議に提出するので、
企画書を作ってください！

グリーン・ツーリズムを軸とした旅行商品
の商品化実現に、一歩近づいた！

④たて横のつながりで活動を拡大…高大連携&域学連携の強化

縦のつながり「高大連携」と、横のつながり「域学連携」…2つを強化することで、活動を広げています。研究班OBで、東海大学『阿蘇復興への道』に所属する先輩と共に、福岡県で開催された「域学連携 合同報告会」に参加。全国に向け、活動を発信しました。

また、JA全中・毎日新聞主催、『高校生農業アクション大賞』では、この、たて横のつながりが評価され、3年間の支援対象に認定。活動資金20万円を獲得しました。

このほか、「くまもと農業アカデミー」やSNSでの情報発信、さらに「農家ハンター」の皆さんともつながり、里山の環境や生態系を守るための学習も進めています。



【↑域学連携合同報告会での発信】



【↑卒業生との連携で資金獲得】



【↑ジビエサミットへの参加】

4. 本年の成果と、今後の課題

今回の活動で、次の内容を達成しました。

- 授業での公開討論会により、活動の共有と、解決策の提案につなげました。
- 地域資源の発掘と、これを活かした収益金の提供により、伝統文化の保存に貢献しました。
- グリーン・ツーリズムの旅行商品としての可能性を探り、商品化への一歩を踏み出しました。
- 高大連携や域学連携の強化で活動を拡大し、情報を広く発信しました。

今後の課題として、

- 農家民泊や養蚕文化を活用した、農村滞在プログラムの確立と普及
- 持続可能な集落にするための、経済の流れづくりと里山保全
- 伝説や妖怪をモチーフにした、「クリプトツーリズム」の実践
- 活動の発展に向けた仲間づくりと、県外へのネットワークの拡大
といったことがあげられます。【文化の発掘と活用～まゆだまクラフト～→】



活動を通し、「若い力で、農村を守り、興す」という農業高校生の使命を、日々、実感しています。私たちはこれからも、100年後のふるさとのため、農村を舞台に、未来を語り継ぎます。



【↑域学連携の輪を拡大中！】



【↑JAの方々とは旅行商品開発中です】



【↑専攻生と2年生で頑張ります！】

福知山公立大学 2018 地域活性化策コンテスト「田舎力甲子園」募集要項

●趣旨：本学の位置する北近畿エリアをはじめ、全国の地方都市・農山漁村は何処も少子高齢化や地域経済の活力低下という問題に直面しているが、これら諸課題に対する解決策の一つとして「田舎」の持つ内発的発展力が注目されている。そこで「田舎力甲子園」と題して全国の高校生から地域活性化策のアイデアを募集し、優秀策を表彰することによって、広く啓発・普及を行う。

●主催：福知山公立大学「田舎力甲子園」実行委員会 ●後援：内閣府地方創生推進事務局・京都府・福知山市

●対象：全国の高校生（個人・グループいずれも可）等

●様式：論文・企画書・動画・アニメ等いずれも可、字数・枚数・分量も自由 ●言語：日本語もしくは英語

●表彰：最優秀賞 1組に賞状と副賞（旅行券または図書カード6万円分）
優 秀 賞 1組に賞状と副賞（旅行券または図書カード3万円分）
佳 作 若干組に賞状と副賞（旅行券または図書カード1万円）
奨 励 賞 若干組に賞状

●応募締切：2018年6月22日（金） ●結果発表：2018年7月6日（金） ●表彰式：2018年7月21日（土）

●審査基準：1.適合性 若い感性を活かした「ニッポンの田舎を元気にする」内容であること。
2.新規性 単なる事例紹介や既に発表された内容ではなく、一つ以上オリジナリティが認められること。
3.論理性 問題意識・論理展開・結論に無理や事実と誤認がないこと。
4.現実性 夢物語を描くだけでなく、経済面等での説得力も持ち得るリアリティの高い内容であること。
5.表現力 各言語・画像・映像・音声等それぞれ適正な使い方と効果的に表現されていること。

●実行委員：◎は委員長 ☆は副委員長 括弧内は（職名：専門分野）

井口和起◎（福知山公立大学 学長：歴史学）

塩見直紀☆（半農半X研究所代表・本学准教授：ローカルデザイン） 中尾誠二☆（本学教授：農村振興）

富野暉一郎（副学長：地方自治） 平野真（地域経営学部長：国際経営）

矢口芳生（地域経営学科長：農業経済） 芦田信之（医療福祉経営学科長：遠隔医療）

岡本悦司（教授：地域医学） 神谷達夫（教授：メディア情報工学） 齋藤達弘（教授：ファイナンス）

篠原正人（教授：海運経済） 谷口知弘（教授：コミュニティデザイン） 福島貞道（教授：景観政策）

三品勉（教授：事業戦略） 井上直樹（准教授：パブリックガバナンス）

加藤好雄（准教授：マーケティング） 佐藤恵（准教授：医療情報） 杉岡秀紀（准教授：公共政策）

星雅丈（准教授：地域医療福祉政策） 三好ゆう（准教授：地方財政） 江上直樹（助教：教育行政）

佐藤充（助教：地域産業） 張明軍（助教：インバウンド観光）

●応募方法：タイトル・学校名・学科名・学年・氏名（複数人の場合は代表者を筆頭に全員分）・フリガナ・電話番号を明記し、原則として電子メール添付ファイル等で提出。止むを得ない場合のみ郵送（返却希望の際は明記）。

●注意事項：他コンテスト等での過去受賞策につきましては無効となります。

応募内容は結果発表後に本学ホームページ等で公開する可能性があることを予めご了解ください。

《ご応募・お問い合わせ先》 〒620-0886 京都府福知山市堀3370 福知山公立大学「田舎力甲子園」実行委員会

Tel: 0773-24-7100 Fax: 0773-24-7170 Mail: inakaryoku@fukuchiyama.ac.jp